275.6
43

勞務者教育實施概要

文部省編

昭和八年度

275

昭和八年度

勞務者教育實施概要

文部省

帝國圖書館

昭和八年度

勞務者教育實施概要

275.6
43

發行所寄贈本

文部省

昭和九年 帝國圖書館

275.6-43

凡例

本輯は昭和八年度に於て實施せる本省主催勞務者教育施設の概要を記錄にとゞめ上梓せるものなり。近時勞務者教育の施設漸次其の體系を整備しつゝありと雖も、未だその內容方法等の諸點に至つては尙考究の餘地なしとせず。これ本輯を編みて斯教育進展の參考に資する所以なり。

昭和九年三月

文部省

目次

一、勞務者教育沿革概要(自昭和四年度至昭和七年度)……一
二、昭和八年度勞務者教育實施概要……二
一、勞務者輔導學級……五
一、實施要項……五
二、施設概覽……九
三、年齡別調……一〇
四、學歷別調……一一
五、職業別調……一二
六、府縣別實施狀況……一三
1、群馬縣……一三
2、埼玉縣……二一
3、東京府……二五
4、神奈川縣……三三
5、靜岡縣……四五
6、愛知縣……五七
7、大阪府……六二
8、兵庫縣……七七

9、福岡縣……八一
二、勞務者講座……八九
一、實施要項……八九
二、施設概覽……八九
三、年齡別調……九三
四、職業別調……九四
五、學歷別調……九五
六、府縣別實施狀況……九六
1、北海道……九七
2、神奈川縣……九七
3、新潟縣……一〇一
4、石川縣……一〇三
5、福井縣……一〇七
6、長野縣……一〇九
7、岐阜縣……一一三
8、愛知縣……一一七
9、京都府……一二三
10、大阪府……一二七
11、兵庫縣……一三三
12、和歌山縣……一三九
13、岡山縣……一四三
14、廣島縣……一四七
15、愛媛縣……一五一
16、福岡縣……一五五
17、長崎縣……一五九
三、勞務擔當者講習會……一六三
一、開催の趣旨……一七一
二、施設概覽……一七一
一、札幌市……一七一
二、名古屋市……一七一
三、福岡市……一七二
四、勞務者教育協議會……一七三
一、施設概覽……一七三
一、札幌市……一七七
二、秋田市……一七七
三、金澤市……一七七
四、神戸市……一七七
五、佐賀市……一七七
二、出席者……一七七

一、勞務者教育沿革概要（自昭和四年度至昭和七年度）……一七

一、勞務者教育沿革概要（自昭和四年度至昭和七年度）

我が國勞務者教育の現狀を觀るに近時時勢の進運に伴ひ、漸次發達を來したりと雖も、未だ改善考究を要すべきもの尠からず。加之現時の世相に鑑み多數の勞務者に對し、公民的教養を與へ、社會的訓練を施し以て健全なる思想を啓培し、公正なる識見を養ひ、又產業及職業上必要なる智識技能の增進を圖り、以て勞務者教育の圓滿なる發達を促進するは蓋し現下の急務に屬す。

本省に於ては昭和四年度以來優良なる民間勞務者教育既設團體に對し補助金を交付し、他方勞務者の密集地帶數ヶ所を選び、當該府縣又は市と協力して勞務者輔導學級を開設し來りたるが、昭和六年各種勞務者教育團體を聯絡輔導すべき中央機關として、日本勞務者教育協會を設立せしめ、以て斯教育の普及徹底を期せり。昭和七年度に及び、日本勞務者教育協會其の他優良なる勞務者教育施設に對し奬勵補助の途を講じて以て之が健全なる發達を勸奬すると共に他面從來の經驗に鑑み、全國に於ける勞務者の密集地帶貳拾數箇所を選び、當該府縣市又は該地所在の直轄學校に委囑して勞務者輔導學級（長期講習）及勞務者講座（短期講習）を開設し、或は東京、大阪、福岡の三市に勞務擔當者講習會を開催して以て勞務擔當者の教養の向上に資し、又名古屋、大阪、福岡三市に於て勞務者教育協議會を開催して斯教育の振興策につき協議せり。

二、昭和八年度勞務者教育實施概要

昭和八年度に於ては大體に於て前年度を踏襲し、本省の施設としては勞務者輔導學級、勞務者講座、勞務擔當者講習會、勞務者教育協議會の四を開催せり。各地共概ね關係者の熱心なる考究と斡旋とにより、地方の要求に吻合せる適當なる施設を開き、且官公私各種の團體、關係會社工場等よく之に協力便宜を與へたる結果、概ね堅實なる效果を擧げ、本施設に對する世人一般の要望益々普ねからんとする情況に在り。

其の實施概要左の如し。

一、勞務者輔導學級

一、勞務者輔導學級

一、昭和八年度勞務者輔導學級實施要項

一、趣　旨

一般勞務者の教養の向上の爲中堅勞務者をして更に健全なる公民たると同時に優秀なる產業人たらしむるを目的とす

此目的を達成する一方法として輔導學級式教育方法により成る可く少數の生徒と講師指導員が長期間に亘り一體となりて人格的結合を計り教育の徹底を期するを本旨とす

二、主　催

本學級は本省の施設にして之を府、縣、市、學校に委囑して實施するものとす

主催に關しては本省主催又は本省と府、縣、市、學校其他との共同主催となす

三、場　所

學校又は公會堂等適當なる場所

四、期日及會期

昭和九年二月迄の間に於て原則として一週二回夜間三時間宛九週間合計五四時間授業をなすを常例とするも地方の狀況に應じて本趣旨に背馳せざる範圍に於て適當に定むるも差支なきこと

五、生　徒

本學級の生徒たる優秀勞務者の選拔に關しては委囑先に於て關係官廳、各種團體、工場及鑛山等と緊密なる聯絡を保ち協議の上決定すること

一組の生徒は二、三十名を以て理想とするも都合に依りては凡そ五十名迄は採用するも差支なきこと

六、教授事項

時代の趨勢に鑑み國民の思想並生活の向上を期する上に緊要なる教養を授くることに留意し單に抽象的知識を與ふるの弊に陷ることなく實生活に卽することを旨とし左の八類中より成る可く普遍的に教授科目を選擇すること

第一類　日本國民精神
第二類　國　史
第三類　適正なる時事解說
第四類　道德、宗教、藝術
第五類　政治、法律、經濟
第六類　自然科學
第七類　生活及職業に關する指導
第八類　趣味娛樂保健に關する指導

尙授業の前後に於て體操及音樂を適宜加味すること

七、教授及訓練の方法

教授に當りては知識の注入に偏することなく勞務者の實生活に基く具體的事實を把へて教授をなし又授業中に必ず質疑應答の機會を設け講師生徒相互の人格的接觸により生徒の精神的修養並其の天分の啓發に努め且講師以外に指導員を置き講師の輔佐をなし教授及訓練の徹底を圖ること尙教授の外に茶話懇談會、映寫會、討論會、見學、遠足等を適宜開催すること

八、講師及指導員

講師は人格識見に優れ勞務者の生活に理解を持ち且斯教育に趣味を有する者を選び豫め必ず本省と合議の上決定し本省に於て本年度に限り勞務者輔導學級講師として囑託すること

指導員は講師の教授及訓練を助け兼て生活に對し適切なる指導を與へ得る者若干名を選び豫め必ず本省と合議の上決定し本省に於て本年度に限り勞務者輔導學級指導員として囑託すること

右の內官職を有せざる者に就ては必ず履歷書添付上申すること

九、修了證書

所定の事項を修了せりと認めらるゝ者に對しては本省より修了證書を授與するも差支なきこと

一〇、修了者の輔導

本教育は單に數ヶ月、數十回の教授訓練をなすのみを以て效果を擧ぐることは困難なるを以て本教育の修了

者の輔導には特に細密なる注意努力を拂ふこと

修了者の輔導には修了者と本教育に關係ある者を以て輔導學友會を組織し時々講師、指導員を交へて研究會懇談會、修養會等を必ず催すこと

一一、授業料　授業料等は之を徴せず

一二、委員及事務取扱

本施設の事務を處理するために必要あらば委員一人事務取扱二名又は三名を置き得ること、委員は府縣に在りては學務部長（市に在りては教育部局長）之に當るを常例とし事務取扱は府、縣、市、學校職員其他より適任者を選び豫め必ず本省と合議の上本年度に限り本省に於て之を嘱託すること

一三、本施設の計畫

府、縣、市、學校は本施設の實施計畫を定め豫め必ず詳細本省に合議すること

二、昭和八年度勞務者輔導學級施設概覽

委嘱先	開設地	會場	期間	科目數	延時間數	生徒數 申込者	許可者	修了者	皆出席者	修了歩合	關係者數 委員	講師	指導者	事務取扱
桐生高工	桐生市	桐生高等工業學校	三	八	六〇・五	三五	三五	二九	一〇〇・〇〇	—	六	二	二	二
埼玉縣	川口市	川口市隣保館	一六	九	五四	九〇	五〇	四三	八四・〇〇	一	一三	二	二	二
東京市	東京市（品川）品川區立正大學		一九	七	四七	八〇	四九	四四	八九・七八	二	七	一	二	二
	東京市（巢鴨）豊島區仰高等小學校		二〇	七	四五	五〇	三五	三二	八八・五七	二	七	一	二	二
	東京市（芝）芝區神明小學校		二〇	八	四七	八七	四〇	二七	八五・一二	二	八	一	二	二
	東京市（日本橋）日本橋區千代田小學校		一九	七	四五	七〇	四五	三三	九二・三二	二	七	一	二	二
横濱市	横濱市	横濱市幸ケ谷尋常高等小學校	一八	二	九三	七八	五〇	二四	一〇〇・〇〇	一	一二	二	二	二
静岡縣	濱松市	濱松高等工業學校	二三	三	五〇・五	六〇	六〇	六〇	一〇〇・〇〇	一	一三	三	三	二
清水市	清水市	清水市木材商組合事務所	一九	二	五六	九六	五四	五〇	九六・四三	—	二	三	二	二
愛知縣	名古屋市	昭和塾堂	一九	八	五二	四三	三五	三五	九三・〇三	一	八	二	二	二
大阪府	大阪市	大阪市立都島工業學校	二五	一〇	六四	一二四	六〇	五七	九五・〇〇	一	一〇	二	二	二
	大阪市	大阪府立西野田職工學校	二五	一〇	六四	一〇六	六〇	五五	九一・六六	一	一〇	二	二	二
神戸市	神戸市	市立葦合商工實修學校	一八	七	五四	八七	五〇	四六	九二・〇〇	一	七	二	二	二
福岡縣	久留米市	公會堂	二〇	三	五四	六二	六二	五九	九五・一八	二	三	二	二	二
合計	一〇	一四	二八三	二七	七〇二	一、〇五八	六五四	五八	平均九三・一四	一七	二八	二六	四〇	

三、昭和八年度勞務者輔導學級年齡別調

委囑先	開設地	生徒數	二十歳未滿	自廿一歳至廿五歳	自廿六歳至三十歳	自卅一歳至卅五歳	自卅六歳至四十歳	自四十一歳至四十五歳	自四十六歳至五十歳	自五十一歳至五十五歳	自五十六歳至六十歳	備考
桐生高工	桐生市	三五	五	一三	八	四	四	—	一	—	—	
埼玉縣	川口市	五〇	一四	一三	八	七	六	一	一	—	—	
東京市	東京(品川)市	四四	—	一四	一三	一〇	四	二	二	—	—	
	東京(巣鴨)市	三一	—	七	八	九	三	二	二	—	—	
	東京(芝)市	四〇	—	一九	六	九	五	一	—	—	—	
	東京(日本橋)市	四一	—	一五	九	八	七	二	—	—	—	
橫濱市	橫濱市	五〇	一	八	六	一七	一三	三	一	—	一	
靜岡縣	濱松市	六〇	五	二四	二〇	六	三	二	—	—	—	
清水市	清水市	五六	六	一四	一六	一一	五	三	一	—	—	
愛知縣	名古屋市	四三	五	一四	九	七	五	二	一	—	—	
大阪府	大阪(都島)市	六〇	—	二一	二四	一三	二	—	—	—	—	
	大阪(西野田)市	六〇	—	二三	二一	一三	三	—	—	—	—	
神戸市	神戸市	五〇	—	一五	一四	六	五	九	一	—	—	
福岡縣	久留米市	六二	三	一九	二七	一〇	二	一	—	—	—	
合計		六八二 100%	三九 六%	二一九 三二%	一八八 二七%	一三〇 一九%	六七 10%	二六 四%	一〇 一・五%	—	一 〇・五%	

四、昭和八年度勞務者輔導學級學歷別調

委囑地	開設地	不就學者	小學校半途退學	尋常小學卒業	高等小學卒業	補習學校卒業	中等學校半途退學	中等學校卒業	專門學校半途退學	專門學校卒業以上	計	備考
桐生高工	桐生市	—	—	五	一二	九	一	八	—	—	三五	
埼玉縣	川口市	—	四	二四	一三	四	三	二	—	—	五〇	
東京市	東京(品川)市	—	—	三	二〇	七	五	八	—	一	四四	
	東京(巣鴨)市	—	—	五	一七	二	二	三	—	二	三一	
	東京(芝)市	—	—	七	一五	六	四	六	—	二	四〇	
	東京(日本橋)市	—	—	八	一九	五	二	七	—	—	四一	
橫濱市	橫濱市	—	二	九	二七	五	二	二	—	三	五〇	
靜岡縣	濱松市	—	—	六	三七	四	一	一三	—	—	六〇	
清水市	清水市	—	—	一一	三二	三	二	八	—	—	五六	
愛知縣	名古屋市	—	—	一三	一三	三	—	一五	—	—	四三	
大阪府	大阪(都島)市	—	—	八	二五	四	三	一八	—	二	六〇	
	大阪(西野田)市	—	—	七	二九	—	七	一六	—	一	六〇	
神戸市	神戸市	—	—	一三	一五	八	四	一二	—	—	五〇	
福岡縣	久留米市	—	—	一〇	三八	—	四	一〇	—	—	六二	
合計		—	六 〇・九%	一三七 一九%	三一二 四六%	六〇 九%	四〇 六%	一二六 一八%	—	二 一・一%	六八二 100%	

五、昭和八年度勞務者輔導學級職業別調

委囑先	開設地	窯業	金屬工業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	皮革骨木竹類等工業	飲食品嗜好品業	被服身ノ廻品製造業	土木建築業	製版印刷製本業	學藝娛樂裝飾品業	瓦斯電氣業	鑛業	交通輸業	其ノ他	計	備考
桐生高工	桐生市	—	—	六	三	一五	—	—	一	—	—	一	—	一	—	—	八	三五	
埼玉縣	川口市	—	三八	五	—	—	—	—	二	二	—	—	—	—	—	—	三	五〇	
東京市	東京市（品川）	—	六	三	五	四	—	—	二	—	—	三	—	二一	—	—	—	四四	
	東京市（巣鴨）	—	二	四	—	六	—	—	—	—	—	二	—	—	—	—	八	三一	
	東京市（芝）	—	一三	四	三	一	二	一	—	—	—	一	—	八	—	—	八	四〇	
	東京市（日本橋）	—	三	一〇	一八	—	—	一	—	—	一	—	—	一	—	—	七	四一	
横濱市	横濱市	—	四	一〇	—	四	—	—	一二	—	四	—	—	二	—	四	一二	五〇	
靜岡縣	濱松市	—	—	三六	四	三	—	—	八	四	—	五	—	—	—	—	—	六〇	
清水市	清水市	—	一	四	—	—	—	二四	八	—	—	—	—	四	—	一二	四	五六	
愛知縣	名古屋市	—	—	一六	六	一五	—	—	二	—	—	四	—	—	—	—	—	四三	
大阪府	大阪市（都島）	—	五	三	一五	一〇	—	一	三	五	—	六	—	二	—	三	—	六〇	
	大阪市（西野田）	—	二一	一三	六	六	—	三	—	三	—	三	—	三	—	一	一	六〇	
神戸市	神戸市	—	二一	一七	四	六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	五〇	
福岡縣	久留米市	一	—	—	二	二	—	二	一	四五	—	—	—	—	—	—	—	六二	
合計		一 0・一%	一三二 一七・八%	一三一 一九%	七九 一二%	七二 一〇%	二 0・三%	三二 五%	三八 六%	五九 八・三%	五 0・七%	二五 三・九%	—	四二 六・一%	—	一九 二・八%	五五 八%	六八二 一〇〇%	

六、昭和八年度勞務者輔導學級開設府縣別實施概況

群馬縣

委嘱先　桐生高等工業學校

開設地　桐生市

施設概覽

委囑先　桐生高等工業學校

開設地	會場	期間	科目數	延時間數	生徒數 申込者	生徒數 許可者	生徒數 修了者	生徒數 皆出席者	生徒數 修了歩合	關係者數 講師	關係者數 委員	關係者數 指導員	關係者數 事務取扱
桐生市	桐生高等工業學校	自八年十月三日至同十二月十四日	八	六〇、五	三五	三五	三一	二九	一〇〇	六	一	二	二

備考　事務取扱者（一）ハ指導員兼務ヲ示ス

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回數	時間數	備考
桐生市	自八年十月三日至同十二月十四日 每週火、木曜 自午後六時至同九時半	政治法律	前文部省實業學務局長 木村正義	二	六	
		道德宗教	桐生市淨運寺住職 野口周善	三	九	
		經濟	拓殖大學教授 川西正鑑	二	六	
		時事解說	桐生高等工業學校長 西田博太郎	三	九	
		生活及職業ニ關スル指導	同	三	九	
		課外講義	同	二	六	
		日本國民精神	桐生工業學校教授 長屋敏郎	四	一二	
		音樂指導	桐生高等女學校教諭 中島房子	一七	四、一五	
		保健體操	桐生高等工業學校助教授 淺香信太郎	一七	四、一五	

同	桐生高等工業學校	一七	四、一五		
見學	嘱託 千明勇雄				
一泊修養旅行	中島飛行機製作所	一			
	妙義神社	一		妙義神社々務所ニ合宿宮司ヨリ妙義神社由來並ニ敬神崇祖ニ關スル講話アリ	

備考　音樂ハ第一限終了後、體操ハ授業終了後各十五分間宛行フ

年齢別調

桐生市	生徒數	開設地	生徒數	自至	備考
	三五		五	二十歳未滿	
			一三	自二十一歳至二十五歳	
			八	自二十六歳至三十歳	
			四	自三十一歳至三十五歳	
			一	自三十六歳至四十歳	
			一	自四十一歳至四十五歳	
			一	自四十六歳至五十歳	
			一	自五十一歳以上	

學歷別調

桐生市	生徒數	開設地	生徒數	備考
	三五		一	不就學者
			一	小學校半途退學
			五	尋常小學校卒業
			一三	高等小學校卒業
			九	補習學校卒業
			二	中等學校半途退學
			八	中等學校卒業
			一	專門學校半途退學
			一	專門學校卒業以上

職業別調

桐生市	生徒數	開設地	生徒數	備考
	三五		一	窯業
			一	金屬工業
			六	機械器具製造業
			三	化學工業
			一五	纖維工業
			一	紙工業
			一	皮革骨角類甲工業
			一	飲食嗜好品工業
			一	被服身廻リ品製造業
			一	土木建築業
			一	製版印刷業
			一	製本業
			一	裝飾藝娯樂品業
			一	瓦斯電氣業
			一	鑛業
			一	交通運輸業
			八	その他ノ業

一、本施設ノ準備、狀況、效果等ニ關スル一般ノ事項

一、生徒ノ選定方法

從業員二十人以上ヲ有スル會社、工場及隣接町村長ニ當施設ノ内容ヲ說示シ併セテ優秀ナル中堅勞務者一名宛推薦セラレタキ旨ヲ通知シ其推薦ヲ俟テ詮衡ノ結果三十五名ヲ選拔シ入學セシメタリ

二、教育方針ト學科目ノ選定

文部省ノ方針ニ基キ學科ハ日本精神ヲ養ヒ思想ノ善導ヲナシ、政治、法律、經濟、道德、宗教、生活及職業ニ關スル指導中正ナル時事ノ解說等自治市民トシテ將又中堅勞務者トシテ必須ナル教養ヲ與ヘ尙體育、音樂ヲ加ヘ身體ノ鍛練ト情操涵養トニ資スベク別紙ノ如キ學科及講師ヲ選定シ其筋トノ合議ヲ經テ實施セリ、特ニ講義ニ對スル質疑應答ノ時間ヲ與ヘシコト、茶話懇談會ヲ開キ感想ヲ述ヘシメテ適當ナル指導ヲ行ヒ、又期間中妙義神社ニ一泊修養ヲ、中島飛行機株式會社工場ヲ見學セシメテ科學ノ進步、發明研究ニ關スル氣分ノ釀成等ニ資スル處アラシメタリ

三、會場ハ本校教室ヲ使用セリ、尙豫テ實施計畫書ニ示セル如ク特ニ講師ト生徒トノ接觸ハ本學級趣旨ノ達成上寔ニ緊要ナルヲ思ヒ適當ナル小教室ヲ選ミ、且ツ氣分ヲ倦マザラシムル爲メ時々教室ヲ變更シテ新味ヲ與ヘタリ

四、實施ノ狀況

1・始　業　式――十月三日午後六時於講堂、學校長、講師、指導員及事務取扱者列席指導員ノ合圖ニヨリ一同起立シ音樂講師ピアノ彈奏ノ下ニ國歌ヲ二回合唱シ次デ學校長登壇、開講ノ趣旨及使命、本邦資本家、產業人、勞務者峯ノ統計勞資ノ大勢等ニツキ式辭ヲ兼ネ時事解說ノ授業ヲナス、終テ指導員ヲシテ左ノ注意ヲ與ヘシム

イ、生徒總代二名ヲ指名ス

ロ、每日ノ出缺調査ハ最後體操時ニ於テナスコトヽス

ハ、音樂ハ第一時限終了後直ニ行フ教室變更ノ通達ハ其都度教室入口ニ揭示ス

2・修　了　式――十二月十四日午後六時於講堂、學校長、來賓。日本勞務者協會中込主幹、講師、指導員及事務取扱者列席學校長ヨリ式辭ヲ兼ネタル「勞働組合運動ト其歸趨」ニ關シ勞資協調ノ實行方法ニツキ最モ穩健妥當ニシテ而カモ相互ニ誠ヲ以テ認識シ反省シ和衷協同現下ノ我產業ノ隆興ヲ期スヘキ具體方法ヲ訓ユ、終テ修了生三十五名ニ修了證書ヲ授與ス、續テ修了生總代ヨリ慇懃ナル答辭アリ、次ニ修了生ノ催セル謝恩茶話會ニ移リ懇談中修了後ノ輔導ニ關シ生徒ノ希望ヲ斟酌シテ別項ノ如キ輔導計畫ヲ決定ス、次テ感想希望、考案發表等懇談ヲ盡シ他日ノ飛躍ヲ期シテ午後十時散會セリ

五、效　果

1・講師ハ執レモ人格識見ニ優レ能ク當地方勞務者ノ實生活ヲ理解シ、蘊蓄セル知識ト經驗トヲ有シ且シ懇切ニシテ講義内容モ充實シ、生徒モ亦優秀者ヲ選ミタルヲ以テ其效果ニ於テモ文部省當局ノ期待セラルル目的ヲ達シタルモノニ近シト認ム

2・當地方主ナル産業最近ノ業態ヨリシテ生徒ノ出席動情等ニツキ當初多少ノ懸念アリシニモ拘ラス能ク不撓ノ努力ヲ傾倒シ佳良ノ成績チ示シ得タルハ本學級ニ於ケル生徒各自ノ知見ト人格ノ向上セルヲ自覺セル證左ト見ルヲ得ベク是ニ見ルモ多大ノ效果ヲ擧ゲ得タルモノト信ズ

六、講義ニ對スル質疑應答ノ内容生徒ノ感想、論文、演習等ニ關スル報告

講義ニ對スル質疑ハ數回アリシモ何レモ穩健眞摯ニシテ眞ニ自己ノ知識ヲ附殖セントシ、茶話懇談會等ニ於テ多數發表セル情想ニ就テ聞クモ極メテ着實ナル思想ニ立脚シ、斯カル施設ノ恩惠ニ浴シ得タルヲ執レモ感謝シ是ニ酬ユル處アラントスルノ氣概ヲ認メタリ

（追テ妙義山一泊修養、中島飛行機工場見學ニ於ケル感想、紀行及該施設ヨリ得タル感想等筆記セシメタルモ不遠整理ノ上冊子ニ綴リ報告セントス）

七、懇談會、討論會、遠足、見學等ニ關スル報告

イ、開期中懇談會二回（討論會ハ行ハズ）遠足一回、見學一回ヲ實施ス

妙氣神社晨光閣ニ根ケル懇談會ニハ横尾宮司、日本勞務者敎育協會内野幹事、指導員二名、事務取扱者二名本校授業囑託一名列席シ生徒全部ノ自己經歷紹介、感想ノ吐露、授業上ヨリ得タル感激、自己生活ノ反省、將來ニ對スル希望等何レモ臆面ナク發表セリ

第二回ハ日本勞務者敎育協會支部桐友會秋季總會ト共ニ併催シ學校長ヨリ時事解說トシテ獨逸現下ノ國狀ヨリ列國ノ大勢ニ及ビ延ヒテ吾人勞務者ノ踐ムベキ道ニツキ指針ト覺悟トヲ與ヘタリ（マネジメント社發行、書名「他山ノ石」内容獨逸人ノ奮闘外九項ヲ收メシモノ各一部宛配付セリ）續イテ中込主幹ヨリ賴三陽ノ勤儉ニツキ日本外史編著ニ關シ幕府ヨリノ歷追ヲ顧慮シ最後ノ場合ニ於ケル糊口ノ資ヲ蓄フル爲メ積極的方法ヲ以テ勤儉貯蓄セルコト等引例シテ極メテ興味深キ且ツ他日飛躍スベキ吾人勞務者ニ誠ニ有益ナル講話アリ、尚生徒中自己考案ニ係ル燃料二重利用釜ニ就テ巧妙ナル其考案ノ發表等アリ極メテ有益ナル一夕ノ懇談チ遂ゲテ會ヲ閉ヂタリ

ロ、遠　足

十一月四日(土)、五日(日)ニ亘リ妙義神社晨光閣ニ於テ遠足兼一夜修養ヲ擧行セリ、當地主要産業タル機業ノ景況活氣ヲ呈シ極メテ多忙ナルニモ係ラズ一名ノ缺席者ヲモ見ズ、午前七時本校庭ニ集合指導員ノ點呼、裝備其他ノ注意事項、配車等遺憾ナキ手配ヲ了ヘ八時三輛ノ大型自動車ニテ出發ス、伊勢崎、前橋、高崎、板鼻、安中、松井田ノ各市ヲ經テ午前十一時妙義町ニ達ス、旅裝ノ儘直ニ神社ニ參拜シ神官及宮司ノ出迎ヲ受ケ社務所ニ入リ滯在間ノ行事打合セチナス、豫メ群馬縣知事ヨリノ依賴ニヨリ一行ノタメ準備到ラザルナシ、晝食後社前ニ於テ撮影直ニ全員白雲山大ノ字ヲ踏破ス午後三時半下山旅裝ヲ解キ晨光閣ニ入ル、（晨光閣ハ明治維新當時上野一品親王家ニ於テ戰亂御避難ノタメ建築仰セ付ケラレシモノト聞ク爾後春秋御用邸ノ如ク各宮家ニ於テ御使用セラレシモノ）夕食後體操ヲ行ヒ、横尾宮司ヨリ妙義、碓水ニ於ケル日本武尊ノ古實、白雲、金洞、金鶏各山ニ就テノ神秘、傳說併セテ敬神崇祖ハ國體ノ精華ニシテ國民ノ使命ナリト深キ感銘ヲ與ヘタリ、續イテ淺香指導員ヨリ成功事實美談「人生ノ萬事努力ヲ以テ解決シ得ザルコト一事トシテ無シ」並ニ内野幹事ヨリ有益ナル實例修養談及係員、生徒全般ノ自己經歷紹介ヨリ各種感想、所感、希望等述ブル處アリ、終テ室内スポーツ體操、江間式脫式健康法ヲ行ヒ午後十時寢ニ就ク

五日午前六時起床、洗面後社前ニ整列宮城遙拜、神社參拜、保健體操ヲ行ヒ朝食後旅裝ヲ整ヘ隊伍ヲ組ミ指導員案内ノ下ニ中ノ岳（金洞山、往復凡五里）ニ登山各石門奇景奇勝ヲ踏破シテ午後三時下山社務所前ニ集合宮司ヲ中心ニ撮影後一同隊列ヲ整ヘ宮司ニ鄭重ナル挨拶ヲ述ベ神社參拜シテ四時往路ヲ繰返シテ歸路ニ就ク六時半歸校ス、心身ノ修養ハ素ヨリ思想、情想ノ涵養ニ多大ノ效果アリシヲ疑ハズ

八、見　學

十二月十日(日)科學ノ進歩、發明、研究ノ氣分醸成ノ目的ヲ以テ豫メ監督官廳タル陸軍省海軍省ノ見學認可證ヲ得テ上毛太田町中島飛行機株式會社工場ヲ見學ス、止ムヲ得サル事故ノタメ三名ノ缺席者ヲ見タルハ遺憾ナリ、妙義山遠足ト等シク午前七時校庭ニ集合シ諸準備ヲ整ヘ大型自動車二輛ニ分乘シ八時出發九時工場着、本校機械科卒業生ニシテ在職技術員タル三名ノ案内ニテ二隊ニ別レテ新舊工場ヲ仔細ニ見學シ正午一同事務所前ニ整列シ係員ニ挨拶ヲナシ義貞ノ碑銘ヲ讀誦セシメ併セテ城趾ニツキ遺蹟偲ビ盡忠愛國ノ思想鼓吹ニ效果アラシメタリ、而シテ印象ヲ深メシムルタメ社前ニ於テ記念撮影ヲナシ往路ト等シク二輛ニ分乘、三時半歸校シ主要事項ヲノートシ置クベク注意ヲ與ヘテ解散セリ

八、本施設修了者ニ對スル輔導計畫ノ報告

本學級修了者ノ輔導ニ就テハ前年勞務者敎育短期講習會修了者約二百名ヲ以テ組織セル日本勞務者敎育協會支部桐友會ノ役員ヲ擔當セシメ同規約中若干ノ改訂ヲ加ヘテ此規約ヲ援用シテ時々講師、指導員ト終始接觸セシムル機會ヲ與ヘ適切ナル指導誘掖ヲ倘修了後ノ輔導計畫及當修了者ノミノ會ノ組織ニ關シ修了式當日茶話會席上ニ於テ修了者ヨリ各種ノ希望アリ依テ學校當局トシテハ輔導ニ關シテハ前項ノ如ク桐友會ト同時ニ指導誘掖スベキコト會組織ニ方リテモ桐友會ト竇志ノ疎通ヲ缺カザルヤウ聯絡等ヲ考慮シ凡テ桐友會ニ入會スベキコトヲ勸說シタルニ一同之ヲ諒トシ異議ナク全員桐友會ニ入會スルコトトナレリ

倘桐友會員ニ於テモ小地區ニ於テ更ニ桐友會ノ支部ヲ設ケ現ニ發會式ヲ擧ゲ、本校長西田校長、桐生織物同業組合彦部組長等地方産業上ノ權威者ヲ聘シ講演會ヲ催シ會員以外ノ希望者ヲモ聽講セシメ將來ニ向テ相當ノ抱負ト堅固ナル基礎トヲ築カント努力中ナリ、倘前記新宿支部發會ニ刺激セラレ他ノ地區ニ於テモ支部ヲ開設シ研究ヲ進メントセル氣運擡頭セルハ誠ニ悦バシキ趨勢ニシテ斯カル小地區支部ニ對シ講

師ヲ派遣シ指導誘掖スルコトヲ得バ果シテ其效果モ多大ナルベク本校トシテモ此氣分醸成ニ相當力ヲ盡シ居レリ

尙卒業後ノ輔導ハ最モ重要ナル事業ニシテ此輔導ニ依テ初メテ終局ノ目的ヲ達シ得ベキモノト思考ス故ニ本校トシテハ文部省當局及日本勞務者教育協會ノ援助ヲ得テ是レガ輔導ヲ繼續シ且ツ此種會員ヲ多數養成シ地方産業ニ貢獻スベク期シ居レリ

九、本施設ニ對スル會社、工場管理者並ニ一般社會ヨリノ感想批評ノ報告

學科ト共ニ生活訓練(生活及職業ニ關スル指導、ヲ併セ行ハルルコト最モ可、屋次數回ノ斯種講習ニ於テ經驗セラレタル爲メカ講師ノ講義要領離解ニ亘ラズ生徒ノ咀嚼氣味ニ苦シマザルコト最モ可

期間永キト始業時間早キ爲メ工場中堅者ヲ早退セシメテ登校ナラシムルコト困難ヲ感ジタリ

一般社會モ漸次斯教育ノ重要性ヲ認識セルモノノ如ク正式入學許可者以外會社工場ノ中堅者ニシテ傍聽ヲ希望セル者數氏アリシヲ以テ本校トシテハ喜デ便宜ヲ計リタリ尙、一工場一名宛ノ範圍ヲ擴大シ二三名宛採用セラルレバ事故缺席ノ場合他ノ者ノ筆記ヲ借覽シ補フコトヲ得ルヲ以テ次回ニハ人員ヲ增加セラルルコトヲ希望ス

六、講師、指導員、事務取扱者ノ感想報告

一、講師ノ感想

生徒ノ熱心ナリシコトニ長歎セリ

生徒ノ素質良カリシ爲メ講義咀嚼ノ程度豫期以上可良ナリシコトヲ喜ビ居レリ

質疑ノ穩健眞摯ナリシニ見ルモ思想ノ堅確ナルヲ認ム故ニ愉快ニ授業スルコトヲ得タリ

學力程度ノ稍等シキモノノミ入學セシムルヲ得バ更ニ效果ヲ擧ゲ得ベシ

二、指導員及事務取扱者ノ感想

講師ノ熱心ナルタメ不知不識授業時間延長セラレ次時擔當者ノ時間ニ喰込ミタルコトニ就キ次回ニハ一考ヲ要ス

生徒ノ素質ヲ選ミタル結果他ノ講習ニ於ケル如キ「喧噪」「世話」「面倒」等雜事ノ煩ヒ少ナク時間觀念、集合第亦極メテ可良ナリシヲ認ム

入學當時ノ態度ト卒業時ノ態度ノ變レルニ一驚セリ敎育ノ力ノ偉大ナリシヲ認メ得タリ

僅々三ケ月ノ接觸ナルモ生徒ト指導員トノ關係極メヲ親密トナレリ、身上ノコトニ迄相談シ來ル如クナレリ、相互ニ於ケル溫情、和協融和等誠心誠意ノ發露ト見ルヲ得ベク特ニ感慨深シ

機業地タル當地方ニ將來當輔導學級修了者二百名散在スルニ及バヾ勞務者ノ素質善化、善導ニ寄與スル處亦大ナルベク思想風紀ノ改善向上モ期シテ得ラルベキヲ信ズ

三、生徒ノ感想

一般ニ斯カル施設ノ恩惠ニ浴シタルコトヲ異口同音ニ喜ビ居レリ尙「吾々ハ此施設ニヨリ初メテ明ルキ社會ヲ見出シタリ」ト極言シ居ル者アリ、講師及係員ノ溫情、懇切、熱心ナルニ感激シ居レリ

時事問題解說、道德ト宗敎共ニ吾々工場勞働者ニ一點ノ光明ヲ與ヘラレ人間生活ノ潤ヒヲ味ヒ得タリ

將來ハ實施ノ季期ヲ八月頃迄ニ修了シ得ル如ク願ヒタシ工場賃銀(請負)ノ關係上、日永ノ時間ナラバ歸宅後殘業ニ携ハルヲ得ベシ

追テ生徒ノ筆記感想ハ不遠整理シ印刷ノ上報告ノ豫定ナリ

一一本施設ノ委員委員指導員事務取扱ノ職氏名

委員

桐生高等工業學校長　西田博太郎

指導員

桐生高等工業學校助敎授　淺香信太郎　同　講師　千明勇雄

事務取扱

桐生高等工業學校助敎授　淺香信太郎　同　書記　天笠政次郎

同　書記　並木久吉

以上

埼玉縣

委嘱先　埼玉縣
開設地　川口市

施設概要

委囑先　埼玉縣

開設地	會場	延回數	科目數	延時間數	生徒 申込者	生徒 許可者	生徒 修了者	生徒 皆出席者	生徒數	關係者 講師	關係者 委員	關係者 指導者	關係者 事務取扱	期
川口市	隣保館	一八	九	五四	九〇	五〇	四三	六	八四、〇〇	二三	一	二	三	

修了者ハ九日以上ノ出席者ナリ

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回數	時間數	生徒數	備考
川口市	九月二十五日（月）午後六時ヨリ九時迄	政治	埼玉縣學務課長 大森通孝	一	三	五〇	
	自九月二十六日（火）至九月二十八日（木）每夜六時半ヨリ九時半迄	宗教道徳	社會教育家 本間俊平	三	九	五〇、四八	
	十月三日（火）十月四日（水）十月七日（土）每夜六時半ヨリ九時半迄	國史	埼玉縣師範學校囑託 川口彙雄	三	九	四〇、三五	
	自十月九日（月）至十月十一日（水）每夜六時半ヨリ九時半迄	經濟	中外商業新報社經濟部長 小汀利得	三	九	五〇、四九	
	自十月五日（木）至十月六日（金）	時事解說	東京帝國大學服務 陸軍歩兵大佐 沼田德重	二	六	四八、五〇	
	十月十三日（金）午後六時半ヨリ八時迄	修養	川口第一小學校長 廿樂雪之丞	一	一、五	四五	

十月二日(月)午後六時半ヨリ九時半迄	近代生活と偉人的要素	日本勞務者教育協會主事 中込本治郎	一	三	四六		
十月十二日(木)午後六時半ヨリ九時半迄	產業人ノ生活	日本勞務者教育協會常議員 氏家貞一郎	一	三	四九		
十月十三日(金)午後八時ヨリ九時半迄	自然科學通俗醫學	川口市長醫學博士 岩田三史	一	一、五	四八		
十月二十日(金)午後六時半ヨリ九時半迄	通俗科學	川口市教務課長 長谷伊八	一	三	四五		
十月十六日(月)十月十八日(水)每夜六時半ヨリ九時半迄	日本精神	社會教育主事 中原英壽	二	六	四五 四八	外ニ三〇名宛ノ聽講アリ	
全期中每夜十二分宛	音樂體操	川口第一小學校訓導 金子正勝	一〇	二	前出		

備考　期間中文部省社會教育局長關屋龍吉並文部省囑託彥坂伊太郎ノ科外講演アリ

年齡別調

開設地	二十歲未滿	自二十一歲至二十五歲	自二十六歲至三十歲	自三十一歲至三十五歲	自三十六歲至四十歲	自四十一歲至四十五歲	自四十六歲至五十歲	自五十一歲至五十五歲	自五十六歲至六十歲	計	備考
川口市	一四	一三	八	七	六	一	一	一	一	五〇	

學歷別調

開設地	不就學者	小學校半途退學	尋常小學卒業	高等小學卒業	補習學校卒業	中等學校半途退學	中等學校卒業	專門學校半途退學	專門學校卒業以上	計	備考
川口市	一	四	二四	一三	四	三	二	一	一	五〇	

職業別調

開設地	窯業	金屬工業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	皮革骨甲木竹類等工業	飲食料品嗜好品業	被服身廻品製造業	土木建築業	製版印刷本業	學藝娛樂裝飾品業	瓦電氣斯業	鑛山業	交通運輸業	其他	計	備考
川口市	一	三八	五	一	一	一	一	二	二	一	一	一	一	一	一	三	五〇	

一、準備施設狀況及ビ效果ニ關スル一般的事項

1・昭和八年八月二十日川口市當事者ト開催ニ關シ打合セヲナシ九月四日川口市役所ニ於テ市長、助役、川口市內各小學校長、警察署長、協調會川口支部、鑄物組合長、教育會長、商工會長、社會事業協會、曉鐘會役員等會合左ノ事項ニ付協議ス

イ、日程　ロ、時刻　ハ、講習所ノ決定及設備　ニ、講習員ノ募集及選定方法

2・講習開催

講習員ノ出席良好ナリ又本講習ノ修了者ヲ以テ組織セル曉鐘會ノ會員ハ每夜二〇名乃至四十名出席聽講シ講習員ニ對シ範ヲ示シ且ヨク斡旋ノ勞ヲ取ル、工場主及市ノ有力者モ參列シ講習員ノ眞摯ナル態度ニ感心セリ

3・曉鐘會ハヨク自覺シテ每月定例集會ヲナシテ修養ニ努メ漸ク市民ニ著目セラル

4・本年ノ講習會員中ニ二名ノ勞働組合員ヲ入レタルガ熱心ニ聽講シ講師本間俊平氏ノ熱烈ナル指導ニハ相當良影響ヲ及ホセルガ如シ

二、質疑應答及講習員ノ感想

曉鐘會員ガ眞面目ニ聽講シ講義修了後熱心ニ質問ヲナスモノアルニ依リ講習員モ相當之ニナラヒテ勉强シタリ

講習員ハ本講習ニ對シテ頗ル感謝シ居リ每年實施セラルヽ樣切望シ居レリ

川口市ノ一年中ノ盛ンナル祭典ノ翌日缺席多カラントノ市內一般ノ豫想ナリシニ拘ラズ眞面目ニヨク出席セルヲ見ルモ相當ニ講講生ノ自覺ヲナシタルモノト認メラル

三、懇談茶話會

會期中二回之ヲ實施ス川口市ヨリ相當ノ補助アリテ茶菓ヲ與ヘ懇談ヲナス、主ナル話題ハ講習中ノ講義內容ノ感想及感謝ノ意味ノ表示ナリ

一回ハ茶話會ノ中ニ映畫ヲ交ヘテ樂ミノ中ニ教訓ヲ與ヘル樣努メタリ

四、修了者ノ輔導計畫等

本講座ニ申込シタル際眞面目ニ出席聽講スル事ト修了後曉鐘會員ニナルベキコトヲ宣誓セシメテ置キタルヲ以テ修了者ハ全部曉鐘會ニ即時入會シタリ

入會後ハ毎月十日、二十日ニ小學校裁縫室ニ集合シテ相互修養會、辯論會等ヲナシ修養ニ努メシム

五、工場、一般社會ヨリノ感想批評等

漸次工場主モコノ施設ヲ理解共鳴スルモノ多キヲ加フ、一般青年等モ聽講ヲ希望スル者多シ

六、指導員及事務取扱ノ感想

有效ナル講習ト思惟ス、一定ノ中心トナル教科書様ノモノ、又ハ常ニ座右ノ銘、朗唱スベキモノ等本省ニ於テ權威アルモノヲ編纂シ講習員ニ與フル様セラルヽヲ希望ス

七、本施設ノ委員、指導員、事務取扱ノ職名氏

（委　員）學務部長　上原參良

（指導員）川口第一小學校訓導　小山次郎

（事務取扱）學務課長　大森通孝

屬　松村覺一

川口第二小學校訓導　中村謹治

社會教育主事　中原英壽

東京府

委嘱先　東京市

開設地　東京市

委囑先東京市

施設概覽

開設地	會場	科目數	延回數	延時間數	生徒數 申込者	許可者	修了者	修了歩合	關係者數 委員	講師	指導者	事務取扱
東京市	品川學級	七	三七	四七	八〇	四九	四四	八九・七八	二	七	二	二
	巢鴨學級	七	三五	四五	八〇	五〇	三二	八八・五七	二	七	二	三
	芝學級	八	三七	四七	八七	四七	四〇	八五・二	二	八	一	三
	日本橋學級	七	三五	四五	七〇	四五	四二	九三・三三	二	七	一	三
	計	二九	一四	一八四	二六七	一七六	一五六	八九・一九	八	二九	四	一二

講師及講義題目一覽

學級名	開設地	期日、曜日、時間
品川學級	品川區東大崎四丁目 立正大學	自昭和八年九月廿九日 至同 十二月六日 每週二回、月、木曜日 自午後六時半至同九時 二時間半

講義科目	講師氏名	回數	時間數
國際經濟	東京商科大學助教授 猪谷善一	五	一〇
最近ノ政治外交	慶應大學教授法學博士 板倉卓造	五	一〇
宗教ノ眞髓	立正大學教授 守谷貫教	三	六
日本國民精神	東京文理科大學教授 友枝高彦	三	六
日常生活ノ法律	慶應大學教授 三淵忠彦	三	六
工場音樂	東京市錄尋常小學校訓導 瀧井悌介	一三	六・五

巢鴨學級	豊島區巢鴨町二丁目 仰高尋常高等小學校	自昭和八年九月廿九日 至同 十二月四日 每週二回、火、金曜日 自午後六時半至同九時 二時間半	體育民踊	日本體育會體操學校 教授 赤間雅彦 五 二・五
			修學旅行	長野地方史蹟見學 一
			見學	時事新報社 一
			論文演習	
			懇談會	二
			政治問題	早稻田大學教授 政治學博士 高橋清吾 五 一〇
			經濟問題	早稻田大學教授 經濟學博士 服部文四郎 五 五
			宗教問題	東京師國大學講師 矢吹慶輝 三 六
			勞働心理	東京帝國大學助教授 文學博士 淡路圓次郎 三 六
			日本國民精神	文部省社會教育官 岩松五郎 二 四
			工場音樂	東京市外手尋常小學校 訓導 伊藤武 一三 六
			體育民踊	赤間雅彦 五 二・五
			見學	時事新報社 一
			懇談會	二
			修學旅行	長野縣史蹟見學 一
			論文演習	
			經濟問題	服部文四郎 五 一〇
			政治問題	高橋清吾 五 一〇
			產業人ノ心得	日本勞務者教育協會常議員 氏家貞一郎 二 四

芝學級	芝區濱松町 神明小學校	自昭和八年九月廿九日 至同 十二月六日 每週二回、火、金曜日 自午後六時半至同九時 二時間半	日本國民精神	中央教化團體聯合會 理事 加藤咄堂 三 六
			宗教問題	大正大學教授文學博士 椎尾辨匡 二 四
			文藝問題	東京中央放送局 文藝課長 久保田萬太郎 二 四
			工場音樂	東京市神明小學校訓導 佐治恒雄 一〇 五
			體育民踊	日本體育會體操學校 教授 加藤孝吉 八 四
			修學旅行	長野地方史蹟見學 一
			見學	時事新報社 一
			論文演習	
			懇談會	二
日本橋學級	日本橋矢之倉一五 千代田小學校	自昭和八年九月廿九日 至同 十二月四日 每週二回、月、木曜日 自午後六時半至同九時 二時間半	自然科學ト宗教	佐藤化學研究所長 工學博士 佐藤定吉 二 四
			經濟問題	中外商業新報社經濟部長 小汀利得 五 一〇
			日本國民精神	文部省社會教育局成人教育課長 松尾長造 三 六
			政治問題	板倉卓造 五 一〇
			興味ト能率	文部省囑託 佐藤富治 三 六
			工場音樂	伊藤武 一三 六
			體育民踊	加藤孝吉 五 二・五
			懇談會	一
			見學	時事新報 一
			修學旅行	長野縣史蹟見學 一

年齢別調

會場	二十歳未滿	自二十一歳至二十五歳	自二十六歳至三十歳	自三十一歳至三十五歳	自三十六歳至四十歳	自四十一歳至四十五歳	自四十六歳至五十歳	自五十一歳至五十五歳	計
品川學級	一	一四	一三	一〇	四	二	二	一	四四
巢鴨學級	一	七	八	九	三	二	二	一	三二
芝學級	一	一九	六	九	五	一	一	一	四〇
日本橋學級	一	一五	九	八	七	二	一	一	四一
計	一	五五	三五	三六	一九	七	四	一	一五六

學歷別調

會場	不就學者	尋常小學卒業	高等小學卒業	補習學校卒業	中等學校半途退學	中等學校卒業	專門學校卒業	專門學校卒業以上	計
品川學級	一	三	一〇	七	五	八	一	一	四四
巢鴨學級	一	五	一七	二	二	三	一	一	三二
芝學級	一	七	一五	六	四	六	一	二	四〇
日本橋學級	一	八	一九	五	二	七	一	一	四一
計	一	二三	七二	二〇	一三	二四	四	五	一五六

職業別調

會場	金屬機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	皮革竹類業	飲食料嗜好品業	學藝娯樂裝飾品業	製版印刷製本業	瓦斯電氣業	土木建築業	其他	計
品川學級	六	三	五	四	一	二	一	三	二	一	一	四四
巢鴨學級	二	四	一	一	一	一	一	二	一	一	一	三二
芝學級	一三	四	三	二	一	一	一	一	八	一	一	四〇
日本橋學級	三	一〇	一八	一	一	一	一	二	一	一	一	四一
計	三三	二六	二二	二	一	二	一	六	二〇	一	二三	一五六

出席狀況其他（全會期日分ノ四以上ノ出席者ヲ修了者トス　皆出席歩合ハ修了者ニ對スル皆出席者ノ割合ヲ示ス）

學級	申込者	許可者	許可歩合	修了者	修了歩合	皆出席者	皆出席歩合
品川學級	八〇	四九	六一・二五	四四	八九・七五	二三	五二・二七
巢鴨學級	五〇	三五	七〇・〇〇	三二	八八・五七	二三	七四・一九
芝學級	八七	四七	五四・〇二	四〇	八五・一一	二七	六七・五〇
日本橋學級	七〇	四五	六四・二九	四二	九一・一一	三三	七八・四八
計	二八七	一七六	六二・三九	一五六	八八・一三	一〇五	六八・一二

指導員ノ報告

一、論文演習ノ結果ニ就テ

本施設ニ於テハ旅行、見學及研究題目等ニ就テ論文演習ノ爲メ一人一篇宛提出スル事ニ成ツテヰル。其ノ結果ニ依ルト見學、旅行等ニ對スルモノハ、何レモ佳作バカリデアツテ、報告ニ載セルノモ、ドレト謂ツテ甲乙ヲ付シ難イノデ止ムナク抽籤的ニ採ツテ居ル樣ナ次第デアル

橋清作

然シコレガ特定題目ヲ與ヘテノ研究論文トナルト遺憾乍ラ見學、旅行等ノソレニ比シテ纏マツタノが少ナイ。コレハ勞働者諸君ガ充分或ル問題ニ對シテ研究スル時間ヲ有タヌ故カト思フ。

二、修了後ノ輔導

時代ノ變遷ハ絕エズ新シキ問題ヲ提供シテ止マナイ。サレバ人ハ內ニ常住ノ燈火ヲ掲ゲ不斷ノ修養ニ努メザレバ所謂時代ニ遲レル事ニ成ル眞理ノ面白サニ心ノ裡ニスク〳〵ト芽生エタ勞務者諸君ノ好學ノ若苗モ其ノ儘放ツテ置クナラバ薄命ノ佳人ノ生涯ノ如ク春モ知ラズ花モ咲カズニ其ノ儘泥土ニ俯向カネバナラヌ樣ナ事ニ成ル。

本市ハ如上ノ點ヲ考慮シテ輔導學級修了後ノ生徒ニ對スル施設ニ就テ大イニ意ヲ致シ尙文部當局並ニ東京市ノ援助トニ依リ將來益々上達ノ點ニ對シテ遺憾ナキヲ期スルモノデアル。

三、修了生ノ連絡統制ニ就テ

修了後ノ生徒ハ總テ本學級ノ修了者ヲ以テ組織セル「東京輔導學友會」及ビ日本勞務者敎育協會ニ入會シテ其ノ指導ヲ仰グ事ニナツテキル而シテ會員ヘノ連絡通信等ハ凡テ修了者中ヨリ擧ゲラレタル委員ガ一切之ヲ擔當シ、又會員相互ノ連絡機關トシテ每月一回會報ヲ發行シ尙各工場每ニ連絡委員ヲ設ケ、該委員ハ自己所屬工場ノ會員ヲ統ベテ本部トノ連絡ニ當ルノミナラズ本部ヨリ各會員ニ通信ヲ爲ス場合ニハ連絡委員ニ於テ一括シテ通信ヲ接手シテソレヨリ夫々各會員ニ配布スル樣ニシテ連絡統制ノ簡捷ヲ計ツテキル。而シテ月一回程度一定ノ場所ヲ選定シテ會員ノ懇親ヲ兼ネ又各自日常生活其施ニ關シテ生ズル疑問ヲ持チ寄ツテ研究題目ニ當テルコトモアレバ或ハ前以テ研究題目ヲ選定ノ上各會員ニ通知シ置キ之ニ對スル專門ノ講師ヲ招請シテ研究開會スルコトモアル。（別紙本年度ニ於ケル修了者ノ輔導參照）

四、本施設ニ對スル事務取扱ニ就テ

本學級施設開始後ノ事務取扱ハ、自治訓練ノ一助トシテ每回生徒ノ出缺席ノ整理及對學生ノ交涉要件第ハ出來ルダケ生徒中ヨリ又ハ前修了者中ヨリ選任シタル委員ヲシテ責任ヲ以テ處理ニ當ラシメ成可ク生徒ノ自治心ノ涵養ニ努メテキルガ委員ハ熱心ニ委セラレタル事務ニ當リ非常ニ好成績ヲ示シテキル。

五、實施經驗ヨリノ感想

從來ノ實施經驗ヨリスレバ都市ニ於ケル勞務者ノ大部分ハ學級ニ入ツテ單ニ人間トシテ完成ヲ望ムバカリデハナク何カ纏マリタル知識技能ヲ習得シテ置キ度イト云フ樣ナ傾向が一般ニ濃厚ノ樣ニ思ハレル。仍テ英國式ノ常識的敎育ニ配スルニ、例ヘバ經濟學ニシテモ理論ト共ニ國際經濟トカ經濟記事トカノ見方ト謂フガ如キ政策的學科目ヲ配シテ學理ト實際ノ密接不離ノ關係ヲ知ラシメ又商業地理ノ如キ學科目ニ依リ各自ノ工場ニ於テ取扱フ材料ノ生產分布及其ノ商品ノ販路等ニ就テモ其ノ大體ニ通曉セシメル樣ニ學科ヲ按配シテキル。而シテ之ガ勞務者ノ思想善導ト謂フ立場ヨリ見ルモ漠然タル思想善導ヲ說クヨリモ事物ノ眞相ニ徹セシメルノガ自然ニ其ノ趣旨ニ適ハシイモノデハアルマイカ。

六、本年度ニ於テ實施シタル修了者ニ對スル輔導

昭和八年度ニ於テ既修了者ニ對シ實施シタル輔導施設ハ左記ノ通リデアル。

一、高等學級

（一）主催　東京市並日本弘道會敎化學院

（二）會場　神田區西小川町二ノ一日本弘道會

（三）日時　其他

學級別	日時	科目	講師	其他
第二回	昭和八年四月二十五日ヨリ六月二十七日ニ至ル十九回、每週二回（火、金）午後六時ヨリ同九時迄	倫理問題 三回	春山作樹	入學許可 一二〇
		宗敎問題 三回	矢吹慶輝	
		經濟問題 六回	道家齊一郎	修了者四九名
		政治問題 六回	神川彥松	
第三回	昭和八年十月九日ヨリ同十二月十一日ニ至ル十九回每週二回（月木）午後六時半ヨリ同九時ニ至ル二時間半	日本精神	紀平正美	入學許可 一〇〇名
		日本民族性論	河野省三	修了者三八名
		經濟學概說	松生幸雄	

二、市歌普及講座

一、春秋二回ニ日本橋區千代田小學校外新舊市內九會場ニ開催

三、月例研究會

（一）會場　上野公園內　東京自治會館

（二）日時每月第三土曜日午後六時ヨリ

（三）科目及講師

四月　總會
五月　經濟問題　前田繁一
六月　人生ト宗教　松尾長造
七月　勞働問題　町田辰次郎
八月　偉人ニ就テ　中込本治郎
九月　能率增進　佐藤富治
十月　經濟問題　青木一男
十一月　海ノ生命線　武富邦茂
十二月　最近ノ國際狀勢　佐藤忠雄
一月　文章ノ作リ方　內野　章
二月　金儲ケノ話　谷　孫六
三月　水戸及水戸學ニ就テ　峯間信吉

尙出席優秀ナル者ニハ奬勵ノ爲メ賞品ヲ贈ツテ表彰スル事ニナツテヰル。

四、東京勞輔合唱團（輔導學級修了者ヨリ成ル）

（一）會場　上野公園內　東京自治會館　（二）日時　毎週土曜日午後六時ヨリ

（三）指導者　東辰三、吉村壽氏外（男聲四部混成合唱ノ練習）　（四）本市主催各種ノ催シニ數回出演ス。

五、旅行會　七月二日會員ノ家族慰安並ニ相互ノ懇親ノ爲メ東京灣內周遊會ヲ開催ス。

六、學友會々報ノ發行　會員相互ノ連絡通信ノ爲メ每月一回會報ヲ發行ス

七、本施設ノ委員、指導員及事務取扱ノ職氏名

委員	東京市敎育局社會敎育課長	藤岡眞一郎
指導員	東京市敎育局社會敎育課	稻葉幹一
同	同	中野治雄
同	同	橋清作
事務取扱	東京輔導學友會自治委員（芝區田岡工場）	佐藤至弘
同	同（深川區淸水組木工所）	曾布川淸太郎
同	同（本所區東京市電氣局柳島車庫）	鶴ケ谷忠太郎
同	同（王子區陸軍被服本廠）	森田周藏
同	同（品川區三共製藥株式會社）	飯野善造
同	同（荒川區日本建鐵株式會社）	大橋孝一
同	同（芝區明昭電機株式會社）	吉村壽
同	同（本所區篠崎インキ製造株式會社）	矢代多一郎

神奈川縣

委囑先　橫濱市

開設地　橫濱市

委囑先橫濱市

施設概覽

開設地	會場	期間	科目數	延時間數	受講者數					關係者數		
					申込者	許可者	修了者	皆出席者	修了歩合	講師	委員	指導員	事務取扱
橫濱市	幸ヶ谷尋常高等小學校	自十月十九日至十二月七日	八科目科外講演三回	五十四時間、外ニ入學式、修了式、合宿見學等ノ爲約三十八時間	七六	五〇	五〇	二四	一〇〇	二	一	三	二

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回數	時間數	備考
橫濱市神奈川區神奈川通リ	十月廿日（金）午後六時半ヨリ	科外講演非常時局ニ對スル國民ノ覺悟	海軍省武功調査課囑託海軍大佐杉浦信平	一	二	
	十月廿四日（火）十月廿六日（木）午後六時半ヨリ	道德及宗教	總持寺本山布教師岩堀榮秀	二	四	
	十月廿七日（金）十月卅一日（火）十一月二日（木）	經濟	中央大學教授經濟學博士太田正孝	三	六	
	十一月七日（火）午後六時半ヨリ	科外講演世界ニ於ケル日本ノ文化的使命	橫濱市助役村山沼一郎	一	二	
	十一月十日（金）十四日（火）十六日（木）午後六時半ヨリ	適正ナル時事解說	東京地方裁判所長判事宇野要三郎	三	六	
	十一月十八日（土）廿一日（火）廿三日（木）午後六時半ヨリ	日本國民精神	東洋大學教授高島米峰	三	六	

十一月廿五日（土）午後六時半ヨリ	思想問題ノ三要點	東京帝國大學教授 法學博士男爵 穗積重遠	一	二	初メ議義題目法律タリシモ上記ニ變更セラレタリ
十一月卅日（木）十二月一日（金）五日（火）午後六時半ヨリ	自然科學	横濱高等工業學校教授 藤村利常	三	七	
十一月廿八日（火）午後六時半ヨリ	科外講演 處世訓	横濱商工會議所議員 野村洋三	一	二	
十月廿日廿六日卅一日 十一月七日十四日十六日 廿三日廿八日 午後八時半ヨリ	體育	横濱市體育指導員 今島益造	八	八	
十月廿四日廿七日 十一月二日十日十八日 廿一日廿五日三十日 十二月五日 午後八時半ヨリ	音樂	横濱市音樂指導員 中野義見	九	九	

年齢別調

開設地	生徒數	二十歳未滿	自廿一歳至廿五歳	自廿六歳至三十歳	自卅一歳至卅五歳	自卅六歳至四十歳	自四十一歳至四十五歳	自四十六歳至五十歳	自五十一歳至六十歳	六十一歳以上	備考
横濱市	五〇名 100%	二% 一	一六% 八	一三% 六	三四% 一七	二六% 一三	六% 三	二% 一	二% 一	—	生徒中婦人ハナシ

學歴別調

開設地	生徒數	不就學者	小學校半途退學	尋常小學校卒業	高等小學校卒業	補習學校卒業	中等學校半途退學	中等學校卒業	專門學校半途退學	專門學校卒業以上	備考
横濱市	五〇名 100%	—	四% 二	一八% 九	五四% 二七	一〇% 五	四% 二	四% 二	—	六% 三	婦人生徒ナシ

職業別調

開設地	生徒數	窯業	金屬工業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	皮竹革類骨等甲工木業	飲食料品好嗜品業	被服身廻品製造業	土木建築業	製版印刷本業	學藝娯樂品裝飾業	瓦斯電氣業	鑛業	交通運輸業	其他ノ（造船業）	備考
横濱市	五〇名 100%	—	八% 四	二〇% 一〇	—	八% 四	—	—	三% 一二	—	八% 四	—	—	四% 二	—	八% 四	三% 一二	婦人生徒ナシ

一、本施設ノ準備、狀況、效果等ニ關スル事項ノ報告

一、本施設ノ準備ニ關スル事項

イ、生徒募集

學級開設豫定日ヨリ約一ケ月前從業勞務者百名以上ヲ有スル會社、工場ノ關係者ノ集會ヲ求メ席上學級開設ノ趣旨ヲ述ベ生徒推薦方ヲ依頼シタルニ既ニ數度ノ學級開設アリタル爲快ク承諾セラレタリ、而シテソノ席上始業時間ソノ他生徒通學上ノ諸點ニ關スル會社、工場側ノ希望ヲ聽取シ又當方ヨリハ通學上便宜ヲ與ヘラレタキ旨ヲ依頼セリ

各會社工場内ニ於ケル募集方法或ハ會社工場側ニ於テ掲示ニヨリ一般ヨリ募集シ或ハ學級修了生ノ組織セル極星會分會ニ於テ勸誘スル等ノ方法ニヨレリ

ロ、生徒選拔

前記從業勞務者百名以上ヲ有スル横濱市電氣局外十四會社工場ヨリ推薦アリタル七十八名中ヨリ詮衡ノ上五十名ヲ選拔シ入學許可シタリ、詮衡方法ハ會社工場ヨリノ内申ヲ第一トシ年齢ノ比較的若キモノヲ許可スル方針ニ基ケリ

尙此ノ外ニ前年度迄ノ修了生中ノ希望ヲ詮衡ノ上若干名ノ聽講ヲ許シタリ

ハ、會　場

工業地帶ニ比較的近ク交通ニ便ナル神奈川區神奈川通リ市立幸ケ谷尋常高等小學校ヲ使用セリ

二、本施設ノ狀況ニ關スル事項

イ、講座日時割左ノ如シ

月	日	曜	科目	時間	講師	科目	時間	講師
一〇、	一九	木	入學式 懇談會					
	一〇	金	非常時局ニ對スル國民ノ覺悟	二	杉浦信平	體操	二	今島益造
	二四	火	道徳及宗教	二	岩堀榮秀	音樂	一	中野義見
	二六	木	同	二	同	體操	一	(以下同シ)
	二七	金	經濟	二	太田正孝	音樂	一	
	三一	火	同	二	同	體操	一	
一一、	二	木	同	二	同	音樂	一	
	三	金	多摩御陵及明治神宮參拜					
	七	火	科外講演	二	村山沼一郎	體操	一	
	一〇	金	適正ナル時事解說	二	宇野要三郎	音樂	一	
	一一	土	合宿、講演、懇談會					
	一四	火	適正ナル時事解說	二	宇野要三郎	體操	一	
	一六	木	同	二	同	音樂	一	
	一八	土	日本國民精神	二	高島米峰	體操	一	
	二一	火	同	二	同	音樂	一	
	二三	金	同	二	同	體操	一	
	二五	土	法律	二	穗積重遠	音樂	一	
	二八	火	科外講演	二	野村洋三	體操	一	
	三〇	木	自然科學	二	藤村利常	音樂	一	
一二、	一	金	同	二	同	體操	一	
	五	火	同	二	同	音樂	一	
	七	木	修了式、懇談會					

ロ、出席狀況

生徒ノ出席狀況ハ頗ル優良ニシテ毎日平均出席者四十七名、皆出席者二十四名ニ及ヘリ、全員五十名ニ對シ修了證書ヲ授與シタリ

而シテ生徒出席率ハ會社工場ニ於ケル便宜ヲ與ヘラレタル程度ニ比例シヲリ、キリンビール株式會社横濱工場、古河電氣工業株式會社日本製粉株式會社、芝浦製作所、横濱市土木局、同瓦斯局ニ於テハ全生徒皆出席ナリ

懇講生ノ出席率ハ餘リ良好ナラス

三、本施設ノ效果

成績極メテ良好ニシテ文部省當局ニ於テ期待セラルル目的ヲ充分達シ得タル事ヲ確信ヲ以テ報告シ得

七、講義ニ對スル質疑應答ノ內容、生徒ノ感想、論文演習等ニ關スル報告

一、質疑應答ノ內容

講義時間短キ爲、質疑ノ時間ヲ見出シガタク生徒ノ質問ハ宇野氏ノ時間ニ於テ五人之ヲナナセルノミ、ソノ他懇談會、合宿等ニ於テ種々ノ質問アリタリ

質問內容ハ社會問題主トシテ勞資問ノ問題、及法律手續ニ關スル質問等ナリ、質問ニ於ケル態度眞摯、講師指導員ノ明解懇切ナル應答ニヨリヨクソノ主旨ヲ理解セルモノノ如シ

二、生徒ノ感想、論文、演習等ニ關スル報告

十一月二十八日感想、論文等ノ作成ヲ課シタリ、而シテ論文作成ノ手引トシテ左記ノ題ヲ與ヘタリ、勿論課題以外ノ論文作成ヲモ許シタリ

非常時ニ處スル覺悟

世界ニ於ケル日本帝國ノ地位

海ノ生命線、陸ノ生命線ニ就テ

經濟不況ニ就テ
現代思想ニ對スル一考察
現代日本ニ於テ矯正スヘキ諸點
勞働ノ意義
我々勞務者ノ進ムヘキ道
自己ノ所屬セル産業部門ニ就テ
物質文化ト精神文化
提出論文數　三十三　内譯左ノ如シ
感想十一、非常時ニ處スル覺悟八、我々勞務者ノ進ムヘキ道五、現代思想ニ對スル所想一、勞働ノ意義一、世界ニ於ケル日本帝國ノ地位一、現代日本ニ於テ矯正スヘキ諸點一、工業立國論一、自己所屬ノ産業部門ニ就テ一
優良論文別紙ノ如シ（省略）

八、懇談會、討論會、遠足、見學等ニ關スル件

一、懇　談　會

學級開設以來懇談會開催回數ハ三回ナリ
入學式後ニ行ヒタル第一回懇談會ハ自己紹介ノ程度ニシテ語ル者ハ主催者側及修了生ナリ
合宿ニ於ケル第二回懇談會ハ頗ル盛會ニシテ豫定時間ヲ延長スルコト一時間半。自己一身上ノ事ヲ語ル者、所感ヲ述ブルモノ等々心情ヲ吐露シ和氣堂ニミツ有樣トナリ、主催者側ニ於テ會ヲ導キ指名シテ語ラシムルヲ必要トセサリキ
修了式後ニ於ケル第三回懇談會モ亦同樣盛會ニシテ豫定時間二時間ヲ延長シテ尙談盡キサル有樣ナリキ

二、討　論　會　適當ナル日時ナカリシ爲行ハス

三、遠　　足

多摩御陵、明治神宮參拜
十一月三日明治節ヲトシ多摩御陵、明治神宮參拜ヲ行ヒタリ
參加者ハ輔導學級生徒ニ加フルニ前期修了生極星會員中ノ希望者及會社工場代表者等計八十七名
目的――忠君愛國敬神思想ノ涵養ニ資スルト共ニ併セテ生徒、極星會員相互ノ親睦ヲ圖ル

行程並時刻　集合　午前七時五十分　東神奈川驛表口
淺川着午前九時二十七分　御陵參拜後自由行動高尾山登山
淺川發午後二時二十七分
明治神宮內苑拜觀　神宮參拜　午後五時半解散

生徒ノ行動概ネ良好ニシテ主催者側ノ指揮指導ヲマツコトナク自發的自治的ニ而モ紳士的態度ヲ以テ行動セリ

四、見　　學

十一月十一日夜金澤町昭和塾ニ於テ合宿一夜講習ヲ行ヒ翌日見學ス
十一月十二日　金澤文庫　追濱海軍航空隊ヲ見學ス

イ、金澤文庫見學

十一月十二日午前九時昭和塾退舍後金澤文庫ヲ見學ス
豫メ配布ノ案內書並ニ金澤文庫役員ノ說明ニヨリ各自自由ニ見學、約一時間十分後見學終了
文庫見學後文庫背面ノ高所ニ登リ金澤八景並ニ附近ノ風光ヲ賞シ金澤文庫役員ヨリ附近ノ地理歷史ノ說明ヲ聞ク

ロ、追濱海軍航空隊見學

十一月十二日午前十一時昭和塾前ヲ出發、バスニテ航空隊ヘ向フ
十一時四十分追濱航空隊到着、營內ニテ晝食、後旭大尉ヨリ「追濱航空隊ニ就テ及ヒ主トシテ海軍航空隊ニヨル防空」ニ關スル講話ヲ聞ク
午後一時過ヨリ航空隊內部見學
午後三時半バスニテ歸途ニツキ四時市電杉田停留所前ニテ解散

五、合宿一夜講習

十一月十一日夜金澤町昭和塾ニ於テ合宿一夜講習ヲ行フ
目的――團體生活ニ對スル訓練ヲ圖リ併セテ生徒相互並生徒職員間ノ親睦ヲ圖ル
午後五時二十分全員入舍抽籤ニテ部屋割ヲ定メ各室毎ニ責任者ヲ定ム
入舍人員　生徒四十三名　講師係員　六名　計四十九名
午後六時二十分夕食、和田指導員ノ感謝ノ辭ノ後水島委員ノ言デ箸ヲトル、午後七時二十分ヨリ講話、運動、音樂、懇談會、詩武

一、市歌合唱

二、閉會之辭　和田指導員
三、講話「家庭生活ニ就テ」水島委員
四、懇談會　茲ヲ盛會ニシテ豫定時間ヲ二時間延長セリ
五、體操
六、詩武　今島講師、和田指導員吟ス
七、尊ク生キン合唱　中野講師
八、朗唱　夕ノ朗唱　和田指導員
九、默禱

一〇、閉會之辭　水島委員

午後十一時半　就寢

十一月十二日

午前六時　起床　掃除　洗面
午前六時二十分ヨリ六時五十分迄體操、體操前ニ宮城遙拜ヲ行フ
午前七時ヨリ七時半迄、音樂、明治天皇御製軍歌、成歌役
午前七時半ヨリ　講話「誠ニ就テ」和田指導員
　朗唱「大自然ノ愛」和田指導員
午前七時五十分　朝食　和田指導員ノ感謝ノ辭ノ後水島委員ノ音頭ニテ箸ヲトル
午前九時　退舍——後金澤文庫見學

昭和塾合宿一夜講習ハ講師指導員等ト合宿スルコトニヨリソノ人格的接觸ニヨリ非常ナル感激ヲ與ヘ精神的效果頗ル顯著ナルモノアリ
而シテ宿舍ニアル生徒ノ起居動作アクマデ秩序正シク團體生活ニ對スル訓練ヲ圖ル目的ヲ充分達シタルモノト認ム、尙生徒相互並生徒
職員間ノ親睦ヲ圖ル目的ヲモ充分達シタリ、カヽル合宿講習ノ日ノ多カランコト關係者並生徒全員ノ熱烈ナル希望ナリ

四、本施設修了後修了者ニ對スル輔導計畫ノ報告

輔導學級修了者ハ總テ日本勞務者敎育協會橫濱支部極星會會員トシ既存極星會各分會ニ屬シ總テ極星會ノ統制指導下ニ置ク
今年度ヨリ新ニ輔導學級修了生ヲ出セル橫濱市土木局、日本鑄造株式會社ニハ極星會土木局分會、極星會日本鑄造分會ヲ設置ス
極星會ニ於テハ會規ニ基キ分會幹事中心トナリ年中行事ヲ定メ極星會ノ事業ヲ遂行ス

別紙極星會會規及昭和九年度極星會行事豫定表參照(省略)、
外ニ昭和八年度輔導學級修了生ハ同窓會ヲ年四回行フ此ノ同窓會ニ對スル計畫及ソノ遂行等總テ生徒ノ互選ニヨル學級幹事之ヲ行フモノト
ス　昭和九年度學級行事豫定參照(省略)

五、本施設ニ對スル會社工場管理者並一般社會ヨリノ感想批評ノ報告

一、本施設ニ對スル會社工場管理者ヨリノ感想批評ノ報告
イ、勞務者輔導學級開設ノ趣旨ハ各會社工場ノ勞務管理ノ根本問題タル勞務者ノ精神的習的向上ヲ目的トシオリ本施設ナクモ各會社工場
ニ於テハ早晩如斯キ施設ヲ設クヘキ事ヲ要スル現狀ナリソノ時ニ當リ如斯勞務者輔導學級開設セラルルハ時宜ニ適セル施設ナリト云フ
ヘシ
ロ、元來勞務者ハ一般ニ靜觀中正ヲ失ヒ偏狹固陋ニ趨ル傾向アルモ本學級勞務者ハソノ缺ヲ補ヒ產業人乃至公民トシテノ認識ヲ健全ナラ
シメ團體的訓練ヲ習熟應化セシムル機會ヲ與ヘタル如シ
ハ、尙講師各方面ノ權威者タル事及ビ選拔入學許可セラレシ事ニヨル就學者ノ心理ニ對シ矜持ト自負心トヲ抱カシメ就學ノ熱意ヲ刺戟ス
而モ他工場ヨリ選出ノ優良勞務者ト會シ良感化良風習ヲ體得シ自ラ人格向上ニ努ムヘキヲ感銘ス
ニ、修了生ハソノ選拔ノ當始ニ當リ優良ナルモノヲ選ヒタルニモ依ルモ優良勤勉他ノ模範タルニ足ル、サレド修了生ノ數全從業員ニ比シ
僅少ニシテ未タ周圍ノ多數ニ影響ヲ及ホシエス、數工場ニ於テハ適當ノ時期ニ於テ修了生ヲシテ受講ノ要點ヲ一般勞務者ニ解說セシム
ル方法ヲ採レリ
ホ、尙合宿講習ニ依ル訓育ハ最モソノ效果多ク學級期間中一回ニテハナホ回數少ク理想トシテハ全期間合宿制度トシ生徒ノ自治ニ任スル
方法ニヨラレタシトノ希望アリ

二、本施設ニ對スル一般社會ノ批評

本施設ニ關シ一般社會ハ未タソノ存在ヲスラ知ラサル狀態ナルモ之ヲ知ル者ハ等シク有益ナル企トシテ贊意ヲ表シ或ハ講義聽講方ヲ希望
スル向モアリタリ

六、講師、指導員、事務取扱等ノ感想ノ報告

一、講師ノ感想

生徒ノ聽講ノ態度、質疑應答等ノ態度眞摯熱心ナル事ハ齊シク講師ノ賞贊セラレシ處ナリ
生徒ノ年齡學力ヲ異ニスル爲講義ニ少ナカラサル困難ヲ感スト感想アリタリ

二、指導員事務取扱ノ感想

文部省ノ方針ニヨル一流講師ヲシテ少数勞務者ニ對スル講義ハ講師、生徒相互ノ人格的接觸ニヨリ生徒ノ精神的修養ノ上ニ大ナル影響ヲ與ヘタル處アルハ關係者ノ齊シク認ムル處ナリ、只多數希望者アルヲ全部收容シ得ス修了生モ各工場會社全從業員ノ數ニ比シ僅少ニシテ充分ノ影響ヲ與ヘ得サル如シ、年少クモ二度學級開設セラレタキ事關係者一同ノ希望ナリ、合宿講習ノ效果ノ多大ナル事亦一同ノ認ムル處ニシテ此ノ回數ヲ多カラシメタク尙理想トシテハ學級期間中合宿制度ヲ行ヒタキモノト考フ、學級期間及ソノ修了後ヲ通シテノ生徒ノ熱心ナル態度ハ指導員、事務取扱ヲシテ本施設ニ對シ尙一層ノ盡力ヲ致サントノ決心ヲ起サシメタリ(省略)

七、募集要項、講義要項、其ノ他本施設ニ於ケル配布物ノ一括添付　別紙ノ通リ

八、各會社工場ニ於テ輔導學級生徒ニ與ヘラレタル便宜ニ關スル件

●横濱船渠株式會社　當社ニ於テハ輔導學級出席職工ニ對シテハ一日金五拾錢ヲ辨當料トシテ支給シ居ル外出席ノ爲就業時間ヲ割クノ必要アルトキハ公用外出ノ取扱ヲナシ其ノ時間ニ對シ給料ヲ支給ス、尙仕事ノ都合上殘業等ノ必要アル場合モ學級出席者ハ豫メ工場長ノ諒解ヲ得テ適當ノ割振ヲナシ出席ヲ妨グル事ナカラシム

●古河電氣工業株式會社横濱電線製造所　1、出席一日ニ付學習費ノ補助トシテ金三十錢宛支給　2、講義、合宿ノ都合等ノ爲作業中ニ中途退場ヲ許可シ賃金ハ一日分支給スル　3、作業ノヤリ繰リヲナシ可及的出席セ援助スル

●富士瓦斯紡績株式會社保土ケ谷工場　1數授時間ガ工場作業時間ニ相當シタル時ハ公用外出トシテ勤務同樣ノ便宜ヲ與ヘルコト　2、極星會員ニ對シ右同樣　3、講習中通學費ノ一部トシテ電車賃(又ハバス代)ヲ現金ニテ支給ス

●横濱市電氣局　當局ニ於テハ業務ノ都合上乘務員ハ一日二交代制ナルヲ以テ輔導學級ノ受講ニ支障アルニ由リ該生徒ニ對シテハ特ニ勤務ノ繰合セ其他適當ノ方法ヲ以テ一日ト雖缺席又ハ遲參等セザル樣督勵致居候

●森永製菓株式會社鶴見工場　交通費ノ支出、時間ノ便宜、極星會一ケ年分ノ會費ノ負擔、開講中夕食ノ負擔

●横濱市土木局　通學者ニハ受講當日ハ午後ニ亘リ相當時間ヲ支給セリ

●キリンビール株式會社横濱工場　輔導學級生ニ對シテハ作業ヲ差繰リ便宜ヲ與ヘオレリ、尙通學電車賃ノ外辨當料トシテ出席毎ニ金六拾錢也ヲ支給ス

●株式會社倉田組鐵工所　時間繰合セ、交通費支給

●株式會社芝浦製作所　1、開講中ハ出來得ル限リ作業ヲ繰合セ出席聽講セシム　2、手當トシテハ出席一回金一圓也ト他ニ毎回交通費トシテ電車賃實費(會社學校間)ヲ支給シ居レリ　3、尙臨時出費ノ場合(見學合宿等)ニハ其都度實費ヲ支給ス　4、極星會々費取立ニ關シテハ給料中ヨリ控除シ未納ノ防止手段ノ簡略ヲ圖リ會ノ充實ヲ期スル爲メ適宜援助セリ

八、本施設ノ委員、指導員、事務取扱

委員　横濱市教育課長　水島藤吉
指導員　横濱市社會教育主事　和田正雄
横濱市講師　隈部朴
事務取扱　横濱市指導員　杉田榮次郎
横濱市屬　前田義雄

静岡縣

委囑先	清水市
開設地	清水市
委囑先	水水松岡
開設地	市市市縣

委囑先靜岡縣

施設概要

開設地	會場	科目數	延回數	延時間數	生徒數 申込者	許可者	修了者	皆出席者	修了歩合	關係者數 委員	講師	指導員事務取扱
濱松市	濱松高等工業學校	三	二三	五七、五	六〇	六〇	六〇	一	一〇〇%	一	三	三

備考　本表中ニハ課外講演者三名ヲモ含ム

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回數	時間數	備考
濱松	九月二十七日 自午後六時三十分（水） 至同九時	國民道德	靜岡縣社會教育課長 相京伴信	一	二、五	
同	十一月十日 自午後六時三十分（金） 至同九時	同	同	一	二、五	
同	十月三十日 自午後六時三十分（月） 至同九時	加茂眞淵ノ思想	濱松第一中學校教諭 小山正	一	二、五	
同	十一月一日 自午後六時三十分（水） 至同九時	同	同	一	二、五	
同	十月二日 自午後六時三十分（月） 至同九時	人生ト宗教	濱松高等家政女學校 中村春次郎	一	二、五	
同	十月十八日 自午後六時三十分（水） 至同九時	同	同	一	二、五	

濱松市					
十月四日 自午後六時三十分（水） 至同九時	民法及經濟	濱松西遠高等女學校長 岡本富郎	一	二、五	
十月六日 自午後六時三十分（金） 至同九時	同	同	一	二、五	
十月十六日 自午後六時三十分（月） 至同九時	同	同	一	二、五	
十月二十日 自午後六時三十分（金） 至同九時	道德經濟一元生活	大日本報德社副社長 佐々井信太郎	一	二、五	
十一月二日 自午後六時三十分（木） 至同九時	同	同	一	二、五	
十一月六日 自午後六時三十分（月） 至同九時	同	同	一	二、五	
十一月八日 自午後六時三十分（水） 至同九時	物理ト化學	濱松高等工業學校教授 塚本玄門	一	二、五	
十一月十三日 自午後六時三十分（月） 至同九時	同	同	一	二、五	
十一月十七日 自午後六時三十分（金） 至同九時	同	同	一	二、五	
十月二十五日 自午後六時三十分（水） 至同九時	生理衛生	靜岡縣學校衛生技師 村山午朔	一	二、五	
十月二十七日 自午後六時三十分（金） 至同九時	同	同	一	二、五	
十月九日 自午後六時三十分（月） 至同九時	日本神代史及近世史	濱松師範學校教諭 村田貞雄	一	二、五	
十月十一日 自午後六時三十分（水） 至同九時	同	同	一	二、五	

年齡別調

濱松市	開設地	
未滿二十歲		五
自廿一歲 至廿五歲		二四
自廿六歲 至三十歲		三〇
自卅一歲 至卅五歲		六
自卅六歲 至四十歲		三
自四十一歲 至四十五歲		二
自四十六歲 至五十歲		一
自五十一歲 至五十五歲		一
自五十六歲 至六十歲		一
計		六〇
備考		

學歷別調

濱松市	開設地	
小學校半途退學		一
尋常小學卒業		三
高等小學半途退學		三
高等小學卒業		三七
補習學校卒業		四
中等學校半途退學		一
中等學校卒業		二三
專門學校半途退學		一
專門學校卒業		一
計		六〇
備考		

職業別調

濱松市	開設地	
窯業		一
金屬工業		一
機械器具製造業		三六
化學工業		四
纖維工業		三
紙工業		一
皮革骨竹類甲等木工業		一
飲食嗜好品料品業		八
被服身廻品製造業		四
土木建築業		一
製版印刷業		五
裝飾美術娛樂品業		一
瓦斯電氣業		一
交通運輸業		一
計		六〇
備考		

濱松市					
九月二十九日 自午後六時三十分（金） 至同九時	職業觀ニ就テ	株式會社開明堂 專務取締役 中村修二	一	二、五	
十月十三日 自午後六時三十分（金） 至同九時	人格ヲ基調トスル生產	濱松高等工業學校長 俊一	一	二、五	
十一月十五日 自午後六時三十分（水） 至同九時	生活態度	靜岡縣富士中學校教諭 繁	一	二、五	
十一月二十日 自午後六時三十分（月） 至同九時	歐米視察談	日本樂器會社長 川上嘉市	一	二、五	

一、講義ノ質疑應答

1、平素學習ノ習慣ニアラサルガ故カ講義ガ講演式ニ過行セル爲メカ質疑ノ極メテ少カリシハ遺憾ナリ

2、講師ノ感想

某講師ノ如キハ「コンナ眞面目ナ學習態度ハ所詮壹問ノ學生ニハ見ルベクモナシ」ト歎賞セリ、而シテ是レ又他ノ多クノ講師モ所見ヲ一ニスルモノノ如シ

3、生徒ノ感想

生徒ノ告白セル感想ノ二三ヲ左ニ摘錄セムカ

「初メテ自己ノ眞實ノ姿ヲ發見シタリ」

「生活ノ目標ハ與ヘラレタリ」

「職業ニ對スル認識ヲ把握シテ勇氣百倍ノ感アリ」

「讀書ト研究ノ必要ヲシミジミカリ認識シタリ」

「講師諸先生ノ人格ニ感化セラレテ反省セシメラルヽ處多大ナリ」

二、懇談會ノ狀況

イ、奥山方廣寺ニ一夜講習會ヲ催シタルトキ

午後七時夕食ヲスマシテ大廣間ニ圓座スレバ講師來賓茶菓ノ間自己紹介ノ後其ノ感想ト抱負ヲ述ブ

各員熱加ハリ和氣堂ニ充チ或ル世相ヲ論シ所信ヲ披瀝シ實行ヲ誓ヒ詩ヲ吟シ歌話ヲ述ベテ止ムル所ヲ知ラス將ニ十二時ニ近カラントシテ漸ク閉會シタル有樣ナリキ

翌日早旦讀經嚴修ニ列座シテハ宗教義禮ノ嚴肅ニ驚歎スルモアリ管長足利紫山老師ノ座禪儀ノ講義ハ教義高遠ナルモ其ノ說ク處全ク黑雲ニ被ハレタル月明ノ如クヤト見ル間ニ薄雲ニ出テ又々皓々トシテ曠野ヲ照スニ比スヘク其ノ妙味實ニ謂フベクモナシ

深キ森林ヲ背景トシテ體操モ元氣百倍スルノ概アリ轉シテ井伊谷神社ニ詣テ桑原宮司ノ講演ヲ聽スレバ建武中興ノ大業ヲ偲ヒテ又淚無キヲ得サルナリ

ロ、修了式後ノ茶話會

修了式後ノ茶話會ハ實ニ和氣藹々タルモノニシテ滿堂極メテ朗カナリ此ノ會ニ最モ特筆スベキ一件ハ今期ノ修了生ノ一員ヨリ加茂眞淵翁ノ思想ヲ顯揚スル一方途トシテ濱松市伊場ノ縣居神社ニ大日章旗ヲ獻納セントスルノ提案アリタルコトナリ

同神社ハ市ノ南端ノ高臺ニ位置シ技ニ大日章旗ヲ掲揚セバ東海上下ノ旅客必ス之レニ着目スルノミナラス市民ヲシテ國家意識ヲ昂揚シ併テ敬神崇祖ノ觀念ヲ喚起セシムル時局柄最モ相應シキ事業ナルベシト直チニ滿堂ノ贊成ヲ得テ前三回ノ卒業生モ加ヘ合計二百餘ノ卒業生及講師其他本講座直接關係者ノ醵出金參百餘圓ヲ以テ本計畫ヲ完成シ昭和九年一月一日午前十一時ヨリ目出度揭揚式ヲ擧行セリ

此ノ美擧タル寔ニ時宜ヲ得タルモノニシテ加茂眞淵ト共ニ國民精神作興ノ上ニ偉大ナル働キヲナスモノナリト信ス

三、修了後ノ輔導計畫

修了生ハ皆同窓會ニ加入シタリ同窓會ハ現在會員二百餘名毎月一回會合シテ研究ト懇親トヲ結ビ所謂當市勞務者ノ中堅タランコトヲ期スルモノ而シテ何レモ勤儉精勵シ剩餘ヲ推譲シテ世ノ惠澤ニ報セントシツヽアルヲ以テ互ニ相携ヘテ進マバ輔導ノ目的ハ達セラルベケンカ

四、會社工場ノ感想

今期ノ學級ニ對シ申込人員ハ極メテ多ク漸ク定員五十名ノ處ヲ六十名ヲ以テ打チ切リタルニ徴スレハ會社工場主ガ此ノ計畫ニ對シ多大ノ期待ヲ有スルコトヲ思フベク又時々工場主、人事課長等ノ參觀聽講等ノ場合ニ開陳セラルヽ處ハ講師ト其ノ講題等凡ソ其ノ要望ニ添フモノト認ムベキナリ

五、指導員ノ感想

文部省ガ此ノ計畫ヲ當市ニ實施セラルヽコト既ニ四回、回ヲ重ヌルト共ニ生徒ノ品質向上スルガ如ク見受ケラルヽハ文運進展ノ餘慶トスベキカ、何レニモセヨ會期中彼等ノ態度ハ嚴肅ソノモノト謂フベク出席率ノ如キモ九十六パーセントヲ示セリ

開期中精神作興週間實施セラルヽヤ全員各自實行事項ヲ定メ夫々實行ニ着手シタリソノ主ナルモノヲ擧クレバ次ノ如シ

一、終生伊勢大神宮ト皇居ノ遙拜ヲ怠ラス勵行ス

一、一日一錢ヲ貯ヘテ國家ノ非常ニ備フ

一、一日一事ニ精進スベシ

一、禁煙ヲ斷行スベシ

一、早起テ決行シテ學級聽講ノ記念トスベシ

一、配給品ノ自己運搬

一、每朝神前ノ勅語奉讀明治天皇御製朗誦

一、家族一致ノ勤儉

六、本施設ノ委員、指導員、事務取扱ノ職氏名

委員　靜岡縣學務部長　廣田增太郎

指導員	靜岡縣屬	勝亦大平
同	株式會社開明堂專務取締役	中村修二
同	濱松市立高等女學校教諭	淵上正
事務取扱	濱松高等工業學校書記	中澤治之助
同	同	金子一松
同	同 雇	岡本謙三
同	靜岡縣屬	勝亦大平
同	濱松市役所書記	青貝泰義

施設概要

委囑先 清水市

開設地	會場	科目數	延回數	延時間數	生徒數 申込者	生徒數 許可者	生徒數 修了者	生徒數 皆出席者	生徒數 修了歩合	關係者數 講師	關係者數 指導員	關係者數 事務取扱
清水市	清水市木材商組合事務所	二	一九	五六	九六	五六	五四	三〇	九六・四%	二	三	二

備考 1、本表ニハ課外講演者三名ヲ含ム
2、本表ニハ見學時數ヲ含マズ
3、申込者中聽講者トシテ許可セルモノ左ノ如シ
許可者 一七名 修了者 八名

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回數	時間	生徒數	聽講生
清水市	十月四日（水）自午後七、三〇至九、三〇	保健道	靜岡縣衛生技師 村山午朔	一	二	五六	一五
	十月六日（金）自午後六、三〇至九、三〇	同	同	一	三	五四	一三
	十月十日（火）自午後六、三〇至九、三〇	思想問題	靜岡師範學校教諭 藤井祐正	一	三	五四	一三
	十月十三日（金）自午後六、三〇至九、三〇	同	同	一	三	五三	一一
	十月十八日（水）自午後六、三〇至九、三〇	生活ト數理	庵原中學校長 北川藤吉	一	三	五二	九
	十月二十日（金）自午後六三〇、至九、三〇	惟神ノ大道	靜岡高等學校教授 川瀬光順	一	三	四七	一一
	十月二十四日（火）自午後六、三〇至九、三〇	同	同	一	三	五四	一一
	十月二十七日（金）自午後六、三〇至九、三〇	自治體ノ經營	清水市長 大石惠直	一	三	五〇	八
	十月三十一日（火）自午後、三〇至九、三〇	能率生活	鈴與商店顧問 上中甲堂	一	三	五五	一〇
	十一月二日（木）自午後六、三〇至九、三〇	同	同	一	三	五三	九
	十一月七日（火）自午後六、三〇至九、三〇	自然科學	靜岡師範學校教諭 小野慎一	一	三	五五	七
	十一月十日（金）自午後六、三〇至九、三〇	國史	文部省社會教育官 岩松五良	一	三	五〇	九
	十一月十一日（土）自午後六、三〇至九、三〇	同	同	一	三	五三	九
	十一月十四日（火）自午後六、三〇至九、三〇	自然科學	靜岡師範學校教諭 小野慎一	一	三	五三	八
	十一月十七日（金）自午後六、三〇至九、五〇	國民道德	靜岡縣社會教育課長 相京伴信	一	三	五四	七
	十一月二十一日（火）自午後六、三〇至九、三〇	同	同	一	三	五四	九
	十一月二十四日（金）自午後六、三〇至九、三〇	產業人精神	市會議長、教育會長 鈴木與平	一	三	四四	五
	十一月二十九日（水）自午後六、三〇至九、三〇	經濟	靜岡縣社會課長 加藤澄藏	一	三	五〇	一〇
	十一月三十日（木）自午後六、三〇至九、三〇	同	同	一	三	四九	九

年齢別調

開設地	二十歳未滿	自廿一歳至廿五歳	自廿六歳至三十歳	自卅一歳至卅五歳	自卅六歳至四十歳	自四十一歳至四十五歳	自四十六歳至五十歳	計	備考
清水市	六	一四	一六	一二	五	三	一	五六	

學歷別調

開設地	尋常小學半途退學	尋常小學校卒業	高等小學半途退學	高等小學校卒業	補習學校卒業	中等學校半途退學	中等學校卒業	計	備考
清水市	—	九	二	三三	三	二	八	五六	

職業別調

開設地	窯業	金屬工業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	皮革骨甲木竹類等工業	飲食料品嗜好品業	被服身ノ廻り製造業	土木建築業	製版印刷本業	學藝娯樂裝飾品業	瓦斯電氣業	交通運輸業	其他	肥料製造業	計	備考
清水市	—	一	四	—	—	—	二四	八	—	—	—	—	四	二	—	四	五六	

一、本施設ノ準備經營狀況效果ニ關スル一般的事項

1、九月十四日午時一時ヨリ市役所會議室ニ縣當局並市内ノ會社工場商店關係者ノ會同ヲ求メ第二回本講座實施計畫ノ内容ニ付懇談打合ヲナス

2、各會社工場商店ノ中堅勞務者中ヨリ生徒ヲ選拔ス

3、指導員ハ昭和七年度第一回本講座ニ當リ擔當セル經驗者ニシテ毎日生徒ト行動ヲ共ニシ熱心ニ萬端ノ指揮指導ノ任ニ當リ生徒思慕ノ中心トナリ其間圓滿ナル進行ヲ見タリ

4、講師並指導員事務取扱及生徒ノ間柄ハ極メテ親睦ニシテ愉快ニ終始シ且生徒ノ聽講態度ハ頗ル眞劍ナリシハ本施設ノ期待ニ副ヒタルモノト認ム

5、十月三十一日文部省成人教育課長並十一月十一日文部省社會教育局長來淸セラレ親シク本講座ヲ視察セラレ懇篤ナル訓示ト激勵ノ辭ヲ賜ハリ生徒ニ對シ多大ノ感動ヲ與ヘ爾後一層緊張セル態度ヲ以テ修養ニ努メ且本講座將來ノ發達ニ對シ非常ナル好影響ヲ與ヘタリ

二、講義要項(省略)

三、講義ノ質疑應答ノ内容講師ノ感想意見及生徒ノ感想等ニ對スル指導員ノ報告

1、講義ニ對スル質問ハ豫想ヨリ僅少ナリシモ何レモ自已ノ環境ヲ披瀝シ之ヲ精神生活ニ導カンガ爲ノ質問ニシテ各々講師ヨリ明答ヲ與ヘラレ滿足セルモノヽ如シ

2、生徒ノ眞劍ナル研學態度統制アル動作ニ付テハ各種會合ニ出席セラルヽ講師ハ彼此比較對照ノ上何レモ讃辭ヲ寄セラル

3、生徒ノ感想「產業中堅」第二號トシテ印刷中 (省略)

4、指導員ノ感想

生徒ハ何レモ極メテ眞面目ナリキ、特ニ係員ノ指示ニヨク從ヒ心ヲ配リテ場内ノ整理ニ努メ終始嚴肅ニシテ而モ和氣靄々タル裡ニ學德ノ併進ヲ見タルハ無上ノ幸福ニシテ又以テ本講座ノ趣旨ニ副ヒ得タルモノト信ズ

然レドモ本講座ノ眞價ハ今後ノ實生活ニ如何ナル改善深化ヲ齎スヤニ依ツテ論斷セラルヽモノニシテ本市ニハ既ニ第一回修了生ニヨリ產業中堅會ヲ設立シ鋭意相互ノ連絡向上ニ努力シツヽアリテ今回ノ終了生モ悉ク之ニ加入セシメ着實强固ナル團體トシテ相互修養ニ一路邁進シ得ルハ益々本施設ノ眞價ヲ發揚スル所以ナリ

隨テ本施設ヲ眞實懇切ニ誘導扶助スルコトハ聽テ地方ノ一大改善ヲ齎スモノト信ズ

四、懇談會、修養旅行等ノ狀況及效果

1、十月十四日生徒並家族懇談會ヲ本市公會堂ニ開催セルニ生徒家族並ニ第一回修了生等二百餘名ノ出席アリ市長、學務課長、指導員、事務取扱、本縣社會教育課ヨリ勝亦屬出席シ交々種々ノ注意希望等ヲ述ベ本講座ヲ家庭ニ理解セシムルト共ニ家庭ノ教化ニマデ力ヲ致シタルニ相當ノ效果ヲ擧ゲタリ

2、十一月四日ヨリ五日ニ亘ル一泊二日ノ修養旅行ハ室内勞働又ハ煩雜ナル生活ヲ日常トセル生徒ニ對シ大自然ノ靈感ト宗教的薰化ヲ與ヘン爲メ富岳ノ中麓駿東郡玉穗村樂山莊(文學博士高楠順次郎氏建設ノ修養施設)ヲ選定セリ

而シテ之ニ參加セルモノハ聽講生ヲ加ヘ五十三名ナリ其旅行概要左ノ如シ

イ、午前十一時市役所前集合紀念撮影

廣田學務部長、相京社會教育課長、大石市長、上中講師其他參加
ロ、徒歩ニテ江尻驛ニ向フ
ハ、午後〇時十六分乘車。御殿場ニ向フ渡邊學務課長外一行五十三名
ニ、午後一時五十九分御殿場着
ホ、午後三時半マデ御殿場尋常高等小學校首席訓導木村氏ノ案内ニテ承久殉忠ノ士藤原宗行卿ノ墓ニ詣デ淺間神社ニ參拜實
　業ナル西園寺公別莊ヲ見學シ現地講話ヲ乞ヒ且御殿場ニ關スル講話ヲモ受ケタリ
ヘ、午後三時半自動車ニ分乘秋色酣ナル裾野ヲ疾驅シテ柴山莊ニ至ル
ト、午後四時旅裝ヲ解キ部屋割ヲ定メ大講堂ニテ先着ノ高楠講師夫人ト挨拶ヲ交シ柴山莊ニ由來等ヲ承ル
チ、續イテ圓座ヲ作リ自己紹介
リ、高楠講師來着セラレ挨拶ヲ交ス
ヌ、休憩入浴
ル、午後七時食堂ニ集合高楠講師ヨリ食前食後ノ講ニ付說明アリ一同之ヲ唱ヘテ感謝ニ滿チタル夕食ヲ頂ク
ヲ、小憩ノ後高楠講師ノ指導ニヨリ佛前ノ「オツトメ」續テ講話(日本ヲ貫ク建國ノ精神ト淸算)及壁畵釋迦一代記ノ說明
ワ、自己紹介並懇談茶話會
カ、午後十時佛前ニ禮拜シテ就寢
ヨ、五日午前五時半、半鐘ヲ合圖ニ元氣ヨク起床、直ニ渡邊學務課長ノ先導ニテ十數分間翫足林間ヲ縫ヒ或ハ廣キ道路ニ出デ「ヨイサ、
　ヨイサ」ノ掛聲薄暗キ林間ニコダマシ生氣潑溂勇マシキコト限リナシ
ソレヨリ登山道ニ整列シ皇大神宮　宮城ヲ遙拜シ君カ代二唱、四股ヲ踏ミ天衝運動、棍棒運動ヲ行ヒ更ニ勞務者ノ歌ヲ唄ツテ淸氣ヲ滿
　喫ス
タ、黎明富士山ノ神秘ト箱根連峰ヨリ射シ上ル旭光ヲ拜シ淸淨雄大ノ氣ニ打タレ大自然ノ靈氣ニ浸ル
レ、大講堂ニ集合高楠講師指導ノ許ニ朝ノ「オツトメ」及座禪ヲ行フ
ソ、七時食堂ニテ朝食
ツ、休憩、柴山莊內見學
ネ、佛前ニ禮拜、高楠講師夫妻ニ挨拶シ、自動車ニ分乘長尾峠ニ向ツテ出發
ナ、長尾峠ニテ紅葉セル箱根全山、峠ヨリ見タル大富士ノ雄姿、芦ノ湖ノ勝景ヲ觀賞シ學務課長コリ箱根火山ニ關スル講話ヲ聽キ下山御

殿場驛ニ向フ
ラ、午前十一時二十六分御殿場驛發
ム、午前十一時五十五分三島着三島大社參拜、大秡ヲ賜ハリ宮司ノ御厚意ニヨリ社務所ニテ晝食
ウ、午後一時四十三分三島發
キ、午後三時八分江尻驛着愉快ニシテ有益ナリシ旅行ヲ祝シテ解散ス
五、本施設終了後ノ修了生ニ對スル輔導計畫
第一回修了生ヲ以テ既ニ同窓會組織シ淸水市產業中堅會ト稱シテ時々會合シ修養ニ資シツヽアルヲ以テ第二回修了生モ全部入會セシメタル
ヲ以テ將來一層會員ノ團結ト向上ニ努メ以テ淸水市產業人ノ進步向上ニ寄與セントスルモノナリ
六、本施設ニ對スル會社工場管理者並一般社會ヨリノ感想批評
各會社工場、商店主ハ何レモ本事業ニ對シ多大ノ期待ト贊意ヲ表シ生徒申込ハ第一回同樣非常ナル超過ヲナス有樣ニテ修養旅行等ニハ特ニ
生徒ニ臨時休暇ヲ與ヘ又講習狀況ノ視察等ニヨリ鼓舞奬勵セリ、又修了後ノ生徒ニ付本講座ニヨル效果談等アリテ其ノ將來ノ期待ニ自信ヲ
得タリ
七、本施設ニ對スル事務取扱員ノ感想
本市ハ港灣都市タル關係上勞務者ノ類顯ル多ク而モ其ノ內下級勞務者大部分ヲ占ムル狀態ニシテ之ガ敎育指導ハ極メテ重要ナル問題ナリ
從來是等勞務者ノ屢〻主ハ單ナル營利行爲ニ終始シ勞務者ノ敎化指導或ハ地位ノ向上等ニ付テハ特種ノモノヲ除クノ大部分ハ殆ンド顧ラレ
ザル實情ナリシニ本講座施設ニ當リ各屢〻主ノ大部分ガ進ンデ之ニ共鳴シ後援ノ態度ニ出デタルハ時代ノ一大進步ニシテ洵ニ愉快ニ感ズル
次第ナリ
本施設ガ個々中堅勞務者ヲ敎導スルト同時ニ他面各屢〻主ノ指導上ニモ效果ヲ齎ラス一石二鳥ノ收穫アルヲ認ムルモノニシテ此ノ施設ヲシ
テ年々繼續シ更ニ其ノ終了者ノ結盟ト向上輔導ニ努メ加フルニ各會社工場商店主及市內有識者ヲ後援機關トシテ進マバ勞資協調自ラ成リ勞
務者ハ申スモガナ一般產業人ノ資質向上シ本市產業界ノ圓滿ナル發達ニ寄與スル所ハ蓋シ大ナルモノアルベキヲ確信スルモノナリ
八、本施設ニ關シ將來ノ計畫
1、本施設ハ既ニ本市ニ於テ二回實施セルニ何レモ極メテ優良ナル成績ヲ收メタルニ鑑ミ今後年々繼續實施ヲナシ溫健中正ニシテ克ク產業
　精神ヲ體得理解セル產業人ヲ市內各方面ニ遍在セシメ以テ本市產業改善振興ニ資セントス
2、本講座終了生ノ今後指導ニ關シテハ特ニ研究考慮シ終了生ヲシテ有終ノ美ヲ收メシムルコトヲ期セムトス
九、本施設ノ決算報告

（省略）

一〇、本施設ノ委員指導員事務取扱ノ職氏名

指導員　清水市主事　渡邊矢三郎
同　靜岡縣屬　勝亦大平
同　鈴與商店員主任　櫻井源作
事務取扱　清水市書記　花島六郎
同　岡田鬼見太

愛知縣

委嘱先愛知縣
開設地名古屋市

委囑先愛知縣

施設概覽

開設地	會場	期間	科目數	延時間數	生徒			關係者數		
					申込者	許可者	修了者	皆出席者	修了歩合	講師	委員	指導者	事務取扱
名古屋市	昭和塾堂	一九	八	三三	四三	四三	四〇	三三	九三・〇三	八	一	二	三

講師及講義題目一覽

開設地	名古屋市							
期間、曜日、時間	自昭和九年一月八日 至同二月十六日 毎週月、水、金ノ三曜日 自毎日午後二時 至同五時							
講義題目	職業ト生活	國民道德	俳句ノ味ヒ方作方	最近ノ經濟問題	社會法概要	信仰生活	詩歌	
講師職氏名	愛知縣社會教育主事 友清辰雄	昭和塾堂長 堀内文吉	小峯邦壽	名古屋高等商業學校 教授 赤松要	名古屋地方裁判所判事 河合清六	山下信義	昭和塾堂教諭 大場貞吉	
回數	三	七	四	三	三	一	八	
時間數	六	九	六	六	六	五	八	
備考								

音樂	體操	見學	計
		名古屋工廠 名古屋地方專賣局	計
		二月六日 自午前九時 至午後三時	
音樂	體操	見學	八
愛知縣聯合青年團書記 鷲頭軍治	愛知縣社會教育主事補 指導員 千葉政春		八
六	五	一	三五
六	五	六	五三
			體操、見學ノ回數時間數ヲ除ク

備考 以上ノ外一夜宿泊講習會一回、懇談會二回實施セリ

年齡別調

開設地	生徒數	二十歲未滿	自廿一歲至廿五歲	自廿六歲至三十歲	自卅一歲至卅五歲	自卅六歲至四十歲	自四十一歲至四十五歲	自四十六歲至五十歲	自五十一歲至五十五歲	自五十六歲至六十歲	備考
名古屋市	四三	五	一四	九	七	五	二	一	—	—	

學歷別調

開設地	生徒數	不就學者	小學校半途退學	尋常小學卒業	高等小學卒業	補習學校卒業	中等學校半途退學	中等學校卒業	專門學校半途退學	專門學校卒業	備考
名古屋市	四三	—	—	三	一三	一二	—	一五	—	—	

職業別調

開設地	生徒數	窯業	金屬工業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	皮革骨甲竹木類工業	飲食嗜好品工業	被服身廻リ品製造業	土木建築業	製版製本印刷業	學藝娛樂裝飾品業	瓦斯電氣業	鑛業	運輸交通業	其他	備考
名古屋市	四三	—	—	一六	六	一五	—	—	二	—	—	四	—	—	—	—	—	

一、本施設ノ準備經營狀況及效果ニ關スル一般的事項

イ、準備

縣下男工百人以上使用ノ工場、會社主宛生徒ノ推薦方ヲ求ム申込四十三名、全部入學許可セリ

ロ、經營狀況

講師ガ單ニ知識技藝ヲ紹介傳達スルニ止ラズ講師ト生徒トノ人格ノ接觸ヲハカルコトヲ根本方針トシ輔導方法ニ留意シテ生徒ノ自發的研學心、研究的態度ノ養成ニ努ム

ハ、效果

會場ハ精神修養ノ聖堂タル昭和塾堂デアル上ニ講師ノ獻身的努力ト生徒ノ自發的研學態度トニ依テ非常ナル效果ヲアゲ生徒ハ自己ノ知見ト人格ノ向上進歩セルヲ自覺セルハ勿論、各社會工場主ヨリモ之ガ工場ニ及ボスベキ好影響ニツキ深甚ノ謝意ヲ表セリ

二、講義質疑應答ノ內容、講師ノ感想意見、生徒ノ感想論文演習等ノ結果ニ關スル指導員ノ報告

イ、生徒ハ眞摯ナル質疑シナシ特ニ經濟、社會法、俳句ニ對シテハ非常ナル興味ト研究心ヲ以テ質問ヲ行ヒ講師モ熱心ニ之ヲ指導シ本學級ノ經營方針タル研究的態度ノ養成ニ副ヒシヲ喜ブ

ロ、「職業ト生活」ノ課目ハ生徒ノ職業觀、社會觀、家庭觀ヲ覺醒セシメ各自ノ人生觀ニ新生命ヲ見出シタルモノト信ズ

ハ、音樂、詩武科ハ彼等ノ未ダ觸レ得ザリシ境域ニシテコノ種敎育ニ對シテハソノ反應甚ダ敏活ニ表ハシ興趣湧キ熱心ニ修得セリ以テ情操陶冶ニ與リテ力アリシヲ認ム

三、懇談會、宿泊講習會、見學ノ準備狀況效果

イ、懇談會ハ二回之ヲ行ヒ指導員生徒一堂ニ會シ和氣靄々ノ中ニ相互ノ感想理想等ノ發表ヲ行ハシメ各自ノ刺戟練磨ニ努ム

ロ、宿泊講習會ハ別表ノ日程ニヨリ昭和塾堂ニ於テ實施ス神ニ對スル禮拜、食事訓ヲ各家庭ニ取入レテ實行スルモノ多ク更ニ事上練磨ニヨリ日常ノ「躾」ヲ體得セシメタリ

ハ、映畫敎育ハ生徒ノ心底ニ强キ感銘ヲ與ヘ國家觀念ヲ一層强化セリ

四、本施設修了後ノ修了者ノ輔導施設

修了者ハ何レモ日本勞務者敎育協會ニ入會シ本協會ノ支部員トシテ支部ニ於テ輔導ス

ソノ方法ハ各工場毎ニ修養班ヲ設ケ或ハ全會員ノ修養會ヲ催シテ指導ス

五、會社工場管理者並一般社會ヨリノ感想

イ、會社工場管理者ハ何レモ本學級ノ效果ニツキソノ眞價ヲ認メ斯種教育施設ヲ要望ス

ロ、一般社會モ漸次ソノ重要性ヲ認識シツヽアリ、名古屋ニ於テハ本年度ヨリ勞務者教育ヲ開設スルニ至レリ

六、本施設ニ關スル指導員事務取扱ノ感想

上述ニヨリテ明カナル如ク本學級ノ經營ハソノ方法ニ於テ效果ニ於テ偉大ナルモノアルヲ認ムル故繼續的ニ開設スルト共ニ更ニ範圍ノ擴大サレンコトヲ望ム

七、本施設ノ委員、指導員、事務取扱ノ職氏名

委員	愛知縣學務部長	小田光伴	
指導員	愛知縣社會教育主事補	千葉政春	
	昭和塾堂教諭	山田清	
事務取扱	愛知縣屬	矢野秀雄	
	愛知縣社會教育主事補	千葉政春	
	昭和塾堂書記	鈴木竹三郎	

大阪府

委嘱先　大阪府
開設地　大阪市

委囑先大阪府

施設概覽

開設地	會場	期間	科目數	延時數	生徒數 申込者	許可者	修了者	皆出席者	修了歩合	講師	委員	指導員	事務取扱	關係者數
大阪市	大阪市立弘島工業學校	三五	一〇	六四	一二四	六〇	五七	三三	九五・〇〇	一〇	一	二	二	
	西野田職工學校	三五	一〇	六四	一〇六	六〇	五五	二九	九一・六六	一〇	一	二	二	

講師及講義額目一覽

會場　大阪市北區大阪市立弘島工業學校

期日、曜日、時間　自昭和八年十一月十四日至昭和九年二月十二日　二十五回　毎週、火木曜日　自午後六時三十分至午後九時十分

講義題目	講師職氏名	回數	時間數	備考
最近ノ經濟問題	京都帝國大學教授 經濟學博士 汐見三郎	四	一〇	
近世産業史	大阪商科大學教授 經濟學博士 堀經夫	三	七、五	
政治問題	關西大學教授 吉田一枝	三	七、五	
國民思想	大阪府學務課長 島田牛稚	三	七、五	
國民道德	大阪府社會教育主事 成田軍平	二	五	
産業人ノ責務	大阪市立都島工業學校長 小山幹也	二	五	

大阪市此花區大阪府立西野田職工學校	自昭和八年十一月十五日 至昭和九年二月十二日 三十五回 毎週、水金曜日 自午後六時三十分 至午後九時十分	中堅勞務者ノ使命	大阪府社會教育主事 奥井平七	一	一、五
		工場安全	大阪府工場課長 藤野英陽	一	二、五
		勞務者保健體育	大阪府體育運動主事 甲佐知定	二	二、五
		工場音樂	大阪音樂學校長 永井幸次	二	二、五
		最近ノ經濟問題	京都帝國大學教授 經濟學博士 汐見三郎	四	一〇
		近世產業史	大阪商科大學教授 經濟學博士 堀經夫	三	七、五
		政治問題	關西大學教授 吉田一枝	三	七、五
		國民思想	大阪府學務課長 島田牛稚	三	七、五
		國民道德	大阪府社會教育主事 成田軍平	二	五
		產業人ノ責務	大阪府立西野田職工學校長 土屋三郎	二	五
		中堅勞務者ノ使命	大阪府社會教育主事 奥井平七	一	一、五
		工場安全	大阪府工場課長 藤野英陽	一	二、五
		勞務者保健體育	大阪府體育運動主事 甲佐知定	二	二、五

工場音樂	大阪音樂學校長 永井幸次	二	二、五		

年齡別調

開設地	生徒數	二十歲未滿	自二十一歲至二十五歲	自二十六歲至三十歲	自三十一歲至三十五歲	自三十六歲至四十歲	自四十一歲至四十五歲	自四十六歲至五十歲	自五十一歲至六十歲	六十一歲以上	備考
大阪市	(都島) 六〇	—	二一 三五%	二四 四〇%	一三 二二%	一三 三%	—	—	—	—	
	(西野田) 六〇	—	二三 三八%	二一 三五%	一三 二二%	三 五%	—	—	—	—	

學歷別調

開設地	生徒數	不就學者	尋常小學半途退學	尋常小學卒業	高等小學卒業	補習學校卒業	中等學校半途退學	中等學校卒業	專門學校半途退學	專門學校卒業以上	備考
大阪市	(都島) 六〇	—	—	八 一三%	二五 四二%	四 七%	三 五%	一八 三〇%	—	二 三%	
	(西野田) 六〇	—	—	七 一一%	二九 四八%	—	七 一三%	一六 二六%	—	一 二%	

職業別調

開設地	生徒數	窯業	金屬工業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	皮竹革類骨等甲工木業	飲嗜食好料品品業	被品服製身造廻業	土建木築業	製版印本刷業	學藝娛樂裝飾品業	瓦電氣斯業	鑛業	交輸通運業	其ノ他	備考
大阪市	(都島) 六〇	—	五 八%	三 五%	一九 三二%	一〇 一七%	—	一 二%	三 五%	五 八%	—	六 一〇%	—	二 三%	—	五 八%	三 五%	

大阪市（西野田）	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
		三五%	二%	一六%	一〇%	六		五%	三	
			五%	三						
				五%	三					
					五%	三				
						二%	一			
							二%			

一、本施設ノ準備、狀況、效果等ニ關スル事項

一、準　備

イ、實施計畫

本教育ノ實施ハ既ニ三回ニ及ビ其ノ實績ニ鑑ミテ關係者協議ノ上會場、期日、時間、教育方針、教授事項、講師、學生ノ募集並選定方法等實施計畫ヲ決定セリ

ロ、會　場

會場ハ從來ノ通リ之ヲ大阪市ノ工場地帶タル北大阪方面及西大阪方面ニ選定スルヲ適當ナリトシ北大阪方面ノ會場ニ大阪市立都島工業學校ヲ西大阪方面ノ會場トシテ大阪府立西野田職工學校ヲ選ブ、兩學校ハ何レモ勞務者ニモ關係多ク又、學校當局者ハ過去三回ノ實施ニヨリテ本教育ニ對シテ最モ經驗ト理解アリ

ハ、教育方針並講師及教授事項ノ選定

文部省ノ方針ニ基キ特ニ精神的修養、生活訓練ニ重點ヲ置キテ教授訓練ヲナスコトヽセリ

講師並教授事項ノ選定ハ最モ重要ナル事項ナルヲ以テ愼重ニ考慮シタリ講師ニハ人格、識見ニ優レテ勞務者ノ生活ニ理解ヲ持チ斯教育ニ對シ經驗アリ且趣味ヲ有スル人士ニ依囑シ又指導員ニハ其職務ノ性質上勞務者ノ實情ニ詳シク本教育ニ對シテ趣味ト經驗ヲ有スル篤志家ヲ選ビタリ

教授事項ハ經濟、政治、思想ノ問題ニ對シテソノ認識教養ヲ高メシムルト共ニ中堅産業人トシテ必要ナル科目及保健情操涵養ニ資スル科目ヲ別項ノ如ク選ビタリ

二、學生ノ募集並選定

本施設ノ實績ヲ擧グルニ最モ必要ナル要件ハ學生ノ選定ニアルヲ以テ別紙ノ如キ募集要項ヲ府下ノ男子勞務者百人以上ヲ使傭セル會社工場ニ對シテ中堅勞務者中ヨリ適當ノ學生ヲ選拔シテ推薦スルヤウ依頼ノ通知ヲ發スルト共ニ十月二十五日各會社工場ノ勞務關係者ノ參集ヲ求メテ懇談會ヲ開キ實施上ニ關シテ種々懇談ヲナシテ推薦方法ヲ協議セリ又、本施設ヲ一般社會ニ知ラシムルノ必要上府政記者ニモ學級開設ノ趣旨、計畫等ヲ發表セシトコロ各新聞ハ何レモ之ヲ掲載セリ

入學申込ハ會社工場ニ於テ豫メ學生ヲ選拔ノ上之ニ順位ヲ附シテ推薦スルコトヽセリ、入學詮衡ニ關シテハ本施設ノ趣旨ニヨリ成ルベク多數ノ工場ヨリ入學セシムル方針ヲ採リ種々ノ事情ヲ考慮シテ一工場三名以内ニ制限シ都島、西野田各學級ニ六十名宛ノ入學ヲ許可セリ

推薦ノ會社工場ニ對シテハ直ニソノ結果ヲ通知スルト共ニ別記ノ如キ時間割ヲ送附セリ

人ニモ同樣時間割ヲ送附セリ

二、狀　況

イ、開　會　式

都島學級ハ十一月十四日、西野田學級ハ十一月十五日何レモ午後六時三十分ヨリ夫々講堂ニ於テ開會式ヲ行フ、會社工場關係者、講師輔導學友會幹事並府側ヨリ學務部長、學務課長、社會教育關係者等列席ノ下ニ遙拜國旗敬禮、國歌齊唱、勅語奉讀、長官告辭（學務部長代理）講師代表、工場關係者代表、輔導學友會代表ノ夫々挨拶アリテ嚴肅裡ニ閉會セリ

ロ、教　授　及　訓　練

教授及訓練ハ別項時間割ニ依リテ之ヲ實施セリ、教授ハ普通最初ノ二時間二十分（二時間又ハ二時間半ノ場合モアリ）講義ニ後ノ二十分（四十分又ハ四十五分ノ場合モアリ）ヲ質疑討究ニ充テタリ、尙講義ノ前ニハ必ズ指導員ニヨリテ靜座瞑想、修養句ノ朗誦等ノ訓練行事ヲナシテ緊張セル受講氣分ヲ醸成シ又講師ノ時間ノ終リタル後ニモ前同樣ノ行事ニテ思索靜觀ヲ行ヒ時ニハ體操等ヲ適宜課スルコトモアリ

學生ハ何レモ熱心ニ聽講シソノ求學的眞摯ノ態度ハ自ラ講師ニ反映シ講師亦熱心懇切ニ講述セラレ教室内ハ實ニ親和緊張ノ氣漲レリ

尙兩學校共級長副級長ヲ選定セシメテ學級團體トシテ行動スベキ事務ヲ自治的ニ處理セシメ之ニヨリテ輔導學級獨特ノ自治的團體訓練ノ氣風ヲ養ヘリ

ハ、出　席　ノ　狀　況

學生ニハ學生券ヲ交附シテ毎回出席ノ都度係員ニ於テ證印シテ出席ヲ奬勵スルト共ニ又、會社工場關係者ニ時々之ノ學生券ヲ提示セシメテ出席ノ狀況ヲ明ニシテ會社工場トノ連絡ヲナセリ、會社工場ニ於テモ學生ニ對シテハ勤務時間ヲ考慮シ中ニハ交通費、辨當代、等ヲ支給シ或ハ學級ニ於ケル時間ハ之ヲ勤務時間トシテ賃金ヲ支給スル等本施設ニ對シテ會社工場側ハ好意的ニ多大ノ援助ヲナシタリ又、從來ノ經驗ニ徵シテ主催者側ノ熱心ニ出席スルコトハ學生ノ出席心理ニ非常ニ效果アラシムルモノナルヲ似テ毎回指導員ハ勿論係員ニ名宛講義ノ終了スルマデ出席シ居タリ、從ツテ出席狀況ハ頗ル良好ニシテ毎回九十%以上ノ出席率ヲ示セリ、然モ缺席ノ原因ノ大部分ハ病氣ニヨルモノニシテ稀ニ家族ノ事故及特種ノ勤務等ニヨルモノアリタリ

ニ、修　了　式

二月十二日午後六時三十分ヨリ都島工業學校講堂ニ於テ兩學級ヲ合シテ修了式ヲ擧行セリ、遙拜、國旗敬禮、國歌齊唱、修了證書授與
皆出席賞狀授與、長官（學務部長代理）告辭、講師代表者祝辭、會社工場關係者代表祝辭、輔導學友會幹事長祝辭、修了生總代ノ答辭
等アリテ式ヲ閉ヂ、都島學級ハ六十名中五十七名、西野田學級ハ六十名中五十五名ニ對シテ修了證書ヲ授與シ兩學級皆出席者六十一名
ニ對シテハ皆出席ノ賞狀ヲ授與シタリ
閉式後奥井指導員ヨリ日本勞務者敎育協會ノ趣旨ニ就キテ詳細說明シテ同協會支部タル大阪輔導學友會ノ入會ヲ熱誠勸奬セリ、尙修了
生ニ對シテハ府ヨリ講入シタル協會徽章ヲ交付シタリ

三、效　果

修了後ニ於テモ講師、指導員、學生間ノ融合一體ノ情誼ハ濃厚ニ繼續セラレテ益々其ノ敎養ヲ向上セシメ家庭生活及ビ勤務生活ニ新ラシ
キ自覺ヲ與ヘタリ學生ハ何レモ、會社工場ヨリ選拔セラレタル中堅勞務者ニシテソノ素質良ク修了後ニ於テハ眞ニ中堅產業人トシテノ自
任ノ念ヲ高カラシメテ規律、節制禮讓ヲ重ンジテソノ行動ハ他ノ勞務者ニ對シテ感化ヲ與ヘ會社工場ニ於テモコレヲ採用スルニ至レリ
尙會社工場ニ於テハ輔導學級修了者ニ對シテハ相當ノ援助ヲナシ最近會社工場內ニ修了者ヲ似テ親睦ヲ目的トスル會ヲ組織スルノ氣運盛
トナリ既ニ成立セシモノ十數ケ所ニ及ベリ
本修了者ハ一般社會ヨリモ認メラレ其ノ輔導學友會ニ對シテハ各方面ヨリ援助激勵ヲ受ケ殊ニ大阪每日新聞社及大阪朝日新聞社ニ於テハ
各種ノ會合ニ會場ヲ提供スル等種々ノ便宜ヲ供與セリ

七、講義ニ對スル質疑應答ノ內容、學生ノ感想

イ、質疑應答ノ內容

一、思想問題ニ關シテハ自己ノ體驗ニ基キテ深刻ナル質問ヲナスモノアリカヽル場合ニ於テハ公正ナル觀念ヲ把握スベク適確ニ解答セリ
一、講師ニ對シテ極メテ禮儀正シク且ソノ態度ハ研究的ニシテ講義事項ノ外ニ講義ニ關係アル時事問題ノ質疑可ナリ多カリキ
一、ジヤアナリズムノ煽動的意見又ハ黨派的意見ニ累セラレ歸趨ニ迷ヒシ結果トシテ第三者ノ公正ナル見解ヲ求メントシテ極メテ質實ナ
ル質疑ガ試ミラレタ例ヘバ(イ)高物價政策ト低物價政策トノイヅレガ正シキヤ(ロ)爲替安ト爲替高トイヅレガ正シキヤ、(ハ)公債政策
ト增稅政策トノ利害得失
一、中小商工業ノ存立及保護ニ關スル研究的質問乃至希望アリシハ頗ル關心ヲ惹キタリ其ノ他產業史上ノ古キ制度ニ關スル質疑及自由經
濟ト統制經濟ニ關スル時事的質疑等アリタリ
一、學生ハ其ノ態度何レモ極メテ眞面目ニシテ向學心ニ燃エ其ノ質疑ハ相當深刻ニシテ之ノ方面ノ專門敎育ヲ受ケタルカノ如キ感ヲ與ヘ
ラレタルモノアリタリ尙學校ノ研究室又ハ私宅宛ニ文書ニヨリテ質疑ヲ送リタル若干ノ熱心ナル學生モアリシガ何レニ對シテモ納得出
來得ルヤウニ懇切ニ解答シタリ

ロ、學生ノ感想

各學生ノ提出シタル感想別冊ノ如シ（附錄一、二）（省略）

三、懇談會、一夜訓練講習、見學等ニ關スル狀況

イ、懇　談　會

西野田學級ハ十二月十五日都島學級ハ十二月二十一日ニ夫々ノ學校ニ於テ自發的ニ懇談會ヲ開催セリ、準備、司會、進行等凡テ學生ニ依
ツテ自治的ニ行ハレ自己紹介ヲ兼ネテ感想、體驗談等ヲ順次ニ述ベテ誠ニ打チ融ケタル親シミ深キ會合ナリキ
第二回ハ一月八日午後七時ヨリ府立實業會館ニ於テ都島、西野田兩學級ヲ合同シテ開催ス島田學務課長、挨拶ヲ述ベ各學生ハ用意ノ茶菓
ヲ喫シツヽ和氣藹々裡ニ胸襟ヲ開キテ相語リ又、輔導學友會幹事ヨリ學友會ノ活動狀況ヲ說明シテ修了後ニ於ケル親睦修養ノ方法ヲ述ベ
タリ更ニ懇談發表ヲ終リテ工場災害防止ヲ主材トセル「泣くな若者」及「奥樣どらん」ノ二種ノフキルムヲ映寫シテ興味ノ中ニ鑑賞セリ
本懇談會ニハ講師、工場關係者及先輩格タル輔導學友會幹事等多數ノ出席アリテ有意義ニ終リタリ

ロ、一夜訓練講習

本學級ニ於テ團體修養訓練ニ最モ大ナル效果ヲ收ムルモノハ本講習ナリ都島、西野田ノ兩學級ヲ合シテ二回之ヲ行フ。
學生ハ家庭及工場生活ヲ離レテ塵外ノ靈場ニ寢食ヲ共ニシテ奥井、若生兩指導員ノ熱誠ナル訓練行事ニヨツテ感謝ノ念ニ燃エ多大ノ感激
ヲ與ヘラレタリ

第一回

會　場　豐能郡　萩ノ寺
日　時　昭和八年十一月二十五日(土)午後六時三十分ヨリ二十六日(日)午前八時迄
行　事

十一月二十五日午後六時三十分　會場集合
同　七時——七時三十分　開會、注意、行事
同　七時三十分——八時三十分　食　事
同　八時三十分——十時　講　演
同　十時——十時三十分　夜ノ行事
同　十時三十分　整頓、就寢

十一月二十六日午前五時——六時二十分　朝ノ行事
同　六時二十分——七時二十分　講　演
同　七時二十分——八時　食　事
同　八時　解　散

第二回

會　場　京都府乙訓郡　粟生光明寺
日　時　昭和九年一月二十日(土)午後七時三十分ヨリ二十一日(日)午前八時三十分
行　事
一月二十日　午後七時三十分　會場集合
同　七時四十分——八時　開會行事
同　八時——八時四十分　食　事
同　八時四十分——九時三十分　講　演
同　九時三十分——十時三十分　體驗修養發表
同　十時三十分　夜ノ行事整頓、就寢
一月二十一日　午前五時——五時三十分　起床整頓
同　五時三十分——六時三十分　朝ノ行事
同　六時三十分——七時三十分　講　演
同　七時三十分——八時三十分　食　事
同　八時三十分　解　散

ハ、見　學

二月三日午後一時造幣局正門ニ集合シ先ヅ造幣局ノ見學ヲナシ更ニ大阪工廠ノ見學ヲ終ヘテ四時半頃解散ス。見學ハ學科ノ一部トシテ之ヲ行ヒ見學場所ハ學生ノ希望ニヨリテ之ヲ選定シ造幣局及大阪工廠ニ對シテハ豫メ見學方ニ關シテ依頼シ置キタルタメ特別ニ種々便宜ヲ供與セラレテ學生ハ何レモソノ得ルトコロノ大ナルコトヲ喜ビタリ

四、本施設修了後修了者ニ對スル輔導計畫

輔導學級修了者ノ輔導方法ニ關シテハ特ニ意ヲ用ヒ修了生ハ必ズ日本勞務者教育協會ノ會員タラシメ昭和五年以降ニ於ケル勞務者輔導學級修了生ヲ以テ組織セル日本勞務者教育協會支部大阪輔導學友會ニ入會セシメテ相互ノ親睦教養ノ向上ヲ圖レリ、輔導學友會ハ府當局ト聯絡ヲトリテ大イニ修養施設ヲ講ジテ活動シ其ノ會員數ハ殆ンド四百名ニ達シタリ

昭和八年度ニ於テ實施シタル主ナル事業左ノ如シ

會報ノ發行（毎月一回）
皇陵參拜（三回）
社會見學（三回）
總會開催（二回）
講演開催（二回）
演藝ト映畫ノ夕開催（會員及家族相互ノ慰安懇親ノタメ）
新年互禮會開催
會旗調製及入魂式
紀元節奉祝大會參加
定例幹事會開催

尚府ニ於テハ輔導學友會ヲ援助シ聯繫ヲ保チテ輔導ヲナスノ外府主催ヲ以テ第一回ヨリノ修了者ヲ全部集メ見學懇談ヲ兼ネテ一夜講習ヲ行ヘリ、前年ハ神都ニ於テ林崎文庫ヲ會場トシテ之ヲ行ヒシガ本年ハ五月頃吉野ニ於テ南朝ノ遺跡ヲ偲ビツヽ講習ヲナ　豫定ナリ

五、本施設ニ對スル會社、工場管理者並一般社會ヨリノ感想批評

會社工場管理者ハ何レモ本施設ノ效果ノ顯著ナルコトヲ感謝シ益々斯教育施設ノ擴充ヲ希望シ殊ニ大阪市南部及堺市方面ノ會社工場關係者ヨリハ來年度ヨリ是非南大阪ニ學級增設セラルヽコトヲ希望セリ、會社工場管理者ヨリノ感想ヲ別冊ノ通添付ス（附錄三）（省略）

一般社會ニ於テモ漸次修了生ノ人格等ヲ通シテ本施設ノ重要性ヲ痛感スルニ至レリ

六、講師、指導員、事務取扱等ノ感想

イ、講　師　感　想

其ノ一

學生ノ求學的眞摯ナル態度ハ實ニ感服ノ外ナク又學級ノ空氣モ回ヲ重ヌル毎ニ融和ノ美風濃厚トナリテ第四回ノ如キハ晝間ノ學校教育以上ノ熱心ナル空氣漲レリ、今後益々此ノ精神ヲ發揮セシムレバ確カニ斯教育ノ實績ヲ擧ゲ得ル事ト信ズ

其ノ二

學生全部ガ非常ニ熱心且眞劍ナリシハ講師トシ欣快ニ堪ヘズ

學生ハ單ナル思想トシテノ或ルイズムヲ數ヘラレルヨリモ寧ロ現今ノ我國並他ノ諸國ノ經濟情勢ヲ大摑ミニシテ數ヘラレル方ヲ希望セルモノヽ如シ、歷史的叙述ニ興味ヲ有チタルハ案外ナリシモソレハツマリ前記ノ希望ニ合致セルガ故ナルベシ、之ヲ要スルニ個々ノ經濟時事問題ヲ無連絡ニ解說スルヨリモ大勢ノ說明中ニ織込ンデ之ヲ說テキストヲ強メ配布スルノ必要ヲ感ジ又年級制度ヲ設ケテ初等ヨリ高等ニ進ム樣ニシテハ如何

其ノ三

學生諸君ノ熱心ナル受講ブリハ優秀ナル勞務者ヲ選ビテ入學セシメラレタルニ依ルコトナレドモ他ニソノ類ヲ多ク見ザルホドニテ感心ノ至リナリ。而シテ平易ナルコトヲ面白ク聽カセラルヽヨリモ多少難解ナリトモ眞ニ有益ニシテ且ツ必要ナル事項ヲ望ムノ傾向ハ現ハレ今後ニ於テモ修了者ニ對スル輔導援助ノ勞ヲ惜マザルモノナリ

其ノ四

優秀ナル才能ヲ有シナガラ憑マレザル境遇ニ妨ゲラレ學究ノ機會ヲ得ズシテ成人ノ域ニ達シ常ニ充サレザル心ヲモツテ勞務ニ從事シ來レルモノ等ニ對シテハ當ニ之レ渴者飮ヲ得タルノ感アリト云フモ過言ニアラザルベシ

學習ノ態度頗ル眞摯ニシテ求智ノ心旺盛ナルヲ認メ得ベク之レテ一般學級ノ徒弟或ハ敎員講習會員等ノ情況ニ比スレバ遙ニ優秀ナル成績ヲ示スモノト言フヲ得ベシ、殊ニ時間勵行ノ習慣ニ訓練ヅケラレテ謙讓ニシテ禮儀ニ厚ク指導スルモノヲシテ大ニ好感ヲ深カラシムルモ一學級ノ人員ヲ減ズルヲ要ス

其ノ五

級生數稍ゝ多キノ感アリ——經濟上其ノ他ノ事情アルヲ信ズルモ講師ト學生トノ間ニ且ツ學生相互ノ間ニ人格的接觸ヲ持タシムル爲ニハ更ニ一學級ノ人員ヲ減ズルヲ要ス

級生ノ素質——今回ノ輔導學級生ハ其ノ素質至ツテ宜シカリシヤウ感ジタルガ比較的多數ヲ以テ學級ヲ編成セル今日ニ於テハ一層學力ヲ揃フルヲ要ス、就中課スル所ノ學科目ガ社會問題、經濟問題等ノ如ギモノニアリテハ特ニ一部ノ者ニ幸シテ他ハ興味ナク員ニ備ハルガ如キコトナキヲ保セザレバナリ

指導上ノ愚見——推薦ニ當リテハ勿論會社工場ガ愼重ニ代表的人物ヲ以テシタルモノナルモ所謂有力者ナルモノハ兎角口ノ人ナルノ緣アルモノニシテ輔導學級生中偶ゝコノ種ノモノナキヲ保セズ、思フニ將來勞資ノ間ニ立チテ眞ニヨク衆望ヲ繫ギ同職ヲ指導シ得ルモノハ沼々タル目先キノ利ケル悧巧者ニアラズシテ人格的ト尊敬サルベキ誠實ナル人物タルヲ要スルモノナレバ、輔導學級ニアリテハ他ノ青年團ナドニ比シ指導上格別ノ注意ヲ要セン

在來學校長ニ於テ「職長ノ心得」ヲ擔當シ來レルモ月並ノ講話ニアラズシテ彼等級生ニ即シテ琴線ニ觸ルヽ話ヲナシ得ベキ適任者ヲ選ベレンコトヲ望ム、而テ學校長ハ講師トシテヨリモ寧シロ親切ナル世話人トシテ絕エズ接觸指導ノ任ニ當ルヲ可トセン、此ノ點ニ關シテハ夙ニ其ノ任ヲ自覺シナガラ本務繁劇ノ爲メニ期待ニ副ヒ得ザルヲ憾ミトス

ロ、指導員感想

別冊ノ通リ添付ス（附錄四）（別項參照）

ハ、事務取扱感想

一、本敎育ハ實ニ有效適切ナル施設ニシテ會社工場ニ於テモ其ノ效果ノ顯著ナルコトヲ認メテ年ト共ニ入學希望者ノ推薦ノ數ハ增加シ本年ハ漸クソノ五四%ニ對シテ入學ヲ許可シタルモノニシテ將來南大阪方面ニ一學級ヲ增設シテ成ルベク多クノ勞務者ヲ收容敎育スルノ途ヲ講ゼラレンコトヲ望ム

一、講師、指導員諸氏ノ熱誠ト學生ノ眞摯ナル態度求智心ノ旺盛トハ融合一體トナリテ緊張セル敎室ノ空氣ニ接シテハ晝間ノ疲勞等ハ忘レタルガ如シ

一、筆記ニハ不馴レノ者多キヤウニ思ハレタリ、出來得レバ詳シキテキストヲ印刷シテ學生ニ配布シ講義ヲ把握セシムルノ要ヲ痛感ス

一、輔導學級開設中文部省府關係官及會社工場關係者等ノ本敎育狀況ヲ視察セラルヽコトハ學生ノ心理上ニ洵ニ有益ナル效果アラシムルモノニシテ一層勸誘ヲナサントス。日本勞務者敎育協會ノ有吉理事ガ二月一日ニ都島學級ヲ二月二日ニ西野田學校ヲ視察セラレテ夫々兩學校ニ於テ訓話ヲナサレタルトキノ如キ學級ハ非常ニ感激シタリ

一、勞務者敎育ノ實ヲ完カラシムルタメニハ修了後ノ輔導ヲ最モ重要トス從ツテ修了後ノ輔導施設ニ對シテモ相當ノ經費ヲ支出セラレンコトヲ望ム

七、募集要項講義要項其ノ他本施設ニ於ケル配布物ノ一括添付

別冊ノ通リ之ヲ添付ス（附錄五）

八、本施設ノ委員、指導員、事務取扱ノ職氏名

委員	大阪府學務部長	崎山省吾
指導員	大阪府社會敎育主事	奥井平七
同	大阪市立都島工業學校敎諭	若生大四郎
事務取扱	大阪府主事	山本儀三郎
同	大阪府社會敎育主事補	大江久五郎
同	大阪市立都島工業學校書記	池上軍一

同　大阪府西野田職工學校書記　安達正人

附錄

感想ト批評

第四回大阪府勞務者輔導學級　指導員若生大四郎

一、學科目選定

每回學級生並ニ修了生ヨリ多少ノ希望モアルガ大體ニ於テ從來ノ學科目ニテ適當ト思フ

二、講師ノ選定

大學又ハ專門學校ノ教授デ相當ノ權威者デアルト同時ニ特ニ勞務者教育ニ多分ノ關心ト興味ヲ持チ、修了後ト雖モ報酬問題ヲ超越シテ講演指導ノ勞ヲ厭ハザル人ヲ最適任者ト認メル。現ニ會社、工場等ニ勤務中デ斯界ノ權威者ガアッテモ、出來得ル丈教育家ニ講師ヲ求ムル事ガ穩當デアル。文部省並ニ府當局側ノ講師ハ當然缺ク事ハ出來ナイ。

三、受講生選定

應募者ノ工場數ト選拔者數ニモ因ルガ原則トシテハ一工場一名ヲ單位トシ、事情ノ許ス限リ一名宛增スコトヽシテ餘程ノ事由ナキ限リ三人以上ハ採用セヌ方針ニスル事ガ效果的デアルト思フ。一ハ公平デアルコト他ハ普及的デアル。次ニ民間工場、官業方面共更ニ從來ニ優ル勸誘ニ努力スルコト。

四、本省並ニ當局ノ激勵

當學級ヲシテ名實共ニ愈々益々權威ヅケル爲文部省又ハ日本勞務者教育協會ヨリ局長閣下及ビ理事ノ御方ガ御視察下サル事ハ學級生ヲシテ感激セシムル許リデナク工場會社側ヲシテ理解ノ度ヲ深カメサスモノデアル事ヲ信ズ。大阪輔導學友會ノ發會式ガ行ハレタ如キ、本年ハ有吉理事ノ御視察ト御訓話ガアッタ如キ、幾レモ異常ノ好影響ヲ及ボシテキル。大阪府ノ勞務者教育ヲシテ眞ニ盛大ナラシムル爲ニハ、資本家階級ノ理解モ得ルト同時ニ先ヅ長官閣下ヲ始メ學務部長學務課長各位ノ御出馬ヲ仰ギ各工場關係者立會ノ下ニ修了生ヨリ成ル大阪輔導學友會ガ主催トナッテ一大講演會ガ一回位デモ催サレテ然ルベキデハナイカト思フ。此ノ產業都市ノ大大阪ニ於テ勞務者教養團體最高權威ヲ目指ス吾々ハ是非長官閣下ノ第一線ニ乘リ出サレテ號令シテ貰ヒタイト念願シテキル。吾々ハ長官閣下ヤ市長ガ青年團ヤ處女會ヤ婦人會ニ於テ御訓辭乃至御指揮遊ササル樣ニ大大阪ノ勞働者教養團體デアル、大阪輔導學友會或ハ日本勞務者教育協會大阪支部員ノ大同團結ノ爲ニ矢面ニ御立チニナラレル日ノ一日モ早カランコトヲ御祈リシテキルモノデアル

五、講義前後ノ行事

物事ヲ始メルニハ用意ガ肝心デアル。充分ナル覺悟ノ上ニ周到綿密ナル準備ガ大切デアル。一日ノ筋肉勞働ヲ終ヘ、夕食モソコ〳〵ニ馳セ參ジテ來ル學級生ニ對シテ講義前指導員ト共ニ二三分間ニ過ギナイガ靜坐、瞑想ヲナシ多少デモ邪念、妄想ヲ除去シテカラ御聽、正氣ノ歌日本精神、心ノ力、夕ノ朗誦等ノ修養句ヲ論シ受講ノ態度ヲ決定スル事ハ當輔導學級ノ一特徵デアッテ頗ル有效適切ナル手段デアルト考ヘテキル。僅カ十分間ノ受講準備デアルガ之ガ爲ニ悉皆學習氣分ガ釀成サレテ仕舞フ。講師ガ御見エニナルマデ再度靜坐、瞑想ガ繰リ返サレ嚴肅裡ニ講義ガ始マル。

講義ガ終レバ直チニ指導員ニヨッテ前同樣ノ行事ガアルガ講義時間ノ都合上二十分位ノ餘裕ガアル場合ハ適宜生活指導訓練ニ關スル話ヲスル。

六、一夜訓練講習

輔導學級生活中最大級ノ效果ヲ上ゲルノハコノ一夜訓練講習デアル。每回十二月ニハ阪急沿線曾根ノ萩ノ寺ト一月ニハ京都粟生ノ光明寺トニ於テ行ハレル。コノ講習ハ都島、西野田兩學級生ガ合同デ參加スル爲百人以上ニ達スル。最初ヨリ修養ヲ目指シテキル關係上規律統制アル團體訓練ニ終始スル。

講師ハ府學務課長島田牛稚氏、社會教育主事ノ成田軍平、奥井平七、山本儀三郎ノ三氏及ビ不肖デ事務一般ノ御世話ヲ社會教育主事補大江久五郎氏外數氏ノ學務課員ノ方々ガ爲サレル。

家庭ト工場トヲ離レテ起食ヲ共ニシツヽ感謝ト報恩ノ念ニ燃エ新リト懺悔ノ境地ニマデ心境ノ轉向ヲ來シテ更生ノ涙ニ歡喜スルコトハ唯此ノ講習ニ依ルノミデアル。

殊ニ受講生諸君ガ衷心ヨリ感激ニ滿チタ謝辭ヲ述ベタリ、體驗ヲ語リツヽ、邦家ノ爲奮勵ヲ誓フコトハ熱ト力ト誠ノ顯現ニ因ル此ノ講習ノ賜デアル。然ルニ斯樣ナ有益且ツ效果的一夜講習ニ對スル會社工場側ノ理解ガ遺憾ナガラ充分トハ言ヒ得ナイ。ソレハ何等ノ屆出ナクシテ缺席スルモノサヘアルコトデアル。勞務者教育ニ於テ此ノ講習ニ最モ重點ヲ置イテキル事ニ想到シテ貰ッタラ蓋シ無斷缺勤ノ如キハアリ得ナイ筈デアルト思フ。

寧ロ積極的ニ會社工場側ヨリ萬障ヲ繰リ合シテ出席セシムベキ重要性ヲ持ツ講習ナノデアル。

七、懇談會

會期中都島、西野田兩學級共夫々別ニ獨立シテ自發的ニ開ク懇談會ト府當局主催ノ合同懇談會トガアルガ夫々特徵ガアッテ有效デアルト思フ。更ニ此機ヲ利用シテ修了生ノ會デアル輔導學友會幹事ガ出席サレテ在學中カラ修了後ノ活動ニ關シ連絡提携ニ盡心シテ貰フ事ガ出來タ

事ハ著シイ進歩デアル。此ノ懇談會ハ専メ指導員ニ於テ司會其他ノ方法ニ就キ打合モヲナシ数人ノ委員ヲ設ケテ自治的ニ一切ノ世話ヲ爲サシムルコトガ有效デアル。

何意見、感謝等ヲ發表スルニ當テハ毎回定ッタ様ナ工場代表者ニ偏セズ廣ク公平ニ指名シテソノ發表ノ機會ヲ與ヘルコト些少ノ事デハアルガ忘却出來ナイ大切ナ點デアル。

八、社會見學

平素ハ時間的ニ餘裕モナク彼等學徒ノ力デハ到底見學シ得ナイ方面ヲ所當局ノ御諒力デ見學出來ル所ハ殆ンド一人ノ洩レナク參加ヲ見彼等ノ滿足ハ此上モナイ。又大阪朝日毎日兩新聞社モ特ニ厚意ヲ示シテ見學ヲ歡迎シテキル。

「見ルホド學ブホドアル」工場管理、工場ノ安全設備、災害防止設備、作業狀態等々見學ヲ通シテ體得スル利益ハ實ニ大キイ。

而モ見學指導ニ慣ルトモ劣ラナイ程有效性ガアルト信ズルガ故ニ此方面ノ研究ガ一段ト大切ダト思フ。他ノ優良工場見學ニ際シ更ニ技術上、管理、經營上ニマデ及ブ所ノ專門的指導ガ出來タラ實務ニ從事スル彼等トシテノ利益ハ實ニ幸福ハ其大ナルモノガアラウト思フ。

九、指導精神ノ要訣

指導員ハ文字ノ示ス様ニ保護者ノ様ナ心持デ親切ニ數ヘ導クモノデナクテハナラヌ。英國ニ於テハテニーダートト言ッテキルガ本當ニ家庭數ノ樣ナ態度デ保護監督、指導スルノデナクテハナラナイ。

ダガラ勞務者ヲ君ニ接スルニ際シテ第一ニ吾々ノ考慮ヲ要スル點ハ彼等ヘ「何ヲ要求シテキルカ？」彼等ハ今如何ナル心境ニ在ルカ？」ト云フ樣ナ、心理學的考察ヲ無視シテ唯徒ニ與ヘントスルモノヽ品定メニ心ヲ痛メテモ結局勞多クシテ效少キ現象ヲ生ムト外ハナイ。一目瞭然ヲ見テ、ソノ疲勞ヲ察シ、心ノ個ミヲ洞察シ、不滿ト歡喜ノ心情ガ吻合シテ指導者トシテノ資格ハナイモノダト思フ。

學校生活中ハ折ニ觸レ機ニ望ンデ彼等ノ家庭生活、工場生活等ヨリ生ズル多角形的煩惱ガ吐キ出サレル機ニナラナクテハ眞ニ彼等ノ生活指導訓練ガ出來得ルモノデハナイト考ヘテキル。

講義修了後遺ガラ寮風ニ吹カレ乍ラ、共ニ慰メ合ヒ、勵シ合フ態度コソ實ニ任務デナクテハナラナイ。而シテ學校修了後ハ更ラニ一層親密ニ私的交際ヲ生ミ家庭集會カラ工場訪問トナリ上司ノ認識ヲ深メ且ツ本人ヲ激勵疑ハルル所ニ至ッテ愛ニ始メテ完全ナル模ガ打チ込マレルノデアル。

一時的ノ感激ヤ更生ヘノ講演會等ニ於テ與ヘルコトガ出來テモ永續性ニ乏シイコトハ世間周知ノ事實デアル。

然シ斯クシテ個人的ニ精神的利益ト幸福トガ直接指導員ト、ヨリ互ニ與ヘ繪ラレ的ニ、レル彼等ト共ニ、オ互ニ、ヒハ、メニ社會生活、交際ニ於テ、彼等ノ意義モ實ニ、イコ、ノデアル。

現實化スベク努力シナクテハナラナイト考ヘル。

吾々ハ職業的意識ヲ離レ、一個レ以外ニ人間トシテ此ノ心情コソ指導精神ノ要訣ダト思フ。

一〇、修了後ノ指導

輔導學徒修了後、彼等ハ果シテ如何ナル生活ヲシテキルカ。學徒生活ガ彼等ニトッテ如何ナル效果ヲ認メテキルカ何ウカ。此邊ノ實情調査ガ不充分デアレバ此ノ事業ノ前途ニハ往ニ個ミヲ一括スベク計畫サレタ大阪輔導學友會ノ護生コソオ互期救濟ノ供給所デアリ激勵、疑ノ修養ニ個ミガ多クナルト信ジマス。

此等ノ個ミヲ一括スベク計畫サレタ大阪輔導學友會ノ護生コソオ互期救濟ノ供給所デアリ激勵、疑ノ修養ニ個ミガ多クナルト信ジマス。

故ニ我々ハ能フ限リ修了生ト此ノ道場デ渡リ會ヒ大イニ氣合ヲカケテ魂ト魂トノ融キ合ヒヲセネバナラヌト思フ。

（昭和九年三月十日）

眞ノ了解モ得ラレルト思フ。

兵庫縣

委囑先神戸市

開設地神戸市

施設概覽

委囑先 神戸市

開設地	會場	期間	科目數	延時間數	生徒	申込者	許可者	修了者	皆出席者	修了歩合	關係者數	講師	委員	指導員	事務取扱
神戸市	神戸市立葺合商工實修學校	自昭和八年十月二十日至同年十二月十九日	七	五四	八七	五〇	四六	一六	九二%		七	一	二	三	

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回數	時間數	備考
神戸市	昭和八年十月二十日ヨリ同年十二月十九日マデ 毎週二回 火、金ノ日 毎回夜間三時間	日本精神	兵庫縣御影師範學校教授 岡田五免	三	九	
		趣味ノ日本建築史	神戸高等工業學校教授 野地修左	三	九	
		産業管理	神戸商業大學教授 福田敬太郎	三	九	
		米國ノ産業復興法ト我ガ國	神戸商業大學講師 岡本眞一	一	三	
		非常時ニ於ケル市民	神戸商工會議所理事 福本義亮	三	九	
		社會ノ進歩ト發明	神戸高等工業學校教授 上林一雄	二	六	
		家庭園藝	元兵庫縣農會技師 安西義正	三	九	

年齢別調

開設地	生徒數		二十歳未滿	自廿一歳至廿五歳	自廿六歳至三十歳	自卅一歳至卅五歳	自卅六歳至四十歳	自四十一歳至四十五歳	自四十六歳至五十歳	自五十一歳至六十歳	六十一歳以上	備考
神戸市	一〇〇%	五〇	一	一〇% 五	二六% 一四	二三% 六	一〇% 五	一八% 九	二% 一	一	一	

學歷別調

開設地	生徒數	不就學者	小學校半途退學	尋常小學卒業	高等小學卒業	補習學校卒業	中等學校半途退學	中等學校卒業	專門學校半途退學	專門學校卒業以上	備考
神戸市	五〇 100%	—	—	一三 二四%	一五 三〇%	八 一六%	四 八%	二 三%	—	—	

職業別調

開設地	生徒數	窯業	金屬工業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	皮革骨甲木竹類工業	飲食料品嗜好品業	被服身廻品製造業	土木建築業	製版印刷本業	學藝娯樂裝飾品業	瓦斯電氣業	鑛業	交通運輸業	其他	備考
神戸市	五〇 100%	—	二一 四二%	一七 三四%	四 八%	六 一三%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二 四%	

一、本施設ノ準備、狀況、效果等ニ關スル事項

(一)準　備

1、本施設ニ對スル本年度文部省指示及前年度實施ノ諸經驗ニ鑑ミ別項ノ如ク科目及講師ヲ選定ス

2、本年度ハ特ニ勞務者ノ市民生活、家庭生活ニ關スル科目ヲ選定セリ

3、趣意書募集案內書、工業主等ヘノ依賴狀ヲ作製シ各工場會社等ヘ發送シ、生徒募集ニツキ工場勞務關係責任者ト懇談ス

4、推薦シ來レル入學志願者ヲ詮衡シ許否ヲ決シ夫々本人及工場關係者ニ通知スルトトモニ教室其ノ他ノ諸準備ヲ整フ

(二)狀　況

1、別項ノ通リ科目ヲ實施ス

2、生徒缺席ノ際ハ會社工場責任者及當人ヨリ必ズ理由ヲ付シテ屆出デシメタリ

3、生徒關係工場ハ時局柄多忙ナリシ爲前年度ニ比シ缺席稍多ク、皆出席者モ少シ

4、開設中每回前回及前々回ノ修了生數名宛出席シテ自發的ニ諸種ノ援助ヲナセリ

(三)效　果

1、實施セル科目、見學及實習ヲ通ジテ知見ヲ擴メ、情操及意志ノ陶冶ニ多大ノ效果アリシモノト認ム

2、特ニ實習及見學ノ教育的價値大ナルコトヲ認ム

二、講義ニ對スル質疑應答ノ內容、生徒ノ感想、論文演習ニ關スル事項

(一)質疑應答

內容ハ講義ニ即セルモノノミニシテ極メテ穩健ナリ

(二)生徒ノ感想

各生徒ヲシテ感想錄ヲ提出セシメ又個別ニ隨時聽取セル所ヲ整理シタルニ前年度ト大體其ノ軌ヲ一ニシ本施設ニ對シテハ衷心ヨリ感謝セリ

(三)論文演習

課セズ　但シ家庭園藝ハ實習ヲ課シタリ其ノ成績極メテ良好ナリ

三、懇談會、討論會、遠足、見學等ニ關スル事項

(一)懇談會開期中三回實施ス

學級內容ニ對スル感想及希望陳述、職業上ノ知識交換其ノ他餘興等ヲナス

(二)見　學

三回行フ

1、大阪市內見學(十一月廿六日)　見學個所　大阪朝日新聞社、大阪放送局、天王寺、大阪城及城內陳列品

2、海洋氣象臺及測候所(十二月十二日夜間)　氣候ト天體ニ關スル事項ノ說明ト見學

3、神戸港及神戸市中央卸賣市場(十二月十七日)

何レモ前以テ十分ナル準備ヲ以テ說明ト指導ニ努メタリ、生徒ハ相互ニ又指導員其ノ他ト十分接觸スル機會ヲ得テ效果著シ

尙見學先ニ於テモ十分ナル好意ヲ示サレ各種ノ便宜ヲ與ヘラレタリ

四、施設修了後、修了者ニ對スル輔導計畫

(一)修了者全部日本勞務者教育協會神戸市部ニ進ンデ入會セルヲ以テ同支部會員トシテ輔導ス

(二)本年度ニ於テ縣市合同主催短期勞務者輔導學級ヲ經營シ、既住ニ於ケル修了生ノ爲ニ再教育ノ施設ヲナス

(三)市施設成人教育講座等受講ニ便宜ヲ與フ

五、本施設ニ對スル會社、工場管理者並一般社會ヨリノ感想批評等

本施設モ回ヲ重ヌルニ隨ヒ一般ヨリ正當ナル認識ト十分ナル信頼ヲ得、年々希望者增加シ、自由ニ入學ヲ志願セシムル時ハ採擇ニ困難ヲ來ス事情ニアルヲ以テ、本市ニ於テハ適當ナル會社、工場ニ對シ豫メ採用員數ヲ割當テ採用數ヲ協定シツヽアリ

能フベクンバ開講ノ度數ヲ增加セラレタシトノ希望申出アリ

六、講師、指導員、事務取扱等ノ感想

（一）講師ノ感想

1、生徒ノ素質良好ニシテ學究的態度眞摯ナリ

2、生徒ノ質疑ニヨリテ察スルニ思想穩健、態度亦着實眞摯ナリ

3、生徒ハ感謝感恩ノ念深ク極メテ丁寧ナリ

4、眞ニ適切ナル教育施設ト認ム

（二）指導員事務取扱ノ感想

1、會社、工場主等ノ諒解回ヲ重ヌルニ隨ヒ良好トナリ生徒募集及經營上多大ノ便宜ヲ得ルニ至レリ

2、生徒ノ眞摯ナル態度ニハ感服ノ外ナシ

3、講師ハ本施設ニ對シ深キ理解ヲ以テ終始極メテ熱心ニ指導セラレタリ

4、本省ニ於テ經費支出ノ方法ニツキ更ニ御研究アリタシ

七、決算報告（省略）

八、募集要項講義要項其ノ他ノ印刷物（省略）

九、本施設ノ委員、指導員、事務取扱ノ職氏名

委員	神戸市教育課長	目良徳造
指導員	神戸市主事兼視學	道添哲夫
同	神戸市立葺合商工實修學校長	吉田磯治
事務取扱	神戸市書記	平間福一
同	同	谷垣貫仁
同	神戸市立葺合商工實修學校教授囑託	永福

福岡縣

委囑先　福岡縣

開設地　久留米市

委囑先福岡縣

施設概覽

開設地	會場	期間	科目數	延時數	生徒數			關係者數		
					申込者	許可者	修了者	講師	委員	指導者事務取扱
久留米市	公會堂	二〇	三	五四	六三	六二	五九	五〇	九五、一八	一三	二	二	二

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回數	時間數	備考
久留米市	自十一月一日 至十一月二十日 自午後六時 至午後九時	日本國民精神	三池中學校長 白土千秋	三	九	
		最近ノ世界經濟動向ト本邦ノ經濟	九州帝國大學教授 三田村一郎	三	六	
		聯盟脫退後ニ於ケル日本ノ世界的地位	陸軍少將 黒田周一	一	三	
		無限ノ幸福	九州醫學專門學校教授 川口孫治郎	一	三	
		家庭生活ノ要諦	福岡縣社會教育主事 海江田喜次郎	一	三	
		秩序ト文化	九州帝國大學教授 大澤章	二	六	日曜ハ午前九時ヨリ正午マデ
		鄉土人ノ勤勞ト風土	福岡師範學校教諭 金尾宗平	二	三	
		産業人ノ生活	岡部鐵工所長 岡部繁	一	三	
		人及人ノ病	九州醫學專門學校教授 松岡文七	二	六	
		勞働衛生ニ就テ	九州帝國大學教授 大平得三	二	六	

勞務者ト體育	福岡縣社會教育主事補 吉村好兵衛	三	三
音樂	久留米高等女學校教諭 藪文人	三	三

年齢別調

開設地	生徒數	二十歳未滿	自二十一歳至二十五歳	自二十六歳至三十歳	自三十一歳至三十五歳	自三十六歳至四十歳	自四十一歳至四十五歳	自四十六歳至五十歳	自五十一歳至六十歳	六十歳以上	備考
久留米市	六二 100%	三 四、八三%	一九 三〇、六五%	二七 四三、五五%	一〇 一六、一三%	二 三、二二%	一 一、六一%	—	—	—	

學歷別調

開設地	生徒數	不就學者	小學校半途退學者	尋常小學校卒業	高等小學校卒業	補習學校卒業	中等學校半途退學	中等學校卒業	專門學校半途退學	專門學校卒業以上	
久留米市	六二 100%	—	—	一〇 一六、一三%	三八 六一、二九%	—	四 六、四三%	一〇 一六、一三%	—	—	

職業別調

開設地	生徒數	窯業	金屬工業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	皮竹革類骨等甲木工業	飲嗜食料品好業	被服身廻品製造業	土木建築業	學藝娯樂品裝飾業	瓦斯電氣業	鑛業	交通運輸業	其他	備考
久留米市	六二 100%	一 一、六一%	—	—	一二 一七、七四%	二 四、八四%	—	二 四、八四%	一 一、六一%	四五 七二、五八%	—	—	—	—	—	—	

一、本施設ノ準備、狀況、效果等ニ關スル事項ノ報告

1、準備

本縣ニ於テハ過去四ケ年ニ亘リ之ヲ實施セルモ本年度ニ於テハ從來ノ例ヲ破リ別紙(甲)計畫ヲ樹テ本省ノ許可ヲ得テ久留米市ヲ中心トスル郡市ニ在ル工場鑛山長ニ對シ講師派遣方ヲ照會シ久留米市ヲ中心トスル郡市ノ市長村長宛之ガ周知方ト講習員派遣勸誘方ヲ照會セリ

2、經營狀況

十一月一日ヨリ同二十日ニ亘リ日曜以外ハ午後五時三十分ヨリ同六時迄ノ間ニ集合シテ體操靜坐朗詠或ハ音樂等ノ行事ヲ行ヒ午後六時ヨリ同九時マデ別冊講義要項(乙)ニ依リ講義、質疑、應答終ツテ前記ノ如キ行事ヲ行ヒテ解散ス。日曜日ハ午前八時半集合午後四時頃マデノ間ニ普通ノ日ニ準ジテ豫定ノ行事ヲ行ヒタリ。期間中タヾ徒ラニ智識ノ注入ニ偏スルコトナク講師並ニ指導員ト接觸スル機會ヲ多クシ見學一回、懇談會ヲ開クコト三回ニ及ベリ。

見學ハ十一月十一日午後五時頃久留米ヲ發シ福岡市ニ向ヒ福岡縣社會教育館ニ宿泊シテ一夜講習會ヲ行モ引續キ十二日ハ福岡縣水産試驗場試驗船玄海丸ニ乘ジ博多灣ヲ一周ス此ノ見學旅行ニ際シ鄕土史研究家木下讃太郎氏ノ元冠ニ關スル講話並ニ試驗場技師大津清氏ノ水産業ニ關スル講話ヲ聽キ裨益スル所尠ナカラズ。

生徒ニハ別紙(丙)ノ如キ聽講券ヲ交付シテ出席整理ニ便セリ

3、効果

講師各位ノ懇切ナル講義ト會員ノ眞劍ナル態度トニ依リ二十日間緊張裡ニ終始スルコトヲ得會員ノ態度ヨリ見テ必ズ相當ノ成績ヲ收メタルモノト認ム

二、講義ニ對スル質疑應答ノ內容生徒ノ感想等ニ關スル報告

生徒ハ機會アル毎ニ諸講師ノ講義ニ關スル質問ニ力メ殊ニ懇談會等ニ於テハ平素懷ケル諸問題ニ亘リテモ之ヲ質問セルモノ多シ然レ共中ニハ講義時間ニ餘裕ナキ場合モアリ十分ニ質問ヲナス能ハザル向モアリタリ。

生徒ハ晝間勤務シテ二十日間連續シタル講習ニ出席セルヲ以テ其ノ疲勞モ相當ノ域ニ達セルモノヽ如クナルモ一般ニ權威アル諸講師ニ接シテ講義ヲ聽クコトヲ得タルヲ心ヨリ感謝セルモノ多ク感想ニハ次ノ如キモノアリ。(抄)

○日本國體ノ尊嚴ヲ會得シ日本國民ト生レタルコトヲ有難ク思フ。日本國民トシテノ自覺ヲ强メルコトガ出來、私達ノ進ムベキ道ヲハツキリト認識シタ。

肉體的ニ非常ニ疲レタガ、精神的ニ充分ノ收穫ヲ得ルコトガ出來タ。

○一介ノ勞働ナレド、アヘテ委縮スルノ要ナシ尊キ使命ヲ有スルコトヲ强ク感ジタ。

○願ハクハ春秋二回位開催サレ限ラレタル少數ニアラズシテ出來ル丈多數聽講サセタカツタ。

○諸先生ノ御講義ハ非常時日本國民ノ覺悟ヲ促サレルコト切ナルモノガアリマシタ。故ニ私ハ先ヅ實行ト思ヒマシタノデ左記ノ二三ヲ實行

致スコトニ決心イタシマシタ。

1、工場ニ勤務中ハ休憩時間タリトモ絶對禁煙ナスコト

2、幾分カノ智力ヲ高メル爲メ勞務者講座ヲ聽讀ナスコト

3、毎月九圓也貯金ヲナスコト（本月ノ給料ヨリ實行ス）但シ五ケ年計畫目的住宅建設

○今迄新聞ト云フモノニ餘リ興味ヲ持ツテ居ナカツタ私ガ新聞ノ一面ニ興味ヲオク樣ニナツタノハ之モ講習ヲ受ケタ一ツノ賜ト思ヒマス。

最後ニ黑田閣下ヨリノ發案ニヨリテ出來マシタ同窓會ガイツ迄モ續クコトヲ切ニ希望致シマス

○總括的ニ感ジマシタ事ハ建全ナル國家主義ノ高調デアリマス。

今般ノ講習會デ私ハ我國ノ皇道主義國家主義ガ世界人類ヘ幸福ヲモタラス最高最大最上ノ捷道デアル事ガ明瞭ニ分リマシタ。

○出來得レバ一定期間ヲ以テ希望者ニテ工場内ニ夜學ノ設備ガアツタラ若人ノ爲メニモ又修養ニ志ス人ノ爲ニモナリハセヌカト思ヒマス。

○大平先生ノ御話ニテ、酒ノ害ノ程度ヲ知ル事ガ出來マシタ。私ハ此ノ機會ニ精神ノ入替ヘヲ敢ス決心ニナリマシタ。

○自己ノ仕事ニ確信ヲ得明ルイ氣持ニナリ其ノ日〳〵ノ生活ニ感謝シ持分ノ使命ヲ遂行スル積リデゴザイマス。

○時間ノ都合ヲ少シ改正シテ一夜ノ時間ヲ短クシテ日數ヲ多クスルカ一週ニ一度以上ノ休日ガホシイト思フ。

○權威アル各數授各成功者ニ親シク面接シ話ヲ聞キ得タル事ハ、吾等勞務者ニ取ツテ實ニ有難イ極ミデアル諸先生、會社ニ對シテ深ク〳〵感謝シテキル。

○私ハ元來酒飲ガ出來ズ非常ニ恥カシク考ヘ又種々ノ宴會等ニ招待ヲ受ケマスト酒ガ飲メナイノデ恥カシク感ジ最近デハ晩酌ヲシテ酒飲ミノ稽古ヲセルノヂ其後以前通リ止メテシマイマシタ非常ニ感謝シテ居リマス。

○私ハ毎朝五分餘體操ヲスル樣ニナリマシタ。自分自心快活ニナツタ、カニ歌モ歌ヒ家庭ノ者ヲ笑ハス事ガ多イ樣ニナリマシタ。

○私ハ講習期間ニ夫ノ樣ナ二ツノ事ヲ感ジマシタ第一ハ感謝ノ精神、感謝ノ生活デ第二ハ自律的精神、自律的生活デアリマス。

○國家意識ト人世觀ノ確立ヲ爲シ得タコトハ全ク當局ト各講師ノ御蔭デアル。

○本講習會ニ依ツテ非常時ニ直面シテ我々ノ進ム可キ道ニ光明ヲ與ヘラレタル感アリ力強ク愉快ニ大ナル信念ヲモツテ自分ノ職務ニ邁進シ二十日間ニ亘ツテ行ハレタ講習會ヲ意義アラシメ關係者諸講師ノ期待ニ副フ樣ニ努力スル決心デアル。

○講習期間中行ツタ靜座ヲ今毎日行ヒ度シ。

○國家非常時ニ際シ自己ノ立場ヲハツキリト認識サセテイタヾイタコトヲ衷心ヨリ感謝シテキル。

○今後工場ノ業務ニ全身全靈ヲ捧ゲテ社會ノ爲努力致シマス。

○今後モ年一回位ハ同窓會ヲ催ネテ一夜講習會ヲシテ下サル樣ニ御願イシマス。

三、懇談會見學等ニ關スル報告

懇談會ヲ開クコト三回其第一回ハ十一月五日講義修了後松岡講師、指導員、事務取扱ヲ中心ニ懇談セルニ松岡講師大平講師ノ講義ニ關スルモノヲハジメ懇談ノ材料豊富ニシテ時ノ過グルヲ知ラズ第二回ハ見學ト併セ行ヒ第三回ハ閉會式後黑田、川口、松岡、海江田諸講師等臨席中黑田講師同窓會組織ノ提唱アリ各講師並ニ關係者生徒一同滿場大喝采裡ニ同窓會成立ス

四、本施設修了後修了者ニ對スル輔導計畫

前記同窓會ヲ年數回開催シテ各講師ヲ迎ヘ相互研究ヲナス外勞務者講座等讀書ニ依ル修養ヲナスコト、セリ

五、本施設ニ對スル會社工場管理者並一般社會ヨリノ感想

勞務者ニ極メテ適切ナルモノニシテ年々之ガ開設セラレンコトヲ望ムトノ意見多シ

六、講師並ニ關係者ノ感想

1、講師ノ感想（抄）

○痛切ニ要求ニ應マツタ施設ト認ム

講習員ハ粒モ揃ヒ知識慾ノ最モ旺盛ナル年頃ナルニ拘ラズ平素職業上其ノ要求ヲ充タス便宜少キ者多キヲ以テ生徒各位ハ極メテ眞劍ニ學習セリ

○實行指導ハ容易ナラネド頗ル效果的ナリキ

○終了式ニ次デ茶話懇談會開カレ關係當局及講師モ出席打寛ギタル散談ハ頗ル順調ニ進行シ終ニ講習員一同ガ指導員講師側ノ苦心慘憺指導サレタル一貫ノ熱誠ニ全ク朗カニ融合同化シタル最高潮ノ刹那ニ期セズシテ一齊ニ爆發シタルモノナリ級友會ノ發生トシテ稀ニ見ル理想的ノモノナリ

○講義ヲ受ケシモノヽスベテガ眞劍味ヲ帶ビタリシハ稀ニ見ル緊張振リナリ

○カヽル機會ヲ勞務者諸君ニ多ク與ヘタキモノナリ

○將來本施設ニ類スル指導ノ勵行ヲ望ム會社側ヨリ自發的ニ斯クノ如キ機會ヲ設ケ當局ノ指導ヲ仰グノ域ニ達センコトヲ希フコト切ナリ

○開會前主催者講師會社側ノ座談會ヲ開キ勞務者指導ノ骨子ヲ研究協議シ度シ

○級友會ヲ組織シ之ヲ自治的ニ培養善導スルハ最モ贊同スル所ナリ

○時節柄ヨリイフモ職業ノ性質上ヨリイフモ斯ル催ハ誠ニ適切ナルモノナリ
○會員ノ聽講態度ノ熱心眞摯ナルニハ寧ロ一驚ヲ喫シタリ多年教育者トシテ學校教育ニ從事シタル生徒ノ態度ニ比シ一層其感ヲ深クシタリ
○優良ナル勞務者ト限ラズ一般勞務者ニモ受講セシメ度
○輔導學級實施ニ就キテハ地域的ニ年月的ニ内容的ニ一定ノ系統的具案ノ下ニ實行スルコト肝要ナリ
○能フ限リ力ノ同等ニ近イモノヲ以テ學級ヲ組織シ度
○學級開始前聽講者ノ能力思想等ノ程度ヲ知ル方法ヲ講ジ度シ
○講義終リ後各講師ノ講義ヲ速記ニヨリ印刷シテ聽講者ニ配布シテ適當ノ機會ニ實力考試的ノ指導ヲセラレ度シ
○聽講者ト講師トノ共同生活ノ機會ヲ多クシ度シ

2、關係者ノ感想

○長キニ亘ル講習ナリシモ講師ノ懇切ナル講義ト生徒ノ熱烈ナル學習振リニ依リ極メテ意義アル講習タリシコトヲ感ズ
○將來ハ本省計畫ノ通リ一週二日位數ケ月ニ亘リ之ヲ實施シタシ
○本縣ノ如キ多數ノ勞務者ヲ有スル地方ニ對シテハ毎年數ケ所ニ之ガ開催セラレンコトヲ望ム

七、詳細ナル決算報告　別紙(丁)（省略）
八、蒐集要項講義要項其ノ他本施設ニ於ケル配布物ノ一括添付
　別紙　甲、乙、丙、丁
九、本施設ノ委員、指導員、事務取扱ノ職氏名

委員　福岡縣學務部長　川島傳三郎
同　同　社會教育課長　池田欽三郎
指導員　同　社會教育主事補　中村義郎
同　同　井口浩
事務取扱　同　屬　永忠夫
同　久留米市書記　國友直人

二、勞務者講座

二、勞務者講座

一、昭和八年度勞務者講座實施要項

一、趣　旨

勞務者に對し公民的教養並精神的訓練を與へ以て健全なる公民たると同時に優秀なる產業人たるしむるを本旨とす

二、主　催

本講座は本省の施設にして之を道、府、縣に委囑して實施するものとす主催に關しては本省主催又は道、府縣其他との共同主催となすこと

三、開設の場所　學校、公會堂等聽講者の集合に便宜なる所

四、期　間

昭和九年二月迄の間に於て地方の實情に應じ適當なる時期、時間を選び夜間五日間三時間宛か又は晝間三日間五時間宛計十五時間授業をなすを原則とするも地方の狀況に應じて本趣旨に背馳せざる範圍に於て適當に定むるも差支なきこと

五、聽講者

道、府、縣に於て關係官廳、各種團體、工場及鑛山等緊密なる聯絡を保ち協議の決定す

六、教授事項

時代の趨勢に鑑み國民の思想並生活の向上を期する上に緊密なる教養を授くることに留意し單に抽象的知識を與ふるの弊に陷ることなく實生活に卽することを旨とし左の八類中より地方の實情に應じ適當なるものを選びて教授科目となす

第一類　日本國民精神
第二類　國　史
第三類　適正なる時事解說
第四類　道德、宗教、藝術
第五類　政治、法律、經濟
第六類　自然科學
第七類　生活及職業に關する指導
第八類　趣味、娛樂、保健に關する指導

此分類以外に體操及音樂を授業の前後に於て適宜加味すること

七、講　師

講師は人格識見に優れ成るべく勞務者の生活に理解を持ち且斯教育に趣味を有する者を選び豫め必ず本省と合議の上決定し本省に於て本年度限り勞務者講座講師として囑託すること

右の內官職を有せざる者に就ては必ず履歷書添付上申すること

八、修了證書

皆出席者に對しては本省より修了證書を授與するも差支なきこと

九、修了後の輔導

本講座の目的は單に數回の授業のみにて之を達成することは困難なるを以て本講座の修了者の輔導には特に細密なる注意努力を拂ふこと

修了者と本講座に關係ある者を以て學友會を組織し時々研究會、懇談會、修養會等を催すこと

一〇、授業料　授業料等は之を徵せず

一一、事務取扱

本施設の事務を處理する爲に必要あらば事務取扱二名又は三名を置き得ること

事務取扱は道、府、縣職員其他より適任者を選び豫め本省と合議の上本年度に限り本省に於て之を囑託すること

一二、本講座の計畫

本講座の諸計畫に關しては計畫の際必ず本省と合議の上決定すること

二、昭和八年度勞務者講座施設概要

委囑先	開設地	會場	期間	科目數	延時間數	生徒數 申込者	生徒數 許可者	生徒數 修了者	生徒數 皆出席者	生徒數 修了步合	關係者講 講師	關係者講 事務取扱
北海道	札幌市	今井記念館	五	五	一五	二二四（六六）	二〇〇（五二）	一七四（四七）	一三二（三五）	八七・〇〇	五	三
文部省	川崎市	川崎高等女學校	六	九	一五	一九二	一九二	一六九	一六九	八八・〇二	九	三
新潟縣	新潟市	萬代小學校	七	七	一四	一七一	一七一	一三七	一三七	八〇・一一	七	—

二、昭和八年度勞務者講座施設概要

委嘱先	開設地	會場	期間	科目數	時間數	生徒數 申込者	生徒數 許可者	生徒數 修了者	生徒數 皆出席者	生徒數 修了歩合	關係者講 講師	關係者講 事務取扱
北海道	札幌市	今井記念館		五	一五	一三四(六三)	一〇〇(五二)	一七四(四七)	一三三(三五)	八〇・〇	五	三
文部省	川崎市	川崎高等女學校		六	一五	一九三	一九二	一六九	一六九	八〇・〇二	九	三
新潟縣	新潟市	萬代小學校		七	一四	一五一	一五一	一三五	一三五	八〇・一一	七	一
石川縣	金澤市	雀六會館		六	一二	九九	九九	八二	八二	八二・六二	七	三
福井縣	福井市	福井商工會議所		四	一五	五六	五六	四六	一七	七〇・〇〇	四	三
長野縣	諏訪郡平野村	諏訪製糸研究會		五	一五	三〇	三〇	二二	二二	六六・五	五	二
岐阜縣	岐阜市	岐阜縣女子師範學校		六	一五	三五四(三五四)	三五四(三五四)	三五二(三五二)	三五〇(三五〇)	九九・一五	七	
		本郷小學校		六	一五	三一九(三一九)	三一九(三一九)	三一九(三一九)	三一三(三一三)	100・00	七	四
	大垣市	大垣高女		六	一五	四六一(四六一)	四六一(四六一)	四五六(四五六)	四五六(四五六)	九九・五	七	四
		關ヶ原工業組合		六	一五	三五一(三五一)	三五一(三五一)	三五一(三五一)	三四五(三四五)	100・00	七	四
愛知縣	一宮市	市公會堂		八	一三	一六一	一六一	一〇六	一〇六	六五・二	六	三
京都府	京都市	東福寺		三	一六	四四	四三	四三	四三	100・00	六	二
大阪府	堺市	堺市職業紹介所		五	一五	一三	一〇三	九一	九一	九一・00	六	三
兵庫縣	姫路市	市立城南幕常小學校		一〇	一三	一三六	一三五	八五	四一	六六・00	一二	三
和歌山縣	和歌山市	和歌山高等商業學校		五	一六	五七	五七	四一	三一	七一・九三	七	一
岡山縣	岡山市	岡山縣教育會館		六	一七	一三三	一〇三	八一	六七	七九・四一	七	四
廣島縣	廣島市	袋町小學校勞働學校		五	一五	一〇一	一五四	一五四	一五一	100・00	六	三
愛媛縣	今治市	公會堂		七	一五	一六〇(一〇一)	一六〇(一〇一)	一一三(七一)	一一三(七一)	100・00	六	三
福岡縣	直方市	公會堂		三	一六	五六	五六	三五	三五	四五・四五	五	二
長崎縣	長崎市	私立三菱職業學校		五	一六	三六	三六	三四	三一	九六・八七	六	三
二〇	六			二〇	三四	一三四六(一三三六)	一三四六(一三三六)	一〇四〇(一〇二九)	一〇二三(一〇一八)	平均九五・五	一三	五
一一五				一一五	三四							
一三〇				一三〇	三四							

三、昭和八年度勞務者講座年齡別調

委囑先	開設地	生徒數	二十歲未滿	自廿一歲至廿五歲	自廿六歲至三十歲	自卅一歲至卅五歲	自卅六歲至四十歲	自四十一歲至四十五歲	自四十六歲至五十歲	自五十一歲至五十五歲	自五十六歲至六十歲	備考
北海道	札幌市	二〇〇（五三）	四三（三三）	三一（八）	三四（七）	三一（一）	二六（一）	二五（一）	六	四	一	
文部省	川崎市	一九三	三三	六三	四〇	三二	一七	八	二	一	一	
新潟縣	新潟市											

三、昭和八年度勞務者講座年齡別調

委囑先	開設地	生徒數	二十歲末滿	自廿一歲至廿五歲	自廿六歲至三十歲	自卅一歲至卅五歲	自卅六歲至四十歲	自四十一歲至四十五歲	自四十六歲至五十歲	自五十一歲至五十五歲	自五十六歲至六十歲	備考
北海道	札幌市	二〇〇（五二）	四二（三三）	三一（八）	三四（七）	三一（一）	二六（二）	二五（一）	六	四	一	
文部省	川崎市	一九二	三二	六二	四〇	三一	一七	八	二	一	一	
新潟縣	新潟市	一三七	三九	三五	二八	一七	一三	二	三	一	一	修了者
石川縣	金澤市	九九（二）	二六（一）	三三（一）	一三	九	六	九	二	一	一	
福井縣	福井市	五八	八	二九	一二	三	三	一	二	一	一	
長野縣	諏訪郡平野村岡谷	二二一	八	五三	五六	六〇	二〇	一八	三	三	一	修了者
岐阜縣	岐阜市	三五一（三五一）	一四七（一四七）	一九一（一九一）	五（五）	七（七）	一	一（一）	一	一	一	
		二一九（二一九）	九四（九四）	一〇五（一〇五）	一五（一五）	二（二）	二（二）	一（一）	一	一	一	
	大垣市	四七八（四七八）	二〇八（二〇八）	二四九（二四九）	一四（四）	四（四）	二（二）	一（一）	一	一	一	
		三五一（三五一）	二七五（二七五）	七二（七二）	三（三）	一	一	一（一）	一	一	一	
愛知縣	一宮市	一六一	二八	四八	三四	二五	一三	一二	三	一	一	
京都府	京都市	四二	六	五	八	八	六	四	四	一	一	
大阪府	堺市	一〇〇	一	四四	三三	一八	三	二	一	一	一	
兵庫縣	姬路市	一二五	二七	三七	三一	一八	八	三	一	一	一	
和歌山縣	和歌山市	四一	一	九	一二	一〇	六	四	一	一	一	修了者
岡山縣	岡山市	一二〇	四一	二八	一〇	一五	四	二	二	一	一	
廣島縣	廣島市	一五四（一九）	一五（四）	四七（一四）	二六（一）	二五	二三	一一	七	一	一	
愛媛縣	今治市	一六〇（一〇一）	三六（二九）	七九（五六）	二三（一三）	一三（二）	五（一）	二	一	一	一	
福岡縣	直方市	五六	一	六	一一	八	一三	一二	五	一	一	
長崎縣	長崎市	三二（一）	二	一三（一）	八	三	三	三	一	一	一	
合計		三、二七九（一、五七四）100%	一、〇三五（七九一）三二%	一、一七六（六九七）三六・四%	四一六（五八）一二・六%	三〇七（一六）九%	一七二（七）五・三%	一二一（五）三・二%	四一一・二%	八〇・二%	三〇・二%	

四、昭和八年度勞務者講座學歷別調

委囑先	開設地	不就學者	小學校	尋常小學	高等小學	補習學校	中等學校	中等學校	專門學校	專門學校	計	備考
			半途退學	卒業	卒業	卒業	卒業	半途退學	卒業	卒業以上		
北海道	札幌市	—	(三)七	(一七)四三	(二六)九二	一六	(三)一〇	(三)二六	二	五	二〇〇(五二)	
文部省	川崎市	—	—	三〇	八九	三六	五	三	—	一〇	一九三	
新潟縣	新潟市	—	一	二四	七二	一五	五	二	—	—	一三七	

四、昭和八年度勞務者講座學歷別調

委囑先	開設地	不就學者	小學校 半途退學	尋常小學 卒業	高等小學 卒業	補習學校 卒業	中等學校 半途退學	中等學校 卒業	專門學校 半途退學	專門學校 卒業以上	計	備考
北海道	札幌市	—	七(三)	四三(一七)	九一(二六)	一六	一〇(三)	二六(三)	二	五	二〇〇(五二)	
文部省	川崎市	—	—	三〇	八九	三六	五	三三	—	一〇	一九二	
新潟縣	新潟市	—	一	三四	七一	一五	五	一一	—	—	一三七	
石川縣	金澤市	—	—	四	七六(一)	六	二	一一(一)	—	—	九九(二)	
福井縣	福井市	—	一	一八	三五	三	一	—	—	—	五八	
長野縣	諏訪郡平野村岡谷	—	—	二五	一三五	一八	五	三五	—	三	二二一	
岐阜縣	岐阜市	—	—	二四四(二四四)	五二(五二)	三五(三五)	三(三)	一五(一五)	—	二(二)	三五一(三五一)	
		—	—	一七五(一七五)	三七(三七)	—	一(一)	四(四)	—	二(二)	二一九(二一九)	
	大垣市	—	六(六)	三六五(三六五)	九九(九九)	—	一(一)	三(三)	—	四(四)	四七八(四七八)	
		—	一四(一四)	二七六(二七六)	五九(五九)	—	—	—	—	二(二)	三五一(三五一)	
愛知縣	一宮市	—	—	五七	三五	七	二一	二七	八	六	一六一	
京都府	京都市	—	—	五	一八	—	一	一四	—	四	四二	
大阪府	堺市	—	—	三五	三五	一一	二	一五	—	二	一〇〇	
兵庫縣	姬路市	—	二	一〇	九四	二	三	一四	—	—	一二五	
和歌山縣	和歌山市	—	—	三	二一	二	二	九	—	四	一	
岡山縣	岡山市	—	—	二三	四九	三	二	二五	—	—	一〇二	
廣島縣	廣島市	一〇(四) 廣島勞働學校卒業	一	二一(三)	七三(七)	七	五	三四(五)	—	三	一五四(一九)	
愛媛縣	今治市	—	—	九〇(七四)	四七(二三)	六(二)	四(一)	一二(一)	—	一	一六〇(一〇一)	
福岡縣	直方市	—	—	—	二七	—	二	一九	—	八	五六	
長崎縣	長崎市	—	—	二(一)	八	一八	一	二	—	一	三二(一)	
合計		一〇(四) 廣島勞働學校卒業 0・三%	三二(二三) 0・九%	一、四六〇(一、一五五) 四五%	一、一五一(三〇四) 三五%	一八五(三七) 五・七%	七六(九) 二・一%	二九八(三二) 九%	一〇 0・三%	五七(一〇) 一・七%	三、二七九(一、五七四) 100%	

五、昭和八年度勞務者講座職業別調

委囑先	開設地	窯業	金屬工業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	皮革骨類竹木甲等工業	飲食嗜好品料品業	被服身廻リ品製造業	土木建築業	印刷製版製本業	藝術品模様裝飾業	瓦斯電氣業	鐵道業	交通運輸業	其他	計	備考
北海道	札幌市	一	三	二六	一	五八(三九)	一	一	三(一)	二	一	九(一)	一	一〇	一	一九(三)	二九(八)	一〇〇(五二)	
文部省	川崎市	一五	一八	一五	二〇	四	二	一	二四	一	二	三	七	二六	一	一〇	三五	一九三	
所場係	所場市																		修了者ノ

五、昭和八年度勞務者講座職業別調

委囑先	開設地	窯業	金屬工業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	皮竹革類骨等甲木工業	飲食料品嗜好品業	被服身ノ廻リ品製造業	土木建築業	製版印刷製本業	學藝娯樂裝飾品業	瓦斯電氣業	鑛業	交運輸通業	其他	計	備考
北海道	札幌市	—	三	二六	—	五八(三九)	—	一	二三(一)	二	—	九(二)	一	一〇	—	三九(二)	二九(八)	二〇〇(五二)	
文部省	川崎市	一五	一八	一五	二〇	四	二	—	二四	一	二	三	七	三六	—	一〇	三五	一九二	
新潟縣	新潟市	—	四	二五	二六	五	二八	二	五	—	四	八	—	五	—	四	二一	一三七	修了者ノ生徒數
石川縣	金澤市	八	一	二〇	一	七	五	四	—	—	—	—	—	—	—	二一	三二(二)	九九(二)	
福井縣	福井市	—	三	五	七	一七	—	二	三	二	五	七	一	一	—	一	四	五八	
長野縣	諏訪郡平野村岡谷	—	—	—	—	二二一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二二一	修了者數
岐阜縣	岐阜市	—	—	—	—	三五一(三五一)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三五一(三五一)	
		—	—	—	—	二一九(二一九)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二一九(二一九)	
	大垣市	—	—	—	—	四七八(四七八)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四七八(四七八)	
		—	—	—	—	三五一(三五一)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三五一(三五二)	
愛知縣	一宮市	—	—	—	—	一六一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一六一	
京都府	京都市	一	—	六	四	一七	—	—	四	—	—	—	—	二	—	—	八	四二	
大阪府	堺市	—	二〇	三	一九	一九	二	一	二	二八	—	—	—	—	—	—	六	一〇〇	
兵庫縣	姫路市	—	六	九	二一	三八	—	三	六	二	—	七	—	九	—	—	二四	一三五	
和歌山縣	和歌山市	—	—	—	—	四一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四一	
岡山縣	岡山市	—	一	三	二	—	—	—	三三	七	二	一	—	一	—	—	五三	一〇二	
廣島縣	廣島市	—	一三	三三	—	三五(一九)	二〇	二	—	二〇	一〇	八	—	五	—	三	七	一五四(一九)	
愛媛縣	今治市	—	一	—	—	一五六(一〇一)	—	—	—	—	一	二	—	—	—	—	—	一六〇(一〇一)	
福岡縣	直方市	—	一	—	六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三六	—	一三	五六	
長崎縣	長崎市	—	一五(一)	一	一	二	—	二	—	—	—	九	—	—	—	二	—	三二(一)	修了者數
合計		二四 0・七%	八五(一) 二・五%	一四五 四・四%	一〇七 三・二%	二、一八〇(一、五五八) 六七・四%	五七 一・七%	一七 〇・四%	九八(一) 三%	六二 一・八%	二四 〇・六%	五四(二) 一・六%	九 〇・二%	六九 二%	三六 一%	八〇(二) 二・四%	二三二(一〇) 七・一%	三、二七九(一、五七四) 一〇〇%	

六、昭和八年度勞務者講座開設府縣別實施概況

北海道

委嘱先　北海道
開設地　札幌市

施設概覽

開設地	會場	期間	科目數	延時間數	生徒數 申込者	許可者	修了者	皆出席者	修了歩合	關係者數 講師	委員	指導員	事務取扱
札幌市	今井記念館	五	五	一五	二三四（六六）	一七四（四七）	一三三（三五）	八七	五	一	一	三

（備考）生徒數欄中（ ）内ノ數字ハ婦人内數ヲ示ス以下各表トモ同ジ

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回數	時間數	備考
札幌市		公民生活ト思想問題	北海道廳囑託 神守夫	一	三	
	自十一月十三日 至十一月十七日	青年ノ保健ト衛生	北海道廳學校衛生技師 醫學博士 塚田治作	一	三	
	五日間 每夜	國史並ニ日本國民精神	北海道帝國大學 豫科教授 藤原正	一	三	
	自午後六時三十分 至午後九時三十分	體育、趣味、娯樂ノ理論ト實際	北海道廳 體育運動主事 中園進	一	三	
		國際時事解說	北海道帝國大學 豫科教授 法學博士 和田碩純	一	三	

年齡別調

學歷別調

開設地	生徒數	二十歲未滿	自廿一歲至廿五歲	自廿六歲至三十歲	自卅一歲至卅五歲	自卅六歲至四十歲	自四十一歲至四十五歲	自四十六歲至五十歲	自五十一歲至六十歲	六十一歲以上	備考
札幌市	(五二)二〇〇 100%	(三三)四二 二一%	(八)三一 一五%	(七)三四 一七%	(一)三一 一五・五%	(一)二六 一三%	(二)二五 一二・五%	一 六 三%	一 四 二%	一 一 〇・五%	

職業別調

開設地	生徒數	不就學者	小學校半途退學	尋常小學卒業	高等小學卒業	補習學校卒業	中等學校半途退學	中等學校卒業	專門學校半途退學	專門學校卒業以上	備考
札幌市	(五二)二〇〇 100%	— — —	(三)七 三・五%	(一七)四三 二一・五%	(二六)九一 四五・五%	一 一六 八%	(三)一〇 五%	(三)二六 一三%	一 二 一%	一 五 二・五%	

開設地	生徒數	窯業	金屬工業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	皮竹革類骨等甲工木業	飲嗜食好料品品業	被品服ノ身製廻造リ業	土建築木業	製版印刷業	學藝娛樂品業	瓦電氣斯業	鑛業	交運輸通業	其ノ他	備考
札幌市	(五二)二〇〇 100%	—	三 一・五%	二六 一三%	—	(三九)五八 三九%	—	一 〇・五%	(一)二三 一一%	二 一%	—	(二)九 四・五%	一 〇・五%	一〇 五%	—	(二)三九 一九・三%	(八)二九 一四・五%	

一、本施設ノ準備狀況效果等ニ關スル事項

本施設ハ充分ナル準備期日ヲ有セシニ依リ會場ノ設備講師ノ講義內容等モ極メテ充實セルモノアリ爲ニ受講者ハ相當ニ滿足ノ意ヲ表シタリ

二、講義ニ對スル質疑應答ノ內容、生徒ノ感想等ニ關スル事項

イ、質疑應答

本施設ノ講義內容豐富ナリシ爲時間ニ不足ヲ來ス虞アリシヲ以テ質疑應答ノ時間ヲ設ケズ講義終了後及休憩時間ニ於テ質疑應答シタリ

但シ塚田講師ニ講義後引續キ約一時間左ノ質疑ニ應答ス

1、工場ト肺結核

2、就業ト健康障害

3、業務上ノ疾病並ニ負傷

4、榮養ト作業能率

5、作業上ノ衛生的設備及環境

ロ、講習者感想

本講座ニ關シ受講者ノ感想並ニ希望ヲ取纏メタルニ講義ノ配合講師ノ熱心ナル講義開始ノ時間正確ナルコト等ニ對シ感謝ノ意ヲ陳ブルモノ多ク其ノ他主ナルモノヲ擧グレバ

1、講義ノ內容ヲ簡單ニ印刷シテ配布アリタキコト

2、講義ノ內容ヲ限定シ徹底的ニセラレタキコト

3、講義ノ種類ヲ更ニ擴ク專門的ニ充實セシムル樣時間ヲ多クセラレ度キコト

4、本講座ハ勞務者ニ對シ最モ必要ナル施設ナルニ依リ毎年開設セラレ度シ

5、學歷並ニ年齡等ニ依リ區別シ二部ニ講義セラレ度シ

三、懇談會ニ關スル事項

第四日中園講師ノ講義ヲ三十分時間ヲ短縮シ一時半ノ時間ヲ以テ講師ト講習者一堂ニ會シ茶菓ヲ供シ懇親會ヲ開ク、講習者ノテーブルスピーチハ主トシテ本講ニ對スル感謝ヲ表セリ、續イテ餘興トシテ民謠修養歌隱藝等ヲ演ス

終ツテ此ノ評ヲ聽クニ此催ニ最モ感懷ヲ深カラシメタルガ如シ

本講座第二日頃開キ一同ノ親和ヲ計ル事ハ一層本講座ヲ意義アラシムルモノト思料セラル

四、本施設修了後修了者ニ對スル輔導計畫

本施設ハ勞務者ニ於テハ最モ適切ナル施設ナルヲ以テ今後修了者ノ親睦ヲ圖リ座談的會合ヲ開キテ輔導スル計畫ナリ

五、本施設ニ對スル會社工場管理者ノ感想

本講座ニ依リ精神教育上大ナル感動ヲ受ケ向學ノ志ヲ强メラレ產業能率ノ上ニモ益スルモノ大ナリトス、本講座ノ毎年開催セラルヽヲ希望セリ

六、講師、事務取扱等ノ感想

1、講師ノ感想

講習者ハ極メテ眞面目ナリ

受講者ノ學力程度ニヨリ普通科高等科ノ別ヲ設ケタシ

2、事務取扱者ノ感想

本施設ニ各業者ノ就業上差支ナキ時間ヲ選ミテ開設スルヲ以テ雇傭主ノ好評ヲ得タリ受講者中ニハ講義時間ヲ一日二時間トシ開講時間ヲ五時ヨリ又ハ四時ヨリトノ希望モアレド大體ニ於テ今回ノ程度ヲ可トスベシ

受講者ノ教育程度、年齢等ニ依リ普通科（補習學校程度）高等科（專門學校程度）ノ二部ニ別ツコトヲ得バ其ノ成果一層大ナルモノアルベシ

七、本施設ノ事務取扱

北海道廳學務課　永田康治

同　高田鐵重

札幌市役所教育課　多田金三郎

神奈川縣

本省直轄

開設地　川崎市

施設概覽

開設地	會場	期間	科目數	延時間數	生徒數 申込者	生徒數 許可者	生徒數 修了者	生徒數 皆出席者	生徒數 修了歩合	關係者數 講師	關係者數 委員	關係者數 指導員	關係者數 事務取扱
川崎市	川崎高等女學校	六	九	一三五	一九二	一九二	一六九	一六九	八八・〇二	九	一	一	三

講師及講義題目一覽

開場	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回數	時間數	備考
川崎高等女學校	二月十二日（月）自午後七時至八時	發展途上に在る工業港灣都市川崎の展望	川崎市長 中屋重治	一	一	
	二月十二日（月）自午後八時至九時半	勞務者の心得	日本鋼管株式會社川崎工場次長 河田重	一	一・五	
	二月十四日（水）自午後七時至九時	我國の世界經濟上に於ける地位	日本勞務者教育協會主事 田口正治	二	三	
	二月十六日（金）自午後七時至九時	經濟時事問題	東京商科大學助教授 猪谷善一	二	三	
	二月十九日（月）自午後七時至九時	宗教の眞髓	中央大學教授 小林一郎	二	二	
	二月二十一日（水）自午後七時至九時	國防問題	海軍少佐 酒井慶三	二	二	
	二月二十三日（金）自午後七時至九時	日本精神	文部省社會教育局成人教育課長 松尾長造	一	二	
	二月十四日（水）二月十六日（金）二月十九日（月）各自午後六時半至七時	體操	文部省囑託 森秀	三	一・五	
	二月二十一日（水）二月二十三日（金）各自午後六時半至七時	普業	川崎高等小學校訓導 井上治郎	二	一	

事務取扱
川崎市學事兵事課長
書記 伊井素
書記 藤波喜代勝
書記 松隆

職業別調

川崎市	開設地	生徒數	川崎市
100.0%		1,256	100.0%
8.5%	窯業	107	—
9.8%	金屬工業	123	—
8.5%	機械器具製造	107	—
10.0%	化學工業	126	—
4.4%	鐵纖維工業	55	—
1.2%	紙工業	15	—
—	竹類骨角木皮等工業	—	—
3.2%	飲食物嗜好品製造	40	2.5%
0.1%	被服身廻り品製造	1	—
2.3%	土石製造	29	3.5%
1.3%	印刷製本	17	—
4.7%	裝飾品製造	59	11.3%
2.3%	瓦斯電氣	29	—
—	金屬工業	—	—
5.0%	交通運輸業	63	5.0%
6.3%	其ノ他	79	—
	備考		

學歷別調

川崎市	開設地	生徒數	川崎市
100.0%		1,256	100.0%
—	學齡不就者	—	—
—	小學校中途退學	—	—
12.3%	小學校卒業	155	4.8%
18.7%	高等小學校卒業	235	11.3%
25.3%	補習學校卒業	318	5.5%
3.5%	中等學校中途退學	44	2.3%
11.3%	中等學校卒業	142	5.0%
—	專門學校中途退學	—	—
5.0%	專門學校卒業以上	63	—
	備考		

年齡別調

川崎市	開設地	生徒數	川崎市
100.0%		1,256	100.0%
1.2%	未滿二十歲	15	—
3.5%	自廿一歲至廿五歲	44	2.3%
11.3%	自廿六歲至三十歲	142	5.0%
24.0%	自卅一歲至卅五歲	302	16.3%
36.3%	自四十六歲至四十歲	456	9.7%
9.7%	自四十一歲至四十五歲	122	4.8%
4.8%	自五十六歲至五十歲	61	1.2%
1.2%	以上六十一歲	15	—
—	備考		

新潟縣

新潟市
新潟縣
新潟縣
國勢調査區別表

施設概覽

開設地	會場	期間	科目數	延時間數	生徒數	關係者數
新潟市	萬代小學校	自十一月十三日至同二十日	七	一四	申込者一一七 許可者一一七 修了者一三七	八三・八四% 講師七 委員一 指導者一 事務取扱三

委囑先新潟縣

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回數	時間數	備考
新潟市	十一月十三日（月）	適正ナル時事解說	新潟縣學務部長 柴山博	一	二	
同	十四日（火）	國史ト日本精神	新潟高等學校教授 安藤紘亭	一	二	
同	十五日（水）	法律講話	辯護士 田中正名	一	二	
同	十六日（木）	道德ト宗教	新潟醫科大學教授 早船慧雲	一	二	
同	十七日（金）	生活ト職業	新潟市社會課長 天野道隆	一	二	
同	十八日（土）	青年期ノ衛生	新潟市立北濱病院長 石濱文郷	一	二	
同	二十日（月）	產業問題ニ就テ	新潟商工會議所理事 塚野俊郎	一	二	

每日講義前二十分間位「日本國民歌」其他ノ唱歌ヲ練習セリ
講義終了後十分間位工場鑛山基本體操ノ指導ヲナセリ
右指導 石崎講師

年齡別調

開設地	生徒數	二十歲未滿	自廿一歲至廿五歲	自廿六歲至三十歲	自卅一歲至卅五歲	自卅六歲至四十歲	自四十一歲至四十五歲	自四十六歲至五十歲	自五十一歲至六十歲	六十一歲以上	備考
新潟市	一三七 100%	三九 二八%	三五 二六%	二八 二〇%	一七 一三%	一三 一〇%	二 二%	三 二%	一 %%	一 %%	生徒數ハ修了者ノミ女子ハ一人モナシ

學歷別調

開設地	生徒數	不就學者	小學校半途退學	尋常小學卒業	高等小學卒業	補習學校卒業	中等學校半途退學	中等學校卒業	專門學校半途退學	專門學校卒業以上	備考
新潟市	一三七 100%	—	一 1%	三四 二五%	七一 五一%	一五 一二%	五 四%	一二 八%	—	—	生徒數ハ修了者ノミ 女子ハ一人モナシ

職業別調

開設地	生徒數	窯業	金屬工業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	皮甲竹木革等類工骨業	飲嗜食好料品業	土建築木業	製版印刷業	學裝藝飾娛樂品業	瓦電氣斯業	鑛業	交運輸通業	其他	備考
新潟市	一三七 100%	—	四 三%	二五 一八%	二六 一九%	五 四%	二八 二〇%	二 一%	五 四%	四 三%	八 六%	—	五 四%	—	四 三%	二二 一五%	生徒數ハ修了者ノミ 女子ハ一人モナシ

一、本施設ノ準備經營狀況效果ニ關スル一般的事項

イ、本勞務者教育ノ對象タルヘキ生徒ハ主ニ會社工場等ニ勤ムル從業員タルヲ以テ先ツ各會社工場ノ經營者又ハ代表者ノ打合會ヲ開催シ聯絡ヲ取リ他者一般ヨリ募集セル爲豫定人員百五十名ヲ二十名モ超過スルノ盛況ヲ呈セリ而シテ會場ハ萬代小學校裁縫室兼修養室タル疊敷ノ大廣間ニシテ照明設備其他理想的ニシテ特ニ大人用ノ長机ヲ用意シ全生徒ニ對シ鉛筆雜記帳等ヲ與ヘ講義ノ筆記ニ便スル等萬遺漏ナキ樣努メタリ猶準備ニ關シテハ本縣及各講師ト充分打合セヲ遂ケ總テ順調ニ運ヒタリ

ロ、受講者ノ大部分ハ小學校卒業程度ナリシヲ以テ各講師ノ講義モ成ル可ク平易ヲ旨トシ實際生活ニ即シタル問題ヲ興味ヲ以テ講述セラレタルヲ以テ出席良好ニシテ毎夜約百五十名内外ヲ算シ何レモ査間ノ劇務ノ疲勞ヲ忘レタルガ如ク熱心ニ受講シタリ

ハ、本施設ハ勞務者ノ實情ニ適シタル教育トシテ頗ル好評ヲ博シ會社工場主ハ勿論一般ヨリモ感謝サレタリ而シテ受講者モ又自ラ修養ニ資スル端緒ヲ得益々勉學向上ヲ計ルベク努力精進セントスル意氣モ見エ大ナル効果ヲ收メタルモノト認ム

二、講義ニ對スル質疑應答ノ内容、生徒ノ感想等ニ關スル報告

講義ニ對スル質疑ハ主ニ思想方面ニ於ケル最近ノ動向等ニツキ特ニ共產黨員ノ轉向ガ疑問視サレタ者モアツタガ講師ノ適切ナル例證ニ依リ了解セリ其他ノ講義ハ生徒ノ思想學力ニ適應スルヤウ平易ニ且ツ卑近ナル實例ヲ以テヨク徹底セリ依ツテ生徒ノ感想ニモ頗ル滿足ト感謝ノ意志トガ表明サレタリ

三、懇談會討論會遠足見學等ニ關スル報告

修了式後懇談會ヲ開催セルガ次ノ如キ希望アリタリ

イ、期間ヲ延長サレタシ少クトモ三週間位

ロ、科目ニ器械工業方面ノ實科ヲ加ヘテハ如何

ハ、年春秋二回位開催セラレンコトヲ熱望

ニ、公休日ノ晝間ニ開催セラレタシ

ホ、理論ヨリモ實生活ニ觸レタ體驗ヲ語ル熱アル講師ヲ希望ス

四、本施設修了後修了者ニ對スル輔導計畫ノ報告

修了者ニ對シテハ各會社工場等ニ於テ適宜集合ノ機ヲ作リ時事問題經濟問題修養方面又ハ專門知識ノ向上ニ關シ研鑽ヲ怠ラサル樣輔導シ講師ノ招聘ニ關シテハ縣市當事者共ニ之ガ斡旋ヲナスコトトセリ

五、本施設ニ對スル會社工場管理者並一般社會ヨリノ感想批評ノ報告

會社工場主ヨリハ有益ナル施設トシテ感謝サレ或ル工場ノ如キハ遠距離ニツキ毎日乘合自動車ニテ生徒ヲ送リ迎ヘシテ缺席ヲ防止シ或ル會社ニテハ夜勤手當ヲ支給シテ出席ヲ奬勵セリ尙一般社會ヨリハ大イニ有意義ナリトシテ好評ヲ得タリ

六、講師指導員事務取扱等ノ感想報告

イ、講師ハ受講者ノ熱心ナル態度ニ感激シ多ク四十分位ハ時間ヲ延長シ講義ヲ續ケラレ講師ト生徒トノ精神的結合ト人格ノ接觸ニマデ進ミ實ニ麗ハシイ場面ヲ展開セリ

ロ、指導者ハ生徒ノ自治的訓練ト心身ノ鍛練情操ノ陶冶ニ意ヲ用ヒ彼等ニ生活指導原理ヲ把握セシムル樣努力シ相當ノ反響アリタルヲ認ム

ハ、事務取扱上カラハ科目並講師ノ選擇ニ苦心セル結果生徒ノ出席率良ク本施設ノ效果大ナリシコトヲ認ム

七、詳細ナル決算報告

（省略）

八、募集要項其他

（省略）

九、本施設ノ事務取扱ノ職氏名

新潟縣社會課長　田中唯重

新潟縣社會教育指導員　白川寅吉
新潟市學務課長　高橋林吉

以上

一〇六

石川縣

委嘱先　石川縣
開設地　金澤市

委嘱先　石川縣

施設概覽

開設地	會場	期間	科目數	延時間數	生徒 申込者	生徒 許可者	生徒 修了者	生徒 皆出席者	生徒 修了歩合	關係者 講師	關係者 委員	關係者 指導者	關係者 事務取扱
金澤市	金澤市兼六會館	六	七	二二	九九	九九	八三	五六	八二・八三	七	一	一	三

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回數	時間數	備考
金澤市	十月二日 月曜 自午後七時—至十時	國民精神	師範學校長 中島正勝	一	三	
	同三日 火曜 同	公民法制	公立中學校教諭 吉田他吉	一	三	
	同四日 水曜 同	經濟知識	公立實業學校長 高橋潜藏	一	三	
	同五日 木曜 同	日常生活ノ理化學	石川縣師範學校教諭 多々靜次	一	三	
	同六日 金曜 同	勤勞ト信念	門田秀	一	三	
	同七日 土曜 同	宗教ト生活	石原堅正	一	三	
	二日、四日、六日	體操	體育運動主事 西田長治郎	三	二	開講前後

福井縣

委嘱先　福井縣
開設地　福井市

一、事務取扱ノ職氏名

社會教育主事　福田喜作
石川縣屬　東重知
石川縣社會教育主事補　小島喜祐

年齡別調

開設地	生徒數	二十歳未滿	自廿一歳至廿五歳	自廿六歳至三十歳	自卅一歳至卅五歳	自卅六歳至四十歳	自四十一歳至四十五歳	自四十六歳至五十歳	自五十一歳至五十五歳	至五十六歳至六十歳	備考
金澤市	一〇〇%九九	二六(一)二六%	三三(一)三三%	一三%	九%	六%六	九%九	二%二	一%一	—	

學歷別調

開設地	生徒數	不就學者	小學校卒業	小學校半途退學	高等小學卒業	補習學校卒業	中等學校半途退學	中等學校卒業	專門學校半途退學	專門學校卒業以上	備考
金澤市	一〇〇%九九	—	—	四%四	七六(一)七六%	六%六	二%二	二(一)二%	—	—	

職業別調

開設地	生徒數	窯業	金屬機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	木工業	交通運輸業	其他	備考
金澤市	一〇〇%九九	八%八	一%一	二〇%二〇	一%一	七%七	五%五	四%四	二%二	三三(一)三三%	

委囑先福井縣

施設概覽

開設地	會場	期間	科目數	延時數	生徒數		關係者數	
					申込者	許可者	修了者	皆出席者修了歩合	講師	事務取扱
福井市	福井商工會議所	五	四	一五	五八	五八	四六	一七	七九	四	三

講師及講義題目一覽

會場	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回數	時間數	備考
福井商工會議所	二月十四日（水）自午後七時至同十時	社會生活ト法律	福井縣屬法學士 林一夫	二	五	
	二月十五日（木）自午後七時至同九時					
	二月十五日（木）自午後九時至同十時	非常時局ト國民精神	福井縣社會教育主事 關根恒作	二	四	
	二月十六日（金）自午後七時至同十時					
	二月十七日（土）自午後七時至同十時	保健ニ關スル問題	福井縣學校衞生技師 小泉馨	一	三	
	二月十八日（日）自午後七時至同十時	職業指導上ノ諸問題	福井職業紹介所長 松島格太郎	一	三	

年齡別調

開設市	生徒數	二十歲未滿	自二十一歲至二十五歲	自二十六歲至三十歲	自三十一歲至三十五歲	自三十六歲至四十歲	自四十一歲至四十五歲	自四十六歲至五十歲	自五十一歲至五十五歲	自五十五歲至六十歲	備考
福井市	五八	八	二九	三	三	三	一	二	—	—	

學歷別調

開設地	不就學者	小學校半途退學	尋小卒業	高小卒業	補習學校卒業	中學校半途退學	中學校卒業	專門學校半途退學	專門學校卒業以上	計	備考
福井市	—	一	一八	三五	三	一	—	—	—	五八	

職業別調

開設地	窯業	金屬工業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	皮骨革甲木竹類等工業	飲食料品嗜好品業	被服身乃廻り品製造業	土木建築業	製版印刷本業	學藝娛樂裝飾品業	瓦斯電氣業	鑛業	交通運輸業	其他ノ計	備考
福井市	—	三	五	七	一七	—	二	三	二	五	七	一	一	—	一	四	五八

一、實施準備

昨年本縣ニ於テ開設ノ第一回勞務者講座ハ當地方ノ產業狀態ニ鑑ミ織物工場勞務者ヲ目標トシテ計畫セシモ本年度ニ於テハ一般勞務者ヲ目標トシ會場ニハ市中央部ノ福井商工會議所ヲ之ニ充テ且講義科目モ生活指導ニ重キヲ置キ計畫セリ

受講者募集ニ關シテハ別紙「講座要項」ヲ多數印刷シ工場市町村役場學校等ニ配付シ尙縣下各新聞紙上ニ詳細發表シテソノ趣旨ノ普及ニ努メタリ

二、受講者ノ狀況

開期中ハ昨年同樣積雪多量天候惡ク通學ニ不便ナリシモ出席者ハ皆熱心ニシテ平常勉學ノ機ヲ與ヘラレズ智識慾ニ渴シタル者ノミガ持ツ眞劍ナル受講振リナリキ

尙別冊「働キツヽ思索スル者ヘ」ニ勅語ヲ初メトシ御製或ハ興國詩篇朗誦文果テハ青年受誦歌ヲ編輯シ國民精神、講述ノ資料トシテ各受講者ニ配付セリ右ニ依リ講義ノ前後休憩時間等ヲ利用シ註釋朗誦等ヲナシ生活指導ノ一資トナシタリ

三、修了者ニ對スル輔導計畫

右ニ關シテハ具體的計畫ハナキモ各講師ニ對シ修了者ヨリノ相談等ニ對シテハ生活指導ノ任ニ當ラレンコトヲ依賴シ置キ修了者又各々連絡ヲ取リ相互扶助ノ社會道德ニ依リ生活向上ニ努ムベク指示シタリ

四、受講者ノ感想

受講者ノ感想中主ナルモノヲ抄錄スレバ次ノ如シ

1・勉學ノ機ヲ與ヘラレザル者ニトツテ今回ノ講座ハ實ニ闇ノ中ノ灯ノ如ク感ゼラレタ

2・「働キツヽ思索スル者ヘ」ノパンフレツトハ從業中最モ或ハ健全ナル吟詩朗誦等ヲナシ從來軟弱ナル流行歌放唱ノ弊ヲ矯メ誠ニ有難

イ、友人ニ宣傳スル意向ダ

3・各講師ノ熱心ナル御講述ニ依リ非常時相、常識等ニ付キ啓發サルル所多大デアツタ

五、本施設ノ事務取扱ノ職氏名

福井縣屬　村上九八郎　福井縣屬　山本友太郎

福井縣社會事業主事補　戸田季太郎

長野縣

委嘱先　長野縣
開設地　諏訪郡平野村岡谷

委囑先長野縣

施設概覽

開設地	會場	期間	科目數	延時間數	生徒數					關係者數	
					申込者	許可者	修了者	皆出席	修了歩合	講師	事務取扱
諏訪郡平野村岡谷	諏訪製糸研究會	昭八、一〇・二五—一〇・二九	五	一五	二三〇	二三〇	二三一	二三一	九九%	五	二

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回數	時間數	備考
岡谷	十月二十五日(水)後七時	經濟	松本高等學校教授 島準人	一	三	
	同 二十六日(木)同	日本國民精神	長野縣社會課長 坂田喜一郎	一	三	
	同 二十七日(金)同	宗教道德	硯水寺住職文學士 宮坂喆宗	一	三	
	同 二十八日(土)同	國際事情	長野縣囑託 岡田銘太郎	一	三	
	同 二十九日(日)同	勞務者生活ノ眞髓	日本勞務者協會 氏家貞一郎	一	三	

年齢別調

開設地	生徒數	二〇歳未滿	自二一歳至二五歳	自二六歳至三〇歳	自三一歳至三五歳	自三六歳至四〇歳	自四一歳至四五歳	自四六歳至五〇歳	自五一歳至六〇歳	六一歳	備考
岡谷	三二	三%八	二四%五三	二五%五六	二七%六〇	九%二〇	八%一八	一%三	一%三	—	

學歷別調

開設地	生徒數	不就學	小學校中途退學	尋常小學卒業	高等小學卒業	實業補習學校、業學校	中等學校半途退學	中等學校卒業	專門學校半途退學	專門學校卒業以上	備考
岡谷	三三	—	—	二% 二五	六二% 一三五	八% 一八	二% 五	一五% 三五	—	一% 三	

職業別調

開設地	生徒數	纖維工業	其他ノ工業ハナシ	備考
岡谷	三三	三二	一	

一、本施設ノ準備、狀況、效果等ニ關スル事項

本施設ノ準備ニツイテハ縣工場課ト聯絡シ、更ニ會場タル諏訪郡平野村岡谷ニ事務所ヲ有スル諏訪製糸研究會ニ聯絡シ、縣側及民間側關係者ノ意見ヲ纏メ、ソノ遂行上遺憾ナキヲ期シタリ

講座ノ狀況ニ就テハ概シテ他ノ諸講座等ニ於テ見ラレザル眞摯ナル態度ヲ以テ受講セルタメ緊張シタル空氣ヲ維持スルヲ得タリ特ニ集合解散ハ靜肅敏速ニ遂行セシメ集合並開會時刻等ノ如キハ毎日最モ嚴格ニ勵行シ、工場勞務者ノ時間勵行觀念ヲ徹底的ニ訓練シ得タリト信ズ

ソノ效果ニ至リテハ別紙受講生ノ感想等ニ之ヲ見ルモ相當見ルベキモノアリト信ズ

更ラニ受講生ノ質ノ程度良好ナリシハ一層之ガ成果ヲ大ナラシメシ一理由トスルニ足ルベシ

二、本施設修了後修了者ニ對スル輔導計畫

勞務者教育協會々員ヲ募集シ、ソノ數相當程度ニ達シタレバ同協會支部ヲ設置スルコトトス、ソノ正式設立ハ後日ニ讓ルコトトシタルモ、取敢ヘズソノ準備事務ヲ諏訪製糸研究會ニ一任シタリ、近キ將來ニ於テソノ正式手續ヲトル樣指導シタリ

從ツテ修了後ノ輔導計畫ハコノ支部ニヨルヲ適當ト認ム

三、本施設ニ對スル會社工場管理者並一般社會ヨリノ感想、批評

本施設修了直後研究會側並管理者中有志ト引續キ懇談ノ機ヲ作リ、協會側氏家貞一郎氏ノ出席ヲ得テ種々ノ意見ヲ交換シタリ、具體的ニ確リタル意見ヲ得ルニ至ラザリシモ、一般ニ本施設ノ每年開催ヲ熱望セルヲ見ルモ、之ガ效果ニ對スルコノ方面ノ期待相當大ナルモノアリト認ム

四、講師、指導員、事務取扱等ノ感想

(一) 講師ノ感想中主ナルモノ

1・半時間ニテモ一時間ニテモ執務時間ヲ工場側ニテ受講生ノタメニ與フルコトガ受講生ニトリテ非常ナル好結果テモタラスベシ、之ハ工場側ノ都合ニヨリ困難ナル事項ト思料セラルレトモ、出來得レバカヽル點マデ管理者側ノ積極的ノ態度ヲ希望ス

2・將來ニ於ケル輔導計畫ヲ充實スルコト

3・將來繼續的ニ實施スベシ

(二) 事務取扱ノ感想

1・經費ノ充實ヲ期シ、各費目間ノ融通ヲ或程度緩和スルコト特ニ講師費ヲ增加スルコト

2・勞務者教育協會ヨリパンフレツト其ノ他印刷物ヲ配布セラレタク、講習期間中ニ適宜配布スルハ誠ニ適切ナル方法ナリト認ム

3・將來繼續セラレムコトヲ熱望ス

三、事務取扱ノ職氏名

社會教育主事　諏富元三郎　　長野縣屬　山際三郎

岐阜縣

委囑先

開設地

大岐岐

垣阜阜

市市縣

委囑先岐阜縣

施設概覽

開設地	會場	期間	科目數	延時間數	生徒 申込者	生徒 許可者	生徒 修了者	生徒 皆出席者	生徒 修了歩合	關係者數 講師	關係者數 委員	關係者數 指導員	關係者數 事務取扱
岐阜市	市外加納町岐阜縣女子師範學校	自十一月五日至同十日	七	一五	三五四	三五四	三五一	三五〇	九九%	七	—	—	四
岐阜市	本郷町本郷小學校	自十一月五日至同十日	七	一五	二一九	二一九	二一九	二一三	100%	七	—	—	四
大垣市	郭町大垣高等女學校	自十一月十三日至同十八日	七	一五	四八一	四八一	四七八	四七六	九九%	七	—	—	四
大垣市	不破郡關原町大日本紡績關ケ原工場	自十一月十三日至同十八日	七	一五	三五二	三五二	三五二	三四五	100%	七	—	—	四
岐阜市（第一會場）		十一月六日（月）自午後三時半至同六時半	七	一五	一、四〇五	一、四〇五	一、三九九	一、三八四	100%	七	—	—	四
		十一月六日（月）前	七	一五	三五四	三五四	三五一	三五〇	九九%	七	—	—	四
		十一月七日（火）前	七	一五	二一九	二一九	二一九	二一三	100%	七	—	—	四
		十一月八日（水）前	七	一五	四八一	四八一	四七八	四七六	九九%	七	—	—	四

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回數	時間數	備考
岐阜市（第一會場）	十一月六日（月）自午後三時半至同六時半	女子公共生活訓練	岐阜縣工場課長 小幡治和	一	一、三〇	
	十一月六日（月）前	女子青年トシテノ修養	岐阜縣社會教育主事補 桑原新一	一	一、〇〇	
	十一月七日（火）前	衣類ノ智識	岐阜縣工業試驗場長 高田覺	二	二、三〇	
	十一月八日（水）前	鄉人輔神衛生	岐阜縣腦病院長 安藤守元	二	二、三〇	

	十一月九日（木）同前	時局ト婦人	陸軍歩兵大佐 若宮一三	二	二、三〇	
	十一月十日（金）同前	日本精神	岐阜縣社會教育課長 森田良克	二	二、三〇	
	六日間 毎日三十分間宛	音樂	岐阜縣女子師範學校 教諭 松田鐵雄	五	二、三〇	
	六日間	七科目	七名	一五	一五	
岐阜市（第二會場）	十一月六日（月）自午後六時半至同九時半	女子公共生活訓練	岐阜縣工場課長 小幡治和	一	一、三〇	
	十一月六日（月）同前	女子青年トシテノ修養	岐阜縣社會教育主事補 桑原新一	一	一、〇〇	
	十一月七日（火）同前	婦人ノ精神衛生	岐阜腦病院長 安藤守元	二	二、三〇	
	十一月八日（水）同前	日本精神	岐阜縣社會教育課長 森田良克	二	二、三〇	
	十一月九日（木）同前	衣類ノ智識	岐阜縣工業試驗場長 高田覺	二	二、三〇	
	十一月十日（金）同前	時局ト婦人	陸軍歩兵大佐 若宮一三	二	二、三〇	
	六日間 毎日三十分間宛	音樂	岐阜縣女子師範學校 教諭 松田鐵雄	五	二、三〇	
	六日間	七科目	七名	一五	一五	
大垣市（第一會場）	十一月十三日（月）自午後六時至同七時	女子公共生活訓練	岐阜縣工場課長 小幡治和	一	一、〇〇	
	十一月十三日（月）同七時至同八時半	女子青年トシテノ修養	岐阜縣社會教育主事補 桑原新一	一	一、三〇	
	十一月十四日（火）自午後六時至同八時半	衣類ノ智識	岐阜縣工業試驗場長 高田覺	二	二、三〇	
	十一月十五日（水）同前	音樂	岐阜縣女子師範學校 教諭 松田鐵雄	二	二、三〇	
	十一月十六日（木）同前	日本精神	岐阜縣社會教育課長 森田良克	二	二、三〇	
	十一月十七日（金）同前	時局ト婦人	陸軍歩兵大佐 若宮一三	二	二、三〇	
	十一月十八日（土）同前	家庭衛生及救急療法	岐阜縣學校衛生技師 中山福富	二	二、三〇	

	六日間	七科目	七名	一三	一五	
大垣市（第二會場）	十一月十三日（月）自午前九時至同十時	（第一會場ニ同ジ）	（第一會場ニ同ジ）	一	一、〇〇	
	十一月十三日（月）自同十時至同十一時半			一	一、三〇	
	十一月十四日（火）自午前九時至同十一時半			二	二、三〇	
	十一月十五日（水）同前			二	二、三〇	
	十一月十六日（木）同前			二	二、三〇	
	十一月十七日（金）同前			二	二、三〇	
	十一月十八日（土）同前			二	二、三〇	
	六日間	七科目	七名	一三	一五、〇〇	

年齢別調（全部婦人）

開設地	生徒數	二十歳未滿	自廿一歳至廿五歳	自廿六歳至卅歳	自卅一歳至卅五歳	自卅六歳至四十歳	自四十一歳至四十五歳	自四十六歳至五十歳	自五十一歳至六十歳	六十一歳以上	備考
岐阜市（第一會場）	三五一	一四七	一九一	五	七	—	一	—	—	—	
岐阜市（第二會場）	二一九	九四	一〇五	一五	二	二	一	—	—	—	
大垣市（第一會場）	四七八	二〇八	二四九	一四	四	二	一	—	—	—	
大垣市（第二會場）	三五一	二七五	七二	三	—	—	一	—	—	—	
計	一、三九九 100%	七二四 五一・八%	六一七 四四・一%	三七 二・六%	一三 〇・九%	四 〇・三%	四 〇・三%	—	—	—	

學歷別調（全部婦人）

開設地	生徒數	不就學者	小學校半途退學	尋常小學卒業	高等小學卒業	補習學校卒業	中等學校半途退學	中等學校卒業	專門學校半途退學	專門學校卒業以上	備考
岐阜市（第一會場）	三五一	—	—	二四四	五二	三五	三	一五	—	二	
岐阜市（第二會場）	二一九	—	—	一七五	三七	—	一	四	—	二	
大垣市（第一會場）	四七八	—	六	三六五	九九	—	一	三	—	四	
大垣市（第二會場）	三五一	—	一四	二七六	五九	—	—	—	—	二	
計	一、三九九 100%	—	二〇 1・五%	一、〇六〇 七五・七%	二四七 一七・六%	三五 二・五%	五 〇・四%	二二 一・六%	—	一〇 〇・七%	

職業別調（全部婦人）

開設地	生徒數	纖維工業	備考
岐阜市（第一會場）	三五一	三五一	
岐阜市（第二會場）	二一九	二一九	
大垣市（第一會場）	四七八	四七八	其他職業無シ
大垣市（第二會場）	三五一	三五一	
計	一、三九九 100%	一、三九九 100%	

一、本施設ノ準備、狀況、效果等ニ關スル事項ノ報告

1・縣下ニ於ルヶ各工場ノ工場長ヲ集合セシメ懇談的ニ協議ヲナシ各工場ニ於ケル作業ノ都合ニヨリテ四ヶ所ニ分チ開設時間ヲ按配シテ開講スルコト、セリ

2・夜間ニ於ケル會場ニハ照明設備並ニ保溫設備ニ留意シ落付キテ而モ愉快ニ受講セシメムコトニ留意セリ

3・講習員ハ殆ド皆出席ニテ終始緊張シ愉快ニ受講セリ

4・本講座ニ依リ受講者ノ精神上ニ及ボセル效果甚大ナルヲ認ム

二、講義ニ對スル質疑應答ノ內容、生徒ノ感想、論文、演習等ニ對スル報告

1・日本精神及精神修養方面ノ講義並日常生活ニ關係深キ衛生方面ノ講義ハ特ニ興味ヲ持チ熱心ニ受講セリ

2・音樂ノ學習ハ喜ンデ受講セリ

3・受講生ノ感想文ヲ募集シタルニ筆ヲ揃ヘテ本講座ノ開講ヲ喜ビ出來得レバ年數回宛開講セラレンコトヲ希望セリ

4・全員開講時間前ニ集合シ遲刻スル等ノ事無ク極メテ熱心ニ受講セルヲ認ム

三、懇談會、討論會、遠足、見學等ニ關スル報告

今回ハ實施セザリシテ以テ記載スベキ事項ナシ

四、本施設備了後修了者ニ對スル輔導計畫ノ報告、

1・本講座開設ニ當リ各工場長協議會ニ於テ受講者人選方ニツキ充分注意セシメ各工場ニ於ケル中堅人物ヲ選出申込ヲナサシメ修了後ハ工場會社ニ於テ同僚ニ之ヲ傳フルハ勿論卒先衆ニ先ンジテ模範的ノ行動ヲナサシムル樣注意セリ

2・受講者ヲシテ日本勞務者教育協會ノ會員トシテ勞務者講座又ハ日本勞務者ヲ購讀セシメ聯絡提携シテ修養ニ精進セシムベク工場長ニ援助方ヲ督勵セリ

五、本施設ニ對スル會社工場管理者並一般社會ヨリノ感想批評ノ報告

1・會社工場管理者ノ感想批評

本講座開設ヲ非常ニ喜ビ受講者出席ニツキテモ便宜ヲ與ヘ競ツテ出席セシメタリ且ツ又受講者各自ガ日々歸社毎ニ受講者トシテ派遣セラレシヲ感謝シツヽ言語態度マデ變リテ他ノ人ヲ指導誘掖セル狀況ヲ見テ感謝ノ意ヲ表セリ

2・一般社會ヨリノ感想批評

全受講員ガ時間ヲ勵行シテ集合シ終始眞摯ナル態度ヲ以テ受講シ喜ビ勇ミテ歸ル樣ニ有益ナル講座ナルコトヲ激賞シツヽアリ

六、講師指導員事務取扱等ノ感想報告

1・各講師トモ受講員ノ熱心ナル態度ニ感激シ思ハズ講義時間ノ延長スルヲ常トセリ

2・各講師事務取扱共非常ニ有意義ナル講座ナルヲ喜ビ將來モ是非本施設ノ繼續擴張サレンコトヲ主張セリ

七、本施設ノ委員指導員事務取扱ノ職氏名

（委員、指導員無シ）

事務取扱

岐阜縣屬兼視學　太田健治郎
岐阜縣屬　伊藤靜衛

岐阜縣社會教育主事補　桑原新一
岐阜縣屬兼警部　蒲勝佐

以上

愛知縣

委囑先　愛知縣
開設地　一宮市

委囑先愛知縣

施設概要

開催地	會場	科目數	延回數	延時間數	生徒			關係者數		
					申込者	許可者	修了者	委員	講師	指導者事務取扱
一宮市	市廳會	六	八	三	一六二	一六二	一〇六	一〇六	六六%	一	六	一	三

講師及講義題目一覽

會場	期日、曜日、時間	講義科目	講師職氏名	回數	時間數	生徒數	備考
一宮市廳會	十二月八日（金） 十二月十一日（月） 自午後七時二〇分至九時二〇分	日本精神ノ眞髓	存養社長 安藤秋三郎	二	四	八日 一二七 一日 一二四	
	十二月十三日（水） 自午後七時二〇分至九時二〇分 十二月十八日（月） 自午後八時二〇分至九時二〇分	俳句ノ作リ方ト味ヒ方	俳人 小峯大羽	二	三	一三日 一二四 八日 一二三	
	十二月十五日（金） 自午後七時二〇分至九時二〇分 同十八日 自午後七時二〇分至八時二〇分	我國纖維工業ノ問題	名古屋高商教授 酒井正三郎	二	三	一五日 一二三 八日 一二三	
	十二月二十日（水）二十二日（金）二十三日（土） 自午後七時二〇分至九時二〇分	勞務者ノ生活目標	縣社會教育主事 友清辰雄	三	六	二〇日 一二四 二三日 一二八 二三日 一二三	
	自十二月八日至二十三日 （月水金） 自午後七時至七時二〇分	音樂	一宮第二小學校訓導 永井鼎	八	三	八日 一二七 一二日 一二四 一五日 一二三 一八日 一二三 二〇日 一二四 二三日 一二八 二五日 一二三	永井、高井兩講師共同數
	自十二月八日至二十三日 （月水金） 自午後九時二〇分至九時五〇分	體操	一宮高等女學校教諭 高井健	八	三		

計			六	六	二五	三	一〇四	

年齢別調

會場	二十歳未満	自二十一歳至二十五歳	自二十六歳至三十歳	自三十一歳至三十五歳	自三十六歳至四十歳	自四十一歳至四十五歳	自四十六歳至五十歳	計	備考
一宮市廳舍	二八	四八	三四	二五	三	二	二	一六一	

學歴別調

會場	不就學者	小學校半途退學	尋常小學卒業	高等小學卒業	補習學校卒業	中等學校半途退學	中等學校卒業	専門學校半途退學	専門學校卒業以上	計	備考
一宮市廳舍	一	一	五七	三五	七	二	二七	八	八	一六一	

職業別調

會場	窯業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	皮革骨甲木竹類等工業	飲食料品嗜好品業	被服身廻品製造業	土木建築業	製版印刷製本業	學藝娛樂裝飾品業	瓦斯電氣業	鑛山業	交通運輸業	其ノ他	計	備考
一宮市廳舍	—	—	—	一六一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一六一	

一、本施設ノ準備、狀況、效果等ニ關スル事項ノ報告

イ、準備

開催地タル一宮市附近ノ實情ニ適應セル講座ヲ開催センガタメ十一月二十日午後一時ヨリ市役所ニ至リ係員ノ協議會ヲ開催シ縣警察部工場課ト聯絡ヲ採リ職工五十名以上ヲ有スル會社ニ宛テ趣意書及勧誘書ヲ發附スルト共ニ係員手分ノ上講習員募集ニ着手ス

ロ、狀況及效果

開催趣意不明ノ所ハ電話及文書ヲ以テ努力シタル結果募集一〇〇名豫定シタル所一六一名ノ多數受講者ヲ得タリ

二、講義ニ對スル應答ノ内容等ニ關スル報告

聽講生ニシテ質疑ヲ生スル場合ハ隨時講師室ニテ應答シタル外代表的ノモノハ一般講習生ノ前ニテ應答シ俳句ノ如キハ各員自作セシメ講師ノ添削批評ヲ加ヘ縣工場課發行ノ産業雑誌ニ掲載スルコトトセリ

三、懇談會、討論會、遠足、見學等ニ關スル件

開催ガ夜分ノ事ト開催時日短キ爲試ミル餘裕ヲ有セザルヲ甚ダ遺憾トス

四、本施設修了後修了者ニ對スル補導計畫ノ報告

年一回適當ナル時機ヲ見計ラヒ一堂ニ會シ懇談會又ハ遠足、見學等ヲ開催シ補導ノ實績ヲ擧ゲムトス

五、本施設ニ對スル會社、工場管理者並一般社會ヨリノ感想、批評等ノ報告

當地方ノ會社及工場管理者ハ資本家氣質ヲ多分ニ有シ勞務者ヲ比較的低級ニ取扱ヒ居ルモ本講座ニ對シテハ非常ナル成果ヲ得タリ

六、講師、指導員、事務取扱等ノ感想ノ報告

本講座ヨリ判斷スルトキ當地方ニ於ケル勞務者教育ハ勞資双方ニ對シ徹底的ニ行ハザルベカラザルモノト考フルモ就中勞務擔當者ノ教育ヲ第一トス然シ從來全ク閑却サレ來リシ勞務者ノ教育ガ本地方ニ於テ有效ニ開催セラレシハ勿論資本家ニ於テモ與ヘラレタル所多シ

七、募集要項、講義要項其他施設ニ關スル配布物ノ一括添付　（省略）

八、本施設事務取扱ノ職氏名

事務取扱　愛知縣屬　矢野秀雄　愛知縣囑託　鵜山眞成　一宮市書記　中島賢治

京都府

委囑先　京都府

開設地　京都市

委囑先京都府

施設概覽

開設地	會場	期間	科目數	延時間數	生徒 申込者	生徒 許可者	生徒 修了者	生徒 皆出席者	生徒 修了歩合	關係者數 講師	關係者數 委員	關係者數 指導者	關係者數 事務取扱
京都市	惠藏寺	自三月十日至三月十二日	六	一八	四四	四三	四三	四三	一〇〇・〇〇	六	一	一	三

講師及講義題目一覽

開設地	期日、曜日、時間	講義題目	講師職氏名	回數	時間數	備考
京都市東山區本町十五丁目 東福寺	三月十日（土）自午後一時至午後四時	生活ト信仰	京都帝國大學助教授 羽渓了諦	一	三	外ニ夜間二時間（午後七時ー九時）研究座談會ニ出席
	三月十一日（日）自午前九時至午前十二時	國難ト日本精神	京都帝國大學助教授 中村直勝	一	三	
	三月十一日（日）各日午前八時ー九時	勞務者教育管見	京都府社會教育主事 八木理三	二	二	
	三月十一日（日）午後一時ー四時 三月十二日（月）午前九時ー十一時	我國產業ノ世界的進出ニ就テ	京部帝國大學教授 谷口吉彥	二	五	外ニ夜間二時間（午後七時ー九時）研究座談會ニ出席
	三月十二日（月）午前十一時ー十二時 午後一時ー二時	趣味園藝ニ就テ	京都植物園技師 野間守人	一	二	
	三月十日（土）午後四時ー五時 三月十一日（日）午前七時ー七時半 午後四時ー五時 三月十二日（月）午前七時ー七時半	勞務者保健體操ト音樂	京都府工業聯合會體育指導員 横島良輔	四	三	

年齢別調

開設地	生徒數	廿歳未滿	自廿一歳至廿五歳	自廿六歳至三十歳	自卅一歳至卅五歳	自卅六歳至四十歳	自四十一歳至四十五歳	自四十六歳至五十歳	自五十一歳至六十歳	六十一歳以上	備考
京都市	四三 100%	六 一四%	五 一二%	八 一九%	八 一九%	六 一四%	四 10%	四 10%	一 二%	—	

學歷別調

開設地	生徒數	不就學者	小學校半途退學	尋常小學卒業	高等小學卒業	補習學校卒業	中等學校半途退學	中等學校卒業	專門學校半途退學	專門學校卒業以上	備考
京都市	四三 100%	—	—	五 一二%	一八 四三%	—	一 二%	一四 三三%	—	四 10%	

職業別調

開設地	生徒數	窯業	金屬工業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	紙工業	皮革骨甲木竹類等工業	飲食料品嗜好品業	被服身廻品製造業	土木建築業	製版印刷業	學藝娛樂装飾品業	瓦斯電氣業	鑛業	交通運輸業	其他	備考
京都市	四三 100%	一 二%	—	六 一四%	四 10%	一七 四〇%	—	—	四 10%	—	—	—	—	二 五%	—	—	八 一九%	

一、本施設ノ準備、狀況、效果等ニ關スル事項

1、準　備

職工百名以上ヲ有スル五五工場ノ勞務者敎育擔當者ノ會合ヲ求メ二月二十三日午後一時ヨリ本講座開設ニ關スル協議會ナ開キ日程、科目實施方法等ニ付協議ヲ遂グ二十六工場及京都市役所ニ於ケル關係各員京都市商工專修學校長ノ出席アリ本府提示ノ要項案通リ實施ノ事ニ決定ス

會場選定ニ當リテハ京都市内ニ於ケル數ケ寺ヲ視察シ閑靜ニシテ而モ附近ニ工場多キ東福寺ヲ選定セリ

2、狀　況

左記ノ日程ニ基キ共同宿泊ニヨリ修養講習會ヲ行ヒ三月十日午前十一時福永學務課長臨席ノモトニ開講式ヲ擧行ス矢盛京都府工場監督官及則包京都市商工專修學校長ノ祝辭アリ、事務取扱一谷社會敎育主事補ハ共同生活指導ノ任ニ當リ鹽見社會敎育主事補ハ萬般ノ準備斡旋ヲナス

夜間ハ二夜トモ八時迄羽溪及谷口講師ヲ中心トシ研究懇談會ヲ設ケ講師ト講習生トノ接觸ヲ計リ且ツ音樂體操舞踊ヲ加味シ共同生活ニ潤ヒアラシメシタメ受講者ハ何レモ眞劍ナル態度ヲ保チ而モ和氣靄々ノ裡ニ修養ニ勉メタリ、三月十二日午後二時福永學務課長臨席ノモトニ閉講式ヲ擧行シ修了證書ヲ授與シ一名ノ事故者モナク無事終了セリ

時	第一日 三月十日(土)	第二日 三月十一日(日)	第三日 三月十二日(月)
6–8		起床 朝ノ行事 體操 音樂 朝食	起床 朝ノ行事 體操 音樂 朝食
8–9		八木講師	八木講師
9–10		中村講師	谷口講師
10–11	受付	中村講師	谷口講師
11–12	開講式	中村講師	野間講師
12–1	晝食	晝食	晝食
1–2	羽溪講師	谷口講師	野間講師
2–3	羽溪講師	谷口講師	閉講式
3–4	羽溪講師	谷口講師	
4–5	體操 音樂	體操 音樂	
5–7	入浴 夕食	入浴 夕食	
7–9	羽溪講師中心研究座談會	谷口講師中心研究座談會	
9–10	夜ノ行事 就寢	夜ノ行事 就寢	

朝ノ行事　皇大神宮及皇居遙拜　靜座　朗誦　體操　掃除

夜ノ行事　皇大神宮及皇居遙拜　朗誦

3、效　果

本講座ヲ宿泊講習トシ單ニ知識的ノモノタラシメズ併セテ德育的體育的タラシメント受講者ノ多クガ平生ノ騷然タル生活ヨリ離レテ靜寂ナル環境ニアリテノ修養ナリシタメ身心ヲ鍛練シ人格ノ向上ニ相當效果アリシモノ、如シ

二、講義ニ對スル質疑應答ノ內容聽講者ノ感想論文演習等ニ關スル事項

講義ニ對スル質疑應答ハ概シテ少ナカリシチ夜間ニ於ケル研究懇談會ニ於ケル質疑應答ノ主ナルモノ左ノ如シ

羽溪講師ヲ中心トセルモノ

一、信仰ノ道ニ入ル方法ハドウスレバヨイカ

二、悟リトヘドウイフコトヲイフノカ
三、孝行トヤ正直ヲヤルタメ盗ガ惡ヲ犯セル場合ヲハ直ニ訴ヘ出ツベキカ
四、正神ト邪神ノ差目ハ何處デワケルカ
五、死切ヲ覺知スル者アルガドウイフワケカ
谷口講師ヲ中心トスルモノ
一、赤字公債ヲ發行スルト「インフレ」トナルハドウイフワケカ
二、低率裁制經濟トハドウイフコトカ
三、裁制經濟トハドウイフコトカ
四、裁制經濟ニ於テハ官業ト民業ト何レヲ利トスルカ
五、金ヨリ物トイフコトハドウイフコトカ
六、裁制經濟ガ徹底スルト物價ノ調節ガトレナクナルト思フガドウカ
七、貯金スルトイフコトハ一家一村ニアリテハヨロシキ樣ニ思ハレルモ國家トシテハドウデアルマ
八、金利ノ動キハ或程度迄行クトマダ元ニ還ルモノカ
九、或反政策トハドウイフコトカ

聽講者ノ感想別紙ノ通リ　（省略）

論文演習等實施セズ

三、懇談會討論會遠足見學等ニ關スル事項

想談會ニ付テハ二項ニ記セル如ク有志、谷口講師ヲ中心トセル研究懇談會ヲ實施セル外日本勞務者協會ノ趣旨ヲ述ベ入會ヲ奬勵セリ

四、本施設修了後修了者ニ對スル補導計畫

修了者ヲシテ東福寺同盟會ヲ組織セシメ委員四名ヲ擧ゲ別紙ノ通リノ會則ヲ設ケ斯敎育施設ノ助長ニ資セシントス

五、本施設ニ對スル會社工場管理者並一般社會ヨリノ感想批評

實施團設中京都織物烏津製作所京都商工專修學校其他工場ヨリ幹部數名見學參觀シ和氣藹々裡ニ熱心受講セル樣子ヲ實見シ多大ノ期待ト稱讚ヲナシ將來モ年々繼續シテ開設セラレタキ希望申出アリタリ

六、講師、指導員、勞務取扱等ノ感想

1、講師

ナリシトハ各講師トモ共通ノ感想ナリキ

2、指導員

共同生活指導上大體年齡ヲ一定スルノ要アリ

感想モ右ショリ感而目ニ且ツ敬虔ナル態度ヲ以テ受講シ便所掃除其他法務等ノ作業ヲ通ジテ又年齡ノ差違アルニモ不拘作業實施ニ興味ヲ持チシカヲ考ヘ今少シク時間ヲ增スノ要アリトノ感ム

3、勞務取扱

本所社會敎育ニ於ケル最初ノ實施ニ付講師者募集ニハ相當努力セルモ幾定ノ應募者ヲ得ザリシハ遺憾ナリキ、將來實施ニ際シ平素ヨリ聯絡ヲトール必要ヲヤレド受講者ハ感想文ノ記入ニ對スル氣分ヲ助長シ又ハ各講師ノ敎育ニ對スル熱意ヲ見ニ見ル如ク多大ノ感激ヲ以テ受講シ施設ヲ視察シ學ビ得ル點多大ニシテ相互共鳴良風並ニ和協力ノ美風ヲ釀成シタルハ實ニ喜ブベキ事ナリ

七、決算報告　（省略）

八、兼要項講義要項其ノ他本施設ニ於ケル配布物　（別紙）

九、本施設ノ指導員勞務取扱ノ職氏名

指導員兼勞務取扱	京都府社會敎育主事補	一谷孝四郎
勞務取扱	同	豐見晉

附錄

東福寺同盟會則

一、本會ハ會員ノ親睦提携ヲ圖リ併セテ勞務者敎育ノ發達ニ資スルヲ目的トス

二、本會ノ名稱ハ東福寺同盟會トス

三、本會ノ事務所ハ烏津製作所（西村竹次郎）ニ置ク

四、本會ノ會員ハ東福寺ニ於ケル京都府主催勞務者講座受講者ヲ以テス

五、本會役員ニ幹事若干名ヲ置キ會員之ヲ互選ス、其ノ任期ハ一ケ年トス

別ニ本會役員ニ顧問ヲ置クコトヲ得

六、本會ハ年數回總會ヲ開キ其他本會ノ目的ニ適當ナル事業ヲ行フ

七、會費ハ必要ノ場合其都度徵集ス

別ニ他ヨリ金品ノ寄附ヲ受クルコトヲ得

大阪府

委嘱先　大阪府

開設地　堺市